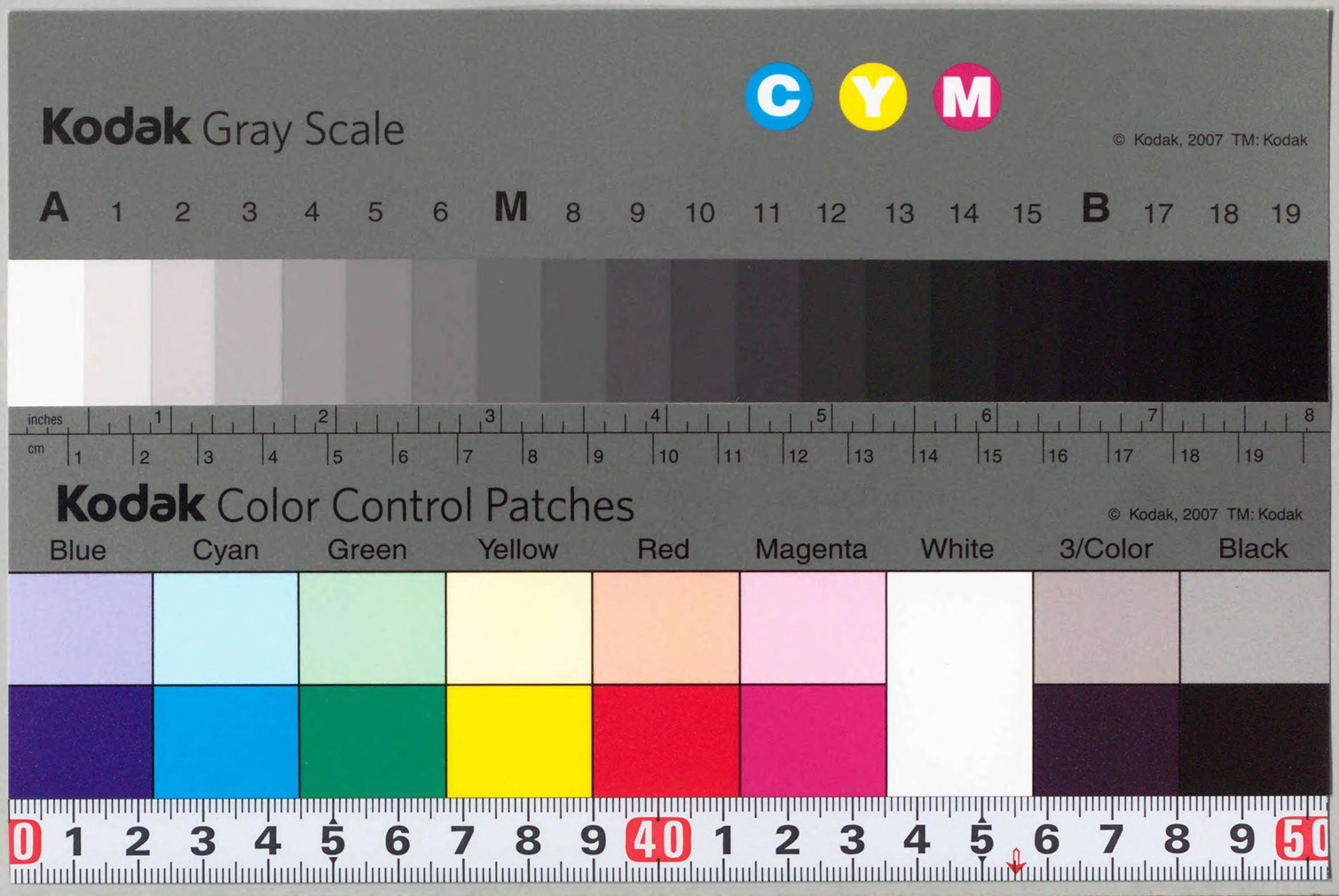

C471-H1
00779195
禁電子式複写

C471
H1

北B21

外國輕便鐵道法規

國立國會圖書館藏書
43.12.17

779195

外國輕便鐵道法規

目次

第一編　佛國地方鐵道諸法規　一
地方鐵道及軌道調査規則　七
地方鐵道竝軌道會計規則　一三
地方鐵道法第三十八條施行規則　五一
地方鐵道免許條件書樣式　九三

第二編　白耳義地方鐵道諸法規　一〇四
地方鐵道警察規則　一〇八
地方鐵道ニ對スル政府ノ社債保證條件　一一二
國立地方鐵道會社ニ付與スヘキ免許規則

第三編　獨逸輕便鐵道諸法規
小鐵道法附錄(甲)

小鐵道施行細則附錄
機關力ヲ備フル輕便鐵道作業規程　一三六
輕便鐵道列車ノ最高速度　一五二
輕便鐵道ニ於ケル運輸上ノ恩惠　一七一
機關力ニ依リ運轉スル市街鐵道警察規程　一七二
貨物運搬ノ用ニ供スル輕便鐵道ニ於ケル運送　一七三
禁制品及條件附運送品　一七六
輕便鐵道ニ本鐵道ノ車輛ヲ超移スル一般條件　一七八
國有鐵道停車場內ニ於ケル輕便鐵道線路ノ引込ニ關スル一般條件　一九〇
第四編　伊國機械動力軌道竝輕便鐵道
法施行規則　二〇八
第一編　機械動力軌道
第二編　輕便鐵道　二三四

外國輕便鐵道法規

第一編　佛國地方鐵道諸法規

○地方鐵道及軌道調查規則（千八百八十年五月十八日）

第一條

公有ニ屬スル道路上ニ馬若シクハ機械力ヲ以テ牽引スル鐵道ノ敷設申請書ハ左ノ官廳ニ提出スヘシ

一　工部大臣　地方鐵道及軌道法第二十七條規定ニ依リ政府ニ於テ免許スル場合

一、縣知事　縣參事會ニ於テ免許スル場合

一、町村長　町村會ニ於テ免許スル場合

第二條

申請書ニハ左ノ圖書類ヲ添付ス可シ

一、八萬分之一平面略圖

二、公道上竝新設道路上ニ敷設スル線路ノ一萬分之一平面圖ニシテ公道兩側ノ諸建物、交叉ス可私道キ公樹木及沿道諸建物ヲ記入シ且ツ着色ヲ以テ單線複線ノ部分、及軌條表面ヲ道路面ト同水平面ニ沈置シテ普通車馬ノ往來シ得ヘキ箇所竝軌條ヲ道路面上ニ排置シテ普通車馬ノ往來シ得サル箇所ヲ明示シ又停車場停留場其他ノ附屬物ノ位置ヲ記入セルモノ

三、長五千分一、高千分之一縱斷面圖ニシテ黑線竝黑色ヲ以テ現在公道ノ勾配ヲ表ハシ赤線竝赤色ヲ以テ鐵道竝鐵道敷設ノ爲メ改修スヘキ道路ノ勾配ヲ表ハシタルモノ

四、縮尺二サンチメートル一メートル橫斷面圖ニシテ道床ノ各部竝車輛定規ヲ附セルモノ此橫斷面圖ハ車馬ノ往來シ得ル部分竝往來シ得サル部分ニモ適用スヘキモノトス

五、線路ヲ敷設スヘキ狹路ノ縮尺五ミリメートル一メートル平面圖

該圖面ハ路性圖ニ準シ調製セルモノニシテ沿道建築物竝其所有者名ヲ記載シ且ツ排水樋ノ位置竝歩道ヲ正確ニ記入スヘシ

又車輛ノ運轉ニ必要ナル部分ハ綠色ノ二線ヲ以テ區別シ其內部ヲ彩色スヘシ

以上諸種ノ區分ハ特ニ道路ノ狹隘ナルモノニシテ運轉區劃ノ幅員、同區劃ト歩道外緣トノ間隔、兩側歩道ノ幅員及運轉區劃ト沿道建築物間ノ間隔ヲ明示スヘシ

第三條

前記諸圖面ニハ起業ノ目的竝ニ收支豫算ヲ記セル說明書ヲ添付シ且ツ建設費消却ノタメ徵收セントスル運賃表ヲ付スヘシ

說明書ニハ項ヲ分チテ左ノ事項ヲ記スヘシ

一、業務、（旅客運送、旅客運送竝小荷物配達若シクハ旅客、貨物運送等ノ別）

二、營業方法（特設停車場ニノミ停車スルモノ若シクハ特設停車場ヘ停車スル外其全線路ニ亘リ隨時停留シ旅客ノ乘降竝貨物（保安ノ規定ニ牴觸セサル種類ノモノ）ノ積卸ヲナス等ノ別）

三、曲線最小半徑

四、最急勾配

五、運轉方法

六、最大車輛幅員（諸種外部突出物ヲ含メルモノ）

七、公私道竝沿線家屋トノ聯絡ニ對スル設備

八、軌道敷ト平地道路ニ於ケル沿道家屋ノ前囘、及築堤道路ニ於ケル法肩トノ最小間隔

九、列車最長限

一〇、列車最急速力

一一、公衆ノ用ニ供スル列車ノ最少回數

第四條

申請書ハ審査ノ後之ヲ免許機關ニ送達スヘシ而シテ該機關ハ調査ノ必要アルヤ否ヤヲ査定ス可シ

該機關ニ於テ調査ノ必要アリト認ムル時ハ縣知事ハ命令ヲ以テ調査會閉催ノ場所日時ヲ指定シ且ツ委員ヲ撰定スヘシ但此際次條以下ノ規定ニ據ルモノトス

但シ此等ノ命令ハ線路ノ經過スヘキ區内(カンドン)各町村ニ掲示スヘシ

第五條

調査會委員ハ七名以上九名以下ヨリ成ルモノニシテ大地主、森林、礦山ノ所有者大商人及工業家ヨリ之ヲ撰定ス

線路カ一町村地域外ニ出テサル時ハ委員ヲ其町村役場ニ召集シ同一郡内ノ數箇ノ町村ニ亘ル時ハ其郡役所ニ之ヲ召集ス又線路カ同一縣内ノ數郡ニ亘ルトキハ之ヲ縣廳ニ召集シ二箇以上ノ縣ヲ經過スル時ハ各縣ニ於テ委員ヲ選任シ縣廳ニ之ヲ召集スルモノトス

委員ハ互選ヲ以テ議長竝幹事ヲ選擧スヘシ

第六條

第二條及第三條ニ掲ケタル圖書類其他調査ニ必要ナル書類ハ線路經過地タル各區ノ重ナル町村役場又線路カ一町村地域外ニ出テサル時ハ其町村役場ニ一箇月止メ置クモノトス

又第二條第五項ニ規定セル各狹路ノ圖面ハ附屬調書ト共ニ線路經過地ナル町村役場ニ同一期間留置クモノトス

此等ノ圖書類ハ免許申請者ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ提出スヘシ

第七條

前掲期間經過後調査委員ハ其場合ニ應シ縣知事郡長若クハ町村長ノ召集ヲ受ケ參集シテ調査事項ヲ審査シ縣土木技師ノ意見ヲ徵シ又協議スルノ必要アリト認ムル人々ヲ召集シタル上企業ノ必要ノ有無竝附託サレタル調査事項及調査中起リタル諸問題ニ對シ意見ヲ述フヘシ

調査ハ十五日以内ニ終了シ其議事錄ヲ調製スヘシ

第八條

委員會議長ハ同會議事錄ヲ調製シ前條規定期間經過前ニ之ヲ調書其他ノ書類ト共ニ縣知事ニ提出スヘシ

第九條

知事ハ起業ノ公益竝適否ニ關シ之ト合議シ及其意見ヲ陳述セシムル爲メ敷設工事ニ關係アル都市ノ商業會議所若シクハ工業者會議所ノ會議ヲ召集ス

此等ノ會議ノ議事錄ハ第七條ニ規定ル期間經過前ニ知事ヘ提出スヘシ

第十條

縣參事會及町村會ニ於テ免許ヲ取扱ハサル線路ニ關シテモ必要アルトキハ線路經過地ノ縣參事會及町村會ヲ臨時召集シ起業ニ關スル意見ヲ議決セシムヘシ

第十一條

以上ノ各條ニ規定セル諸手續及一般土木ニ關スル法令竝ニ規則ニ依リ必要ナル諸手續ヲ了シタル上縣知事ハ技師及自己ノ意見書ト共ニ書類全部ヲ取纏メ成ルヘク速カニ免許機關ニ送付スヘシ

此際進達書ニ免許條件書案ヲ附スルモノトス

第十二條

地方鐵道ニシテ其線路ノ一部ヲ公道上ニ敷設スルモノニハ前揭各規定ヲ準用ス

此種ノ地方鐵道敷設申請書ニ附スヘキ圖書說明書中公道ニ敷設スル部分ニ關シテハ本法第二條竝第三條及地方鐵道法第三條第五項ニ準シ調製スヘシ

前記ノ手續ニ依リ調査ノ終了スルヲ俟テ起業ノ公益ヲ表明シ又公道上竝公道以外ニ於ケル線路建設工事施行ノ許可ヲナスモノトス

第十三條

本法ハ官報ヲ以テ公布シ法令全書ニ記錄シ其執行ハ工部大臣之ニ任スルモノトス

○地方鐵道竝軌道會計規則（千八百八十二年三月二十日）

千八百八十年六月十日公布法律第十三條竝第三十六條ノ適用ヲ受クヘキ建設費ハ以下ニ揭クル條件ヲ以テ限定シ且ツ免許契約ニ定メタル額ヲ超エサルモノトス但シ免許ノ際特別ノ條件ニ依リテ概算額ヲ定メ置カサルモノハ此限ニ非ス

千八百八十年六月十日公布法律第十六條竝第三十九條ノ施行ニ關スルモノ

第一條

建設費ハ免許人カ有益ノ目的ヲ以テ建設工事、固定材料竝營業材料ノ購入、營業開始後ノ線路ノ改良株式ノ募集、債券ノ發行及免許契約ニ定メタル建設期間中ノ資金ニ對スル利子、若シ又規定ノ期間內ニ營業ヲ開始スルトキハ其ノ開始期迄ノ資金ニ對スル利子等ニ要セル費用ノ總額ヲ含ムモノトス　尙ホ規定ノ建設期間內ニ開始セル線路ノ一郡營業ノ爲メ生シタル收益ノ不足額ヲモ附加スルコトヲ得

株式募集竝債券發行ノ費用ハ特ニ免許契約ニ定メタル額以上ヲ算入スヘカラス

第二條

補助ヲ受クル地方鐵道鐵道竝軌道ノ免許人ハ線路全部ノ營業開始ノ當日迄ニ支出セル建設費ノ計算書ヲ開始當日ヨリ四箇月以內ニ縣知事ニ屆ケ出ツヘシ

免許人ハ法業開始後ニ施行ノ許可ヲ得タル線路ノ改良ニ要セルモノノ追加勘定ヲ毎年三月三十一日迄ニ届ケ出ツヘシ、但シ如何ナル場合ニ於テモ建設費勘定ハ線路ノ全部營業開始後四年以内ニ閉鎖スルモノトス

免許契約ノ定ムル所ニ據リ停車場ノ擴張、車輛ノ增加複線若シクハ入替線ノ敷設等ノ如キ補足工事ノ爲メ建設費ヲ一定ノ期間内一定ノ額迄漸次增加シ得ル場合ニハ免許人ハ前年度間ニ豫メ特ニ許可ヲ受ケテ（政府カ此補足費ノ補助ヲ承諾セル場合ニハ工部大臣ノ許可ヲ受ケ其他ノ場合ニアリテ縣知事ノ許可ヲ受クルモノトス）支出セル費用ノ計算書ヲ毎年三月三十一日迄ニ届ケ出ツヘシ

第二條

免許人ハ左ノ諸項ヲ記載セル前年度ノ計算書ヲ其ノ帳簿ニ據リテ調製シ毎年三月三十一日迄ニ縣知事ヘ届ケ出ツヘシ

一、諸種ノ營業收入

二、保線費竝營業費但シ免許契約其他ノ契約ヲ以テ此等ノ費用ノ概算額ヲ限定セサルモノハ其ノ要ナシ

保線費及營業費ニハ建設費及車輛增加ノ費用ヲ算入スヘカラス

第四條

工部大臣ハ大藏大臣ノ意見ヲ參照シテ免許人カ前記諸勘定ヲ證憑センカ爲メ提出スヘキ書類ニ關スル規定ヲ定メ且ツ其ノ書類ノ各項目ハ規定ノ書式ニ據リテ詳細ニ記述セシムルモノトス

第五條

免許人ヨリ提出スル各種ノ計算書ハ工部大臣ノ任命スル委員會ニ附托シテ之ヲ審査セシム該委員會員タルヘキ者ハ左ノ如シ

縣知事若シクハ撰任セラレタル書記官（議長）

縣參事會員一名、若シクハ町村カ免許セル場合ニハ町村會員一名但シ此等ノ議員ハ所屬會ヨリ撰定セラルルモノトス

工部大臣ノ指定スル土木會議技師若シクハ鑛山會議技師一名

大藏大臣ノ指定スル會計監督官吏一名

委員會ハ自ラ其ノ幹事ヲ指定ス、但シ會員以外ヨリ任命セラレタル幹事ハ單ニ發言權ノミヲ有スルモノトス

可否同數ノ際ニハ議長之レカ採決ヲ爲ス

線路カ數個ノ縣ニ亘ル場合ニハ各縣ニ委員會ヲ設置ス、但シ各縣參事會カ連名ニテ免許セル場合ニハ千八百七十一年八月十日公布法律第八十九條及第九十條ノ適用ニ依リ共同委員會ヲ設クルコトヲ得、共同委員會議長タルヘキ者ハ經由線路ノ最長距離ヲ有スル縣ノ知事トス

第六條

免許人ハ委員會ニ於テ會計監督上必要ヲ認メタル諸帳簿、勘定書諸通信其ノ他ノ書類ヲ提供スヘシ

委員會ハ必要ニ應シ自己若シクハ自己ノ代表者ヲシテ本社、停車場、事務所等ニ臨檢セシムルコトヲ得

第七條

委員會ハ計算書類竝證據書類ト共ニ自己ノ報告書ヲ工部大臣ニ提出スヘシ、

工部大臣ハ此等ノ書類ヲ大藏大臣ニ移牒シタル上之レカ審査ヲ行フモノトス

前記ノ審査ノ爲メ何等ノ故障ヲ生セサル場合若シクハ修正事項カ大藏大臣、縣、町村及免許人等ニ於テ承認セラレタル場合ニハ工部大臣ハ千八百八十年六月十一日公布法律第十三條竝第三十六條ノ適用ヲ受クヘキ建設費ニ付キテ最後ノ決定ヲ爲ス

政府、縣若シクハ町村ヨリ下付スル補助金ノ年額ヲ定メ又ハ營業收入ノ內ヨリ償還金トシテ政府、縣、町村若シクハ關係者ニ拂戻スヘキ年額ヲ定ムルニモ前項ノ手續ニ據ルモノトス

第八條（千八百八十五年十二月二十三日改正）

政府、縣若シクハ町村ト免許人トノ間ニ不調ヲ生スルトキハ計算書ヲ關係書類ト共ニ千八百八十三年三月二十八日公布指令ノ實施ノ爲メ設立セル鐵道會社會計監查委員會ニ附托ス

委員會ハ報告書ヲ工務大臣ニ提出シ工部大臣ハ大藏大臣ノ意見ヲ參照シテ之レカ裁定ヲ爲ス但シ此決定ニ付キ參事院ニ抗告スルコトヲ得

普通鐵道會計規則ニ依リ政府ト直接ニ關係アル免許人ニ屬スル地方鐵道竝軌道ノ會計ニ關シテハ該委員會ハ第七條規定ノ除外例トシテ常ニ諮議ニ與カルモノトス

尙ホ免許ノ手續ヲ履マサル地方鐵道竝軌道ノ會計事務及縣竝町村ニ於テ免許ヲ得他ニ之ヲ移轉セサルモノトス

軌道ノ會計事務ニ付キテモ該委員會ハ第五條ニ揭ケタル地方委員會ノ手ヲ經スシテ直接ニ諮議ニ與カル

該委員會ハ總テ第六條ニ依リ地方委員會ニ附與セラレタル職權ヲ享有ス

第九條

免許人ハ年度計算書ノ提出ト同時ニ補助金額ノ前渡ヲ請求スルコトヲ得

工部大臣ハ地方委員會ノ報告ニ基キ大藏大臣ニ移牒ノ上前渡額ヲ決定ス

計算書ノ精算ニ依リ前渡額ノ過大ナリシコトカ判明スル場合ニハ免許人ハ過剩額ニ年四分ノ利子ヲ附シ直チニ國庫、縣若シクハ町村ニ償還スヘシ

第十條

總テ補助ヲ受クル免許人ノ會計事務ハ會計檢查官ノ監查ヲ受クルモノトス同檢查官ハ其ノ職務ノ執行上本規則第六條ニ據ル監查委員ト同等ノ職權ヲ有ス

第十一條

政府ハ全ク無關係ニシテ地方鐵道若シクハ軌道カ單ニ縣若シクハ町村ヨリ補助ヲ受クル場合ニモ前揭

ノ手續ト同樣ノ手續ヲ以テ計算ノ審査竝確定ヲ行フ此場合ニハ第四條、第五條、第七條及第九條ニ依リ工部大臣主管ノ職務ヲ縣知事ニ於テ取扱フモノトス、但シ大藏大臣ヘ諮議ノ必要アルモノハ此限ニ非ス縣知事カ確定セル計算ニ付キテ當事者ノ內ニ異議ヲ申立ツル者アルトキハ第八條ヲ適用ス

第十二條

縣若シクハ町村カ資金、土地、工事其ノ他年割補助以外ノ形式ニ依リテ補助セル場合ニハ前揭法律第十三條竝第三十六條ノ規定（縣若シクハ町村カ政府ト同額以上ヲ補助スルコトヲ條件トシテ政府ハ補助スルモノトス）適用ノ爲メ其ノ價格ヲ定メタル上年四分ノ率ヲ以テ之ヲ年割補助ニ換算ス

第十三條

營業開始當年ノ補助額ハ營業開始ノ當日ヨリ其ノ年ノ十二月三十一日ニ至ル期間ノ割合ニ應シ前揭法律第十三條竝第三十六條ニ定ムル標準ヲ以テ算出スルモノトス

第十四條

地方鐵道竝軌道補助ノ指令若シクハ法律ヲ以テ前揭去律第十三條適用ノ爲メ國庫ノ負擔スヘキ額ノ最高限度ヲ定ム、但シ前揭法律第十四條ニ定メタル如ク如何ナル事情アルモ一縣內ニ在ル總体ノ線路ニ對スル前記最高額ノ總和ハ四十萬法ヲ超エサルモノトス

第十五條

工部大臣及大藏大臣ハ各其ノ主管事項ニ付キ本規則ノ實施ヲ擔任ス、本規則ハ官報ヲ以テ公布シ法令全書ニ揭載スルモノトス

○地方鐵道法（千八百八十年六月十一日法律）第三十八條施行規則

公道上ニ敷設スル線路ノ建設及營業ニ關スルモノ

千八百八十一年八月六日公布千九百年二月十三日竝千九百七年七月十六日改正

第一章　建　設

第一條（工事方法書）

公道上ニ敷設スル線路ノ工事ハ其ノ工事方法書ニ付キ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ施行スルコトヲ得ス

工事方法書ニハ千八百八十一年五月十八日施行規則第二條ニ依リ提出スヘキ畧圖、平面圖、縱斷面圖線路定規、橫斷面圖及踏切箇所平面圖ヲ取揃フヘシ、此等ノ圖面類ハ前揭條項及工事方法草案ニ付キテ受ケタル指令ニ準據シテ之ヲ調製スヘシ

工事方法書ニハ尙ホ左ノ圖書類ヲ取揃フヘシ

一、踏切箇所及借用セル公道ニシテ成規ノ幅員ヲ有セサル箇所等ノ縮尺五耗一米ノ橫斷面圖

二、曲線勾配表

三、工事方法ノ要點ニ付キ記述セル覺書

縣カ工事ヲ施行スル場合ノ外工事方法書二通ヲ縣知事ニ宛テ提出スヘレ
內一通ハ當該機關ノ決定ニ基ツキ工部大臣若シクハ縣知事ノ認可ヲ附シ免許人若シクハ町村ニ返付ス
ヘキモノニシテ他ノ一通ハ縣知事ノ手許ニ留メ置クヘキモノトス
縣若シクハ町村カ工事ヲ施行シ後之ヲ或ル營業者ニ引キ渡スヘキモノノ工事方法書ハ認可ノ前之ヲ通
告シテ其ノ意見ヲ徵シ置クヘシ
道路以外ノ專用軌道ニ敷設スル線路ノ工事方法書ニシテ大道路、水路ニ關係アルモノハ工部大臣ノ認
可ヲ要ス、若シ免許機關ニ於テ認可スルコトアルモ之レカ爲メ前記事項ニ關シ工部大臣カ爲ス決定ハ
効力ヲ失フモノニ非ス
免許人ハ工事施行前若シクハ施行中ニ於テ前ニ認可ヲ受ケタル工事方法書ニ自己ノ必要ヲ認ムル變更
ヲ施スコトヲ得、但シ此ノ變更ハ從來ノ工事方法書ヲ認可セル機關ヨリ認可ヲ得ルニ非レハ之ヲ實施
スルコトヲ得ス
又當該官廳カ經驗ニ依リ若シクハ道路改修ノ爲メ必要ヲ認ムルトキハ工事方法ノ變更ヲ命スルコトヲ
得
如何ナル場合ニ於テモ此ノ變更ノ爲メ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二條（待合所、監視所及下水等）

公道上ニ建造ノ許可ヲ受クヘキ待合所、監視所、下水及其ノ吐口竝窓口、水道、瓦斯管其ノ他線路ノ
位置及關係ヲ有スル諸種ノ業務ニ影響ヲ及ホスヘキ性質ノモノハ免許人ヨリ提出スル平面圖ニ悉ク其
ノ位置ヲ指示スヘシ

第三條（複線及交換停車場）

線路各區ニ於ケル線條ノ數及交換停車場ノ數竝其ノ設計書ハ工事方法書中ニ之ヲ記載スヘシ

第四條（軌間、車輛定規、線路中心距離）

軌間ハ免許狀ヲ以テ定ム
車体竝ニ其ノ積載物ノ高サ竝ニ幅員ノ制限及車輛（各種ノ突起物ヲ含ム）ノ占ムヘキ容積ノ限度ハ免許
狀ヲ以テ定ム
數線敷設ノ部分ニ於ケル兩線ノ間隔ハ各線ヲ走行スル車輛ノ最モ外部ニ突起セル部分ノ間ニ尙五十糎
ノ空地ヲ存スルコトヲ要ス

第五條（軌條ノ敷設及公衆通行路ノ幅員）

軌條面ヲ道路表面ト同水平ニ沈設シテ車馬ノ通行ヲ許容スル部分及道路ノ擴築部ニ敷設シテ車馬ノ通
行ヲ禁止シ步行ノミヲ許容スル部分ハ免許機關ノ定ムル所トス
公道上公衆通行ノ爲メ殘シ置クヘキ幅員ハ免許狀ヲ以テ定ム、即チ二箇ノ車ノ行違ヒニ支障ナキコト

ヲ要ス、但シ前項第一ノ場合ニ於テハ軌道車輛ヲ其ノ一ニ算入スルコトヲ得

尙ホ命令條件ヲ以テ公道通行ノ歩行者竝ニ沿線家屋ノ安寧ヲ保護スヘシ

軌道敷設ノ部分カ車馬ノ通行ヲ許容スル箇所ニアリテハ溝形軌條若シクハ護輪軌條附キノモノヲ使用スヘシ、溝ノ及幅兩種軌條間ノ間隔ハ直線ノ場合ニハ二十九耗、曲線ノ場合ニハ三十五耗ヲ超ユヘカラス、軌條ハ道路ト同水平面ニ敷設シ、突起若シクハ沈下セシムヘカラス

第六條（道路變更ノ部分、水平交叉及沿線地ノ通路）

免許人ハ路道擴築ノ爲メ取除キタル道路修繕材料置場ヲ指定ノ箇所ニ設置スヘシ

免許條件書ニ制限セラレタル曲線勾配ノ範圍内ニ於テ道路ヲ建設センカ爲メ、若シクハ關係業務（第二條）ノ執行ヲ全ウセンカ爲メ道路ノ狀態ヲ變更セントスルトキハ免許人ハ自己ノ費用若シクハ關保者トノ共同出資ヲ以テ工事ヲ施行スヘシ、其ノ工事方法書ハ監督官廳ヨリ認可ヲ受クルヲ要ス

免許人ハ又公道ヲ前條ニ定メタル幅員トナサンカ爲メ必要ナル擴張ノ工事ヲ施行スヘシ

免許人ハ軌道ノ爲メニ中斷セラレタル公私道トヲ大道路トノ接續ヲ全ウスヘシ、公私道ト水平交叉ノ部分ニ於テ軌條ヲ道路面ヨリ突起若シクハ沈下セシムヘカナス

尙ホ免許人ハ監督官廳ヨリ公私道若シクハ沿線地ニ達スル通路建設ノ命令ヲ受クルトキハ容易ニ其ノ工事ヲ施行シ得ル樣適當ノ設備ヲナシ置クヘシ

第七條（道路以外ニ建設スル專用軌道敷）

道路以外ニ建設シ附屬道路ニ編入セラルヘキ專用軌道敷ハ當該機關ノ定ムル條件ニ準據シテ之ヲ建設スヘシ

第八條（水路及交通ノ回復）

免許人カ其ノ工事ノ爲メ堰止若シクハ變更ヲ施シタル水路ハ免許期間ヲ終ル迄自己ノ費用ヲ以テ之ヲ修理スヘシ

免許人ハ又工事施行ノ爲メ一時變更ヲ加ヘタル公私道路ヲ以前ノ狀態ニ回復スヘシ

第九條（工事施行）

線路敷設若シクハ保線ノ爲メ道路ノ破壞及溝渠ノ開鑿ヲ爲ストキハ迅速ニ且ツ充分注意シテ其ノ工事ヲ施行スヘシ

道路ハ良好ナル狀態ニ回復スルコトヲ要ス、工事ハ之レカ爲メ通行ノ安全及自由ヲ阻碍セサル樣施行スヘシ、公道上ニ穿チタル堀穴竝ニ材料置場ハ此等障害物ヲ取除キ公道ノ普通狀態ニ回復スルトキ迄夜間燈火及場合ニ依リテハ番人ヲ附シテ其ノ箇所ヲ明示スヘシ

第十條（停車場）

走行中隨時旅客貨物ノ乘降積卸ヲナスモノ、一定ノ停車場停留場ニ於テノミ停車スルモノ及前二法ヲ併用スルモノ等ノ營業方法ハ免許條件書ヲ以テ之ヲ指定ス

第二、第三ノ場合ニ於テ停車場及停留場ノ位置カ免許條件書ニ定メラレサルトキハ免許機關ニ於テ工

事方法書認可ノ際免許人ノ提案ニ基ツキ調査ノ上之ヲ定ム

營業開始後免許機關及免許人カ共ニ停車場若シクハ停留場新設ノ必要ヲ認メタルトキハ千八百八十一年五月十八日公布施行規則ニ規定セル特別調査ヲ行フヘシ縣知事ハ免許人ノ意見ヲ徵シ其ノ位置ヲ定ム

待避停車場ノ數、面積、位置等ハ免許人ノ意見ヲ徵シタル上縣知事之ヲ定ム

營業開始後ト雖モ公安ノ爲メ必要ヲ認メタルトキ縣知事ハ待避停車場ノ新設、停車場內及其ノ附近ニ於ケル線路ノ增設ヲ命令スルコトヲ得

免許人ハ工事著手ノ際左記ノ圖書類ヨリ成ル停車場設計書ヲ縣知事ヘ提出スヘシ

一、線路、乘降場、建物及其ノ內外構造ヲ記セル五百分ノ一平面圖

二、縮尺一糎一米ノ建物正面圖

三、設計ノ主要ナル點ニ付キ記述セル覺書

第十一條（土地及損害賠償）

道路以外ニ於ケル線路竝附屬物ノ建設、公共岐道、水路ノ移動其ノ他總テ建設ニ關スル工事施行ノ爲メ買收スル土地ノ代價ハ免許人ニ於テ之ヲ支拂フヘシ但シ免許機關カ土地ノ給付ヲ契約セル場合ハ此ノ限ニ定ス

土地ノ臨時占有、地表破壞、製造場ノ休業、變更、取拂其ノ他工事ノ爲メニ生シタル損害ニ對スル賠

償ハ免許人ノ負擔トス

第十二條（免許人ノ享有スル權利）

公益ヲ目的トセル起業ナルヲ以テ公共工事ニ關シ法令規則ニ依リ當該官廳ニ附與セラレタル土地收用土地切取、運搬及堆積等ノ權利ハ免許人ニ於テ享有ス但シ免許人ハ同時ニ法令規則ノ定ムル所ニ依リ當該官廳ニ對シ義務ヲ負フモノトス

第十三條（軍事關係）

國境地帶及要塞地帶ニ於テ工事ノ準備竝施行ヲ爲ス際免許人ハ其ノ工事ニ關シ法令規則ノ定ムル諸種ノ手續及條件ヲ履行スヘシ

第十四條（鑛山）

線路カ採掘特許地域ヲ橫斷スル場合ニ工部大臣ハ線路敷設ノ爲メ鑛業ニ障碍ヲ與ヘ若シクハ鑛業ノ爲メ線路ニ支障ヲ來ササラシムル樣適當ノ手段ヲ定ムルモノトス

線路橫斷ノ爲メ必要ヲ生シタル坑內支保工事其ノ他此橫斷ノ爲メ鑛業特許人ノ蒙ル諸種ノ損害ハ線路免許人ノ負擔トス

第十五條（採石場）

線路カ採石場所在ノ地域ヲ經過シ若クハ地中ニ於テ之ヲ橫斷スル場合ニハ崩壞ノ虞アル坑虛ヲ塡充シ若シクハ支保工事ヲ施シタル後ニ非サレハ運轉ヲ開始スルコトヲ得ス

工部大臣ハ之レカ爲メ施行スヘキ工事ノ性質竝範圍ヲ定ム、其ノ施行ハ總テ免許人ノ負擔トス

第十六條（工事監督）

工事ノ監督ハ工部大臣主管ノ下ニ縣知事之ヲ行フ

此監督ノ目的ハ免許人ヲシテ本規則ニ定メタル條件、免許條件書竝ニ認可ヲ受ケタル工事方法書ノ條項ニ違背セサラシムルニアリ

第十七條（竣功監査）

線路一部ノ工事竣工シ有効ニ運轉ヲ行ヒ得ルニ至ルトキ縣知事ハ一人若シクハ數人ノ委員ヲ派遣シテ工事ノ監査ヲ爲スヘシ、縣知事ハ此監査報告書ニ依リ審査ノ上線路一部ノ營業開始ヲ許可ス、免許人ハ此許可ヲ受ケタル後營業ヲ開始シ免許條件書ニ定ムル運賃ヲ徵收スルコトヲ得、但シ此一部營業開始ハ全線ノ營業開始ヲ俟チテ確定スルモノニシテ全線ノ營業開始ハ一部營業開始ト同樣ノ手續ニ依ルヘシ

第十八條（境界及岐道ノ地積圖（プランカダストラル））

工事ヲ竣功シタル上線路全部若シクハ各部ノ營業開始後六ケ月以內ニ免許人ハ縣知事若シクハ其ノ代理者立會ノ上自己ノ費用ヲ以テ沿道土地所有者トノ境界ヲ劃定シ又道路以外ニ在ル線路竝附屬物ノ地積圖ヲ調製スヘシ、免許人ハ縣知事ノ指定セル吏員ト共ニ自己ノ費用ヲ以テ諸種建造物ニ關スル明細書ヲ調製シ之レニ各建造物ノ側面圖ヲ添附スヘシ

免許人ハ自己ノ費用ヲ以テ境界確定始末書、地積圖、建造物明細書及圖面ヲ調製ノ上之ヲ縣廳記錄課ニ送付シ之ヲ寄託スヘシ

後日ニ至リ免許人カ營業上必要ヲ認メタルニ依リ境界外ニ取得シ線路ニ編入セル土地ハ其ノ取得ノ度毎ニ境界ノ追補ヲ行ヒ且ツ地積圖ニ追加スヘシ又圖面調製後ニ出來上カレル建造物ハ之ヲ圖面ニ追加スヘシ

第二章　停車場竝線路ノ保全及保安

第十九條（停車場內ノ保安）

縣知事ハ停車場及其ノ附屬物ニ於ケル秩序ヲ保タンカ爲メ保安規則ヲ定ム

第二十條（線路竝ニ其ノ附屬物ノ保全）

線路及之ニ附屬スル諸種ノ材料ハ常ニ良好ノ狀態ニ保全シ運轉ヲ容易ニ且ツ安全ナラシムヘシ

線路ノ保全費、普通修繕費及特別修繕費ハ免許人ノ負擔トス

軌條ヲ沈設シタ車馬ノ通行ヲ許容スル箇所ニ於テ軌道運轉ノ爲メニ道路面ニ施セル敷石ノ保全ニ付テハ各免許ノ際免許條件書ヲ以テ定ム、即チ免許條件書ヲ以テ其ノ保全ノ擔當及費用ノ分擔ヲ指定スヘシ

車馬ノ通行ヲ禁止スル線路ノ保全ハ全部免許人ノ負擔トス且ツ塲合ニ依リテハ免許條件書ヲ以テ線路以外ニ保全區域ヲ擴張スルコトアルヘシ

免許人ニ於テ其ノ保全ヲ負擔スル線路竝道路カ常ニ良好ノ狀態ニ保全セラレサルトキハ縣知事ハ職權ヲ以テ自ラ之ヲ行ヒ免許人ヲシテ其ノ費用ヲ負擔セシムヘシ但シ此際第六十三條ニ定ムル規定ノ適用ヲ妨ケス

費用ノ總額ハ縣知事ノ適當ト認ムル方法ニ依リテ償却セシムルモノトス

第二十一條（通行ノ安全）

縣知事カ監督官ノ意見ニ基キ實施營業方法ニ對照シテ其ノ必要ヲ認メタルトキハ免許人ハ軌道上車輛列車ノ運轉及軌道ヲ敷設シ若シクハ軌道ノ橫斷スル道路上ノ一般通行ノ自由竝安全ヲ確保センカ爲メ必要ナル處置ヲナスヘシ

縣知事ハ監督官ノ意見ニ基キ免許人ノ承認ヲ經軌道ノ交叉點若シクハ分岐點ニ於ケル安全ヲ確保センカ爲メ施行スヘキ施設ノ方法ヲ定ム

第二十二條（停車場及待合所ノ點燈）

職員常務ノ停車場停留所竝待合所ニハ毎夜必ス點燈スヘシ

特別ノ事情アルニ於テハ縣知事ハ擔任者ノ定メナキ待合所ニ點燈ヲ命スルコトヲ得

第三章　運轉車輛

第二十三條（車輛ノ構造）

牽引ノ方法ニ付テハ免許ノ條件ヲ準守スヘシ

機關車、炭水車其他列車ヲ構成スル諸種ノ車輛ハ縣知事カ監督官ノ提案ニ基キ採用セル方式ニ則リ最良ノ材料及型ヲ以テ製作スヘシ且ツ各種車輛ハ公衆竝ニ職員ノ安全ニ必要ナル條件ヲ具備セシムルヲ要ス

免許人ハ其ノ製作セントスル車輛ノ圖面及之レカ鑑定ニ必要ナル書類ヲ當該官廳ニ提出スヘシ

縣知事ハ免許人ノ承認ヲ經會社所有以外ノモノニシテ其ノ會社線路ヲ運轉セントスル車輛ノ具備スヘキ條件ノ定ム

第二十四條（機關車竝車軸ノ事蹟表）

各機關車ノ車蹟表ヲ設クヘシ、該表ハ帳簿ニ記載スルモノニシテ帳簿ハ常ニ記入ヲ怠ラス各機關車ニ付キ其ノ使用開始ノ日附、事業誌、之レニ加エタル修繕變更及各部ノ附換等ヲ指示スヘシ

尙又機關車ノ車軸ニ付キテモ別個ノ事蹟表ヲ設ケ各車軸番號ノ側ニ其ノ製作所名、使用開始ノ日附、試驗ノ成蹟、事業誌、事故竝ニ修繕等ヲ記入スヘシ

前二項ニ揭ケタル帳簿ハ車軸監査官及營業監査官ノ求メニ應シ檢閱セシムヘシ

第二十五條（機關車及炭水車）

機關車及炭水車ノ制動裝置ハ直線水平ノ線路ニ於テ乾燥セル清潔ナル軌條ノ上ヲ一時間二十粁ノ速力ヲ以テ走行スル際制動機締結後二十米以內ノ距離ニ於テ停車セシムヘキ效力ヲ有スルヲ要ス

働輪ノ軌條粘著力ヲ增サンカ爲メ監督官ノ提案ニ基キ縣知事ノ採用セル撒砂其他ノ裝置ハ機關手之ヲ擔當シ使用ニ差支ナキ樣絕エス手入ヲナスヘシ

機關車若シクハ炭水車ニハ手ヲ以テ取扱フヘキ制動器ヲ裝置スヘシ

機關車ヨリ臭氣ヲ漏シ若シクハ公道上ニ火粉、灰燼、水、油等ヲ撒布スヘカラス、免許人ハ機關車ノ使用ニ起因シ公道上竝ニ沿道家屋ニ生シタル火災ニ付キ責ニ任スルモノトス

第二十六條（機關車使用開始）

機關車ハ現行法規ニ定ムル試驗ヲ行ヒ制動裝置ノ効力ヲ檢査シ監督官ノ許可ヲ受ケタル後ニ非レハ使用スルコトヲ得ス

第二十七條（客車）

客車ノ構造ハ旅客ノ安全ヲ確保スヘキ必要ナル條件ヲ具備シ且ツ便利宜シキモノナルコトヲ要ス

旅客一人ノ占ムヘキ容積ノ最小限度ハ幅四十五糎、奥行六十五糎、高サ一米六十五糎トス但シ縣知事ヨリ特ニ許可ヲ受クル場合ハ此限リニ非ス、縣知事ハ監督官ノ意見ニ基キ免許人ノ承諾ヲ經、客車內ニ直立スル旅客ノ數ヲ制限スヘシ

座席數ハ各車室內ニ見易スキ數字ヲ以テ掲示スヘシ

客車ニハ擔彈機ヲ附スヘシ、一米以上ノ幅員ヲ有スル線路ニアリテハ客車ニ二階ヲ設クルコトヲ得

下階ハ全部被覆ヲ施シ倚（モタレ）附キノ腰掛ヲ備ヘ勘ナクモ冬期間ハ窓硝子ヲ以テ閉鎖シ窓掛ヲ附シ夜間ハ燈

火ヲ點スヘシ

上階ハ階段ニ依リテ乘降スルモノニシテ倚（モタレ）附キノ腰掛ヲ備ヘ座席ニ達スル樣及階段ニハ高サ一米十糎以上ノ堅固ナル欄ヲ附スヘシ

縣知事ノ許可ヲ受ケ冬期ニ於テ窓硝子ヲ備ヘサル一階ノ客車ヲ後續車トシテ使用スルコトヲ得

機關車ヲ以テ牽引スル線路ニ在リテハ上階ニ屋蓋ヲ附シ且ツ前後部ニ障壁ヲ施スヘシ

倚（モタレ）及座面ニハ傾斜ヲ附シ且ツ倚ハ乘客ノ肩ノ高サト爲スヘシ

座席ニ等級ヲ設クルコトヲ得、各等級座席ノ裝備ニ付テハ縣知事ノ定ムル指令ニ準據スヘシ

機關車ヲ以テ牽引スル車輛ノ樣ニハ直立セル乘客ノ墜落ヲ保護スヘキ取扱ヒ易キ鎖錠ヲ施スヘシ

各車輛ニハ盡ク制動機ヲ附スヘシ、此等ノ制動機ハ機關車ノ制動機ト連動シ列車カ直線水平ノ線路ニ於テ乾燥セル清潔ナル軌條ノ上ヲ一時間二十粁ノ速力ヲ以テ走行スル際制動機締結後二十米以內ニ於テ停車セシムヘキ効力ヲ有スルヲ要ス

第二十八條（客車ノ使用開始）

客車ハ本規則ニ定ムル條件ヲ具備スルコトヲ立證シ監督官ノ意見ニ基キ縣知事ヨリ許可ヲ受クルニ非レハ使用スルコトヲ得ス

第二十九條（車輛外部ノ記號）

機關車、炭水車其他各種車輛ノ外側ニ左ノ記號ヲ附スヘシ

一、文字若シクハ頭字ヲ以テ其ノ所屬線路若シクハ會社名ヲ表スコト
二、番號

客車ニハ尙ホ此ノ外車室ノ等級ヲ表スヘシ

第三十條（車輛ノ保修）

車輛及營業材料ハ常ニ良好ノ狀態ニ保修シ置クヘシ

前記車輛及材料カ良好ノ狀態ニ保修セラレサルトキハ縣知事ハ職權上免許人ノ費用ヲ以テ自ラ之ヲ行フヘシ但シ此際第六十三條ニ定ムル規定ノ適用ヲ妨ケス

費用ノ總額ハ縣知事ノ適當ト認ムル方法ニ依リテ之ヲ償却スヘシ

縣知事ハ監督官ノ意見ニ基キ免許人ノ承認ヲ經、營業ノ安全ヲ確保スヘキ條件ヲ充タササル機關車、炭水車其他ノ車輛ノ運轉ヲ禁止スルコトヲ得

第四章　列車ノ編成

第三十一條（列車ノ長サ及制動裝置）

機械力ヲ以テ牽引スル軌道上ヲ運轉スル列車ノ長サハ免許條件書ヲ以テ制限ス

制限ノ範圍內ニ於テ旅客列車ニハ適數ノ各等級車室ヲ組入ルヘシ、但シ縣知事ヨリ特ニ許可ヲ受クルトキハ此限ニ非ス

車ヲ編成スル機關車其他ノ車輛ハ牽彈器ノ附セル堅牢ナル連結器ヲ以テ連結スヘシ

縣知事ニ於テ公安上必要アリト認ムルトキハ前揭第二十五條竝第二十七條ノ規定ニ關係ナク、旅客列車制動裝置ノ特別條件ヲ定ムルコトヲ得

貨物列車及混合列車ノ制動裝置ニ關スル條件ハ監督官ノ意見ニ基キ縣知事之ヲ定ム

縣知事ハ監督官ノ意見ニ基キ免許人ノ承認ヲ經貫通制動裝置及自動制動裝置ノ使用ヲ命スルコトヲ得

第三十二條（機械力ヲ以テ牽引スル軌道列車係員）

機關車ニハ機關手助手各一名ヲ乘込マシムヘシ、他ノ動力ヲ使用スルト雖モ二車以上ヲ連結スルモノナルトハ之ニ準ス

機關手ハ監督官ノ報告ニ依リ縣知事カ其ノ資格ヲ認メタルモノニ限リ、助手ハ必要ノ際機關ヲ停止スル技能ヲ有スルコトヲ要ス

此外各列車ニハ車掌若シクハ制動手ヲ乘込マシムヘシ其ノ員數ハ監督官ノ意見ニ基キ縣知事ノ定ムル所トス、工部大臣ヨリ特ニ許可ヲ得ル塲合ヲ除キ最後ノ車輛ニハ車掌一名ヲ置キ且ツ機關手ト聯絡ヲ保タシムヘシ

一列車ニ數名ノ車掌カ乘車スル際內一名ヲ主任タラシムヘシ

單獨自動車及機關車ヲ以テ牽引セラレ貫通制動裝置ヲ具フル列車ハ工部大臣ノ許可ヲ受ケ職員一名ヲ以テ機關ヲ操縱セシムルコトヲ得、但シ此際主任車掌及其他ノ職員カ必要アルトキ何時ニテモ機關部ニ至リ之ヲ停止シ得ルコトヲ要ス

機關車以外ノ動力ヲ使用シ數個ノ車輛ヲ連結スル列車ニモ前揭ノ許可ヲ與フルコトアルヘシ

第三十三條（機關車及自動車）

機關車ハ必ス列車ノ前部ニ附スヘシ、但シ停車場內ノ運轉及救助ノ場合ハ此限ニ非ス、此等特種ノ場合ニ於テハ一時間五粁以上ノ速力ヲ出スヘカラス

事故ヲ生シタル場合ヲ除ク外列車ハ一個ノ機關車ニ依リテ牽引セラルヽモノトス、但シ縣知事ハ監督官ノ提案ニ基キ上リ急勾配ノ運轉若シクハ特別ノ事情ニ依リ補助機關車ノ使用ヲ許可スルコトアルヘシ

如何ナル場合ニ於テモ同時ニ二個以上ノ機關車ヲ以テ列車ヲ牽引スヘカラス

電氣其他ノ動力ヲ使用スル自動車輛ヲ連結スル列車ニハ前揭規定ヲ適用セス、此等ノ列車ノ編成方法及速力ノ制限ハ監督官ノ提案ニ基キ縣知事之ヲ認可ス

第三十四條（危險物、惡臭物ノ運送）

旅客輸送ノ列車ニハ爆發、發火若シクハ惡臭撒布ノ虞アル物品ヲ搭載スヘカラス、但シ工部大臣ヨリ特別ノ許可ヲ受クルトキハ此限ニ非ス

本條ノ規定ヲ適用スヘキ品類ハ工部大臣之ヲ定メ其ノ運送條件ハ監督官ノ「意見ニ基キ會社ノ承認ヲ經、縣知事之ヲ規定ス

第三十五條（警報）

旅客ヲ輸送スル軌道ニ於テ運轉手若シクハ機關手ト車掌、車室附職員若シクハ旅客トノ間ハ警報器ヲ以テ聯絡スヘシ

第三十六條（車輛及列車ノ外側點燈）

單獨車輛及列車ノ前部ニハ白燈後部ニハ赤燈ヲ備付クヘシ、燈ハ反映鏡付ノモノトス

燈ハ日沒ヨリ運轉ヲ終ル迄及運轉ヲ始メテヨリ日出ニ至ル迄點火スヘシ

濃霧ノ際ハ日中ト雖モ點燈スヘシ

第三十七條（客車ノ點燈及暖房裝置）

客車ハ內部ニ點燈スヘシ、上階ト雖モ有蓋ニシテ障壁ヲ具フルモノハ縣知事ノ要求ニ從ヒ點燈スヘシ

縣知事ノ要求アルトキハ監督官ノ提案ニ基キ縣知事ノ定ムル期間內客車ニ暖房ノ裝置ヲナスヘシ

第五章　發車運轉及到達

第三十八條（發車）

發車前機關手ハ機關車各部特ニ制動裝置ニ異狀無キコトヲ確ムヘシ、車輛及其ノ制動裝置ニ關シテモ會社內規ニ定ムル條件ニ依リ同樣ノ檢查ヲ行フヘシ

機關手ハ列車主任車掌ヨリ發車信號ヲ受クルニ非レハ發車スヘカラス

第三十九條（列車進行中ノ事務）

進行中運轉手若シクハ機關手ハ線路ノ狀態、車馬、家畜ノ接近ニ注意シ障害ニ遭遇セル際ハ場合ニ應

シ速力ヲ緩メ若シクハ停車スヘシ、且ツ機關手ハ線路監督及工夫ノ信號ニ應スヘシ

機關手ハ軌道ノ種類ニ依リ工部大臣ノ定ムル方式ニ依リ高音信號ヲ以テ列車ノ接近ヲ信號スヘシ

列車接近ノ爲メ馬其他ノ動物ヲ恐怖セシメ混亂ヲ惹起シ事故ヲ生スル虞アルトキ若シクハ雜沓ノ場合等ニ機關手ハ速力ヲ緩メ若シクハ停車スヘシ

線路營業部長ノ許可アルニ非レハ機關車臺ニ機關手、助手以外ノ人員ヲ乘車セシムヘカラス、但シ監督官ハ此限ニ非ス

第四十條　（線路修繕作事場）

線路上ニ修繕作事場ヲ設置スルトキハ信號ヲ以テ線路ノ狀態カ車輛列車通過ヲ許サス若シクハ速力ヲ緩ムヘキコトヲ表示スヘシ

第四十一條　（停車場以外ニ於ケル停車）

列車ハ營業上切實ニ必要ナル時間ノ外停車場以外ニ停車スヘカラス

免許人ノ申請及監督官ノ提案ニ基ツキ縣知事ハ時刻表ニ定メタル時間中列車ヲ停車場以外若シクハ停留場以外ニ留メテ旅客貨物ノ乘降積卸ヲ行フコトヲ許可スルヲ得、且ツ縣知事ハ此停車ノ場所ヲ公衆ニ公示スル爲メ必要ナル規定ヲ定ム

免許條件書ヲ以テ定メラレサルモノニアリテハ前記ノ許可ハ一時的ニシテ隨時取消スコトヲ得

列車ヲ運轉スル線路上ニ單獨ナル機關車其他ノ車輛ヲ留メ置クヘカラス

公道上ニ於テ火床ノ掃除ヲ爲スコトヲ禁止ス

第四十二條　（事故ヲ生シタル際ノ救助）

豫備機關車及事故ヲ生シタル際必要ナル器具ヲ備付ケタル救助車輛ヲ縣知事ノ指定セル場所ニ置キ縣知事カ監督官ノ意見ニ基ツキ命令スルトキハ何時ニテモ發車シ得ル樣常ニ補修ヲ加フヘシ

尙ホ各列車ニハ緊要ナル器具ヲ備ヘ置クヲ要ス

免許人ハ縣知事ノ指定スル停車場、監視所、待合所ニ事故ヲ生シタル際必要ナル藥品其他ヲ備付クヘシ

第四十三條　（列車ノ運轉）

免許人ノ申出及監督官ノ意見ニ基ツキ縣知事ハ線路各部ニ於ケル旅客列車及貨物列車ノ速力ノ制限及列車運行表ヲ定ム、縣知事ハ尙ホ前揭ノ手續ニ依リ市街地ニ在ル踏切箇所ニ於ケル速力ヲ到限スヘシ

停車場待合所及監視所ニハ普通列車ノ發著時間、其ノ經過驛名及各驛發著時間ヲ揭示スヘシ十五分以內ノ間隙ヲ置キテ規則正シク發車スル列車ニアリテハ其ノ初發終發ノ時間及二列車間ノ間隙ヲ揭示スヘシ

隨時停車シテ旅客貨物ヲ乘降積卸セシムル線路ニアリテハ單ニ其ノ事情ノミヲ揭示シ停留箇所通過ノ時間ヲ揭示スルヲ要セス

線路建設ノ狀態カ許容スルニ於テハ免許人ハ縣知事ノ命ニ依リ運轉停止及規定時間ノ遲延ヲ職員常務

ノ停車場内ニ公示スヘキ設備ヲ爲スヘシ

第六章　運賃及附帶料金ノ徵收

第四十四條（運賃ノ徵收）

會社ハ如何ナル種類ノ運賃ト雖モ大臣若シクハ縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ徵收スルコトヲ得ス現在徵收スル所ノ運賃ニシテ認可ヲ要セサルモノハ本規則公布後一年以内ニ改メテ認可ヲ受クヘシ

第四十五條（會社ノ腹案）

前條施行ノ爲メ會社ハ免許條件書ヲ以テ許可セラレタル範圍ニ於テ徵收セントスル旅客、貨物、動物其他ノ運賃表ヲ制定シ之ヲ軌道ノ經過地ニ各縣ノ知事、監督官ヘ提出スヘシ尚ホ大臣ノ管轄ニ屬スルモノニアリテハ大臣ニモ之ヲ提出スヘシ

第四十六條（特別運賃規則）

尚ホ會社ハ免許條件書ヲ以テ定メラレサル運賃ニ關シテモ成ルヘク速ニ前條ノ手續ニ依リ其ノ腹案ヲ大臣若シクハ縣知事ニ提出スヘシ、工部大臣若シクハ縣知事ハ之レカ裁決ヲナスモノトス

第四十七條（附帶料金）

發著手數料、停車場及倉庫ノ保管料ノ如キ附帶料金及毎年改訂スヘキ諸種ノ料金ニ關スル規則ハ毎年十月中ニ大臣若シクハ縣知事ニ提出シ其ノ認可ヲ受クヘシ其ノ決裁ヲ得ル迄ハ從來ノ規則ニ依リテ徵收スルコトヲ得

第四十八條（運賃規則ノ揭示）

認可ヲ受ケタル運賃表竝附帶料金表ハ常ニ停車場及待合所ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

運賃規則ノ全部ヲ揭示シ能ハサルトキハ其ノ旨ヲ前項ノ如ク揭示シ公衆ノ望ミニ應シテ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十九條（運賃規則ノ改正）

會社カ從來ノ運賃規則ヲ變更セントスルトキハ縣知事、監督官及工部大臣ニ其ノ意見ヲ提出スヘシ同時ニ公衆ニ對シテモ前條ノ手續ニ依リ其ノ變更ヲ豫告スヘシ

工部大臣若シクハ縣知事ノ認可ヲ受ケタル上ハ揭示後一箇月ヲ經テ改正運賃ヲ徵收スルコトヲ得若シ認可ノ際前ニ揭示セル運賃若シクハ其ノ適用ノ條件ニ修正ヲ加ヘラルルトキハ再ヒ其ノ修正セラレタル運賃及條件ヲ揭示シ揭示後一箇月ヲ經ルニ非サレハ其ノ運賃規則ヲ實施スルコトヲ得ス

第五十條（發送ノ順序）

會社ハ貨物、動物其他供託セラレタル諸物品ノ運送ニ關シ正實、迅速、公平ヲ以テ之ヲ取扱フヘシ

貨物、動物其他ハ停車場ニ到著次第直チニ其ノ運賃ノ總額ト共ニ之ヲ帳簿ニ記入スヘシ、運送ハ此記簿ノ順序ニ從テ行フモノトス、但シ荷送人カ猶豫ヲ申込ミ若シクハ同意セル際ハ此ノ限ニ非ス此際其ノ旨ヲ帳簿ニ記入スヘシ

荷送人ヨリ請求アルトキハ運送狀ノ外ニ荷預證ヲ交付スヘシ、荷預證ニハ貨物ノ種類、重量、運賃ノ

總額及運送期限ヲ記載スヘシ

本條ニ揭クル帳簿ハ本規則施行監査ノ職ニ在ル官吏ノ要求ニ應シ何時ニテモ其ノ檢閱ヲ受クヘシ

第七章　保安及監督

第五十一條　（營業監督ノ組織）

千八百八十年六月公布法律第二十一條ニ規定セル監督官ハ工部大臣主管ノ下ニ縣知事之ヲ任命ス該吏員ノ資格ハ工部大臣ノ指令ヲ以テ定ム

第五十二條　（監督官ノ職權）

監督官ノ重ナル職權ハ左ノ如シ

一、營業事務ニ關スル事項

免許人カ工部大臣若シクハ縣知事ヨリ成規ノ認可ヲ受ケタル運賃以外ノ不法徵收ヲ監視スル事」

認可ヲ受ケタル運賃規則ノ適用及貨物ノ受付、記簿其ノ運送竝荷受人ヘノ引渡等ニ關スル規定ノ履行ヲ監視スル事

接續スル二線路ノ終端ニ於テ運送事務ノ中絕ヲ來ササランカ爲メニ定メタル規定ノ履行ヲ監視スル事

線路ニ接續スル水陸運送業者ト鐵道會社トノ間ニ締結セル契約ノ條項ヲ審査シ運賃均等ノ主義ニ牴觸スル事項ヲ指摘スル事

旅客、貨物運轉ノ狀態、保線費、營業費、收入等ヲ調査スル事

二、工務ニ關スル事項

線路、土工建造物、車輛其ノ他免許人カ原動力ノ出生、送致ノ爲メ施セル設備ノ狀態ヲ檢査スル事

運轉ノ保安ニ關スル規則ノ履行ヲ監視スル事

三、保安ニ關スル事項

列車ノ編成、出發、到達、進行及停車、客車其他公共ノ箇所ノ拭掃、停車場域内ニ於ケル車馬ノ出入、停留、通行、停車場乘降場内公衆ノ出入等ヲ監視スル事

營業ノ爲メ鐵道ノ借區セル公道ニ關スル規則ヲ免許人竝公衆ニ勵行セシムル事

第五十三條　（監督官ニ提出スヘキ書類）

免許人ハ何時ニテモ主任監督官及其ノ代理者ノ要求ニ應シ收入帳簿營業ニ關スル通牒及命令書、公務ニ關シテ他ノ運送業者ト締結セル契約書、其他監督官ノ職務執行上必要ナル書類ヲ提出スヘシ

第五十四條　（監督官詰所）

免許人ハ線路中監督官ノ常置ヲ要スル部分ニ適當ナル詰所ヲ設置スヘシ

第五十五條　（事故）

線路上ニ於テ事故發生セルトキハ免許人若シクハ其職員ハ直チニ最寄ノ監督官ニ届出ツヘシ

稍々重大ナル事故ヲ生シタルトキハ免許人ハ監督官ヘ届出ツルノ外尚ホ最モ迅速ナル方法ヲ以テ之ヲ縣知事、主任監督官及監督技師ニ届出ツヘシ

公權ノ作用ヲ受クヘキ事實ヲ生シタル場合及死傷ヲ生シタル場合ニハ最モ迅速ナル方法ニ依リ直チニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

第五十六條（保安及營業ニ關スル規則）

免許人及公衆ハ前掲規定施行ニ關スル縣知事ノ指令ヲ遵守スヘシ

該指令執行ノ爲ニ要スル費用ハ免許人ノ負擔トス

免許人ハ營業ニ關スル内規ヲ定メ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ、縣知事ハ監督官ノ意見ニ基キ必要ト認ムル修正ヲ命スルコトヲ得

該内規ハ免許人ノミナラス後日ニ至リ支線若シクハ延長線ノ許可ヲ受クルモノ及其他總テ鐵道使用者ノ盡ク遵守スヘキモノトス

第五十七條（線路ノ保護、運轉ノ自由ニ關スル規定）

鐵道職員ニ非サルモノニハ左ノ事項ヲ禁止ス

一、理由ノ如何ニ拘ラス線路及附屬工作物ヲ移動シ若シクハ變更スル事及公衆ノ使用スヘカラサル器具ヲ使用スル事

二、線路上ニ物ヲ置キ若シクハ投スル事

三、業務用以外ノ車輛ヲ運轉センカ爲メ軌條ヲ使用スル事

四、一般通行ヲ許サヽル線路ニ成規ノ許可ナクシテ浸入スル事、自己ノ監督スル動物ヲ線路内ニ入セシメ若シクハ其ノ出入ヲ放任スル事、業務用以外ノ車輛ヲ線路内ニ留メ若シクハ運轉ス出事

五、軌道ヲ敷設セル公道上ニ附添人ヲ附セサル車若シクハ動物ヲ放置スル事

歩行者及普通車輛ノ馭者ハ鐵道業務用ノ列車若シクハ車輛ノ接近ヲ見タルトキハ手綱ヲ引締メ馬ヲ制御シ直チニ線路ヲ去リ鐵道車輛ノ通過ニ必要ナル圈圍ノ外ニ遠サカルヘシ

家畜若シクハ動物ノ附添人ハ鐵道業務用列車若シクハ車輛ノ接近ヲ認メタルトキハ其ノ家畜、動物ヲ線路ヨリ遠サクヘシ

第五十八條（旅客ニ關スル規定）

旅客ニハ左ノ事項ヲ禁止ス

一、進行中車室ニ出入シ及定マレル出入口以外ヨリ出入スル事

二、進行中定マレル通路ニ依ラシテ他ノ車室ヘ移動シ、身体ヲ外部ニ突キ出シ、旅客席ニ非サル座席ヲ占メ、階上ニ於テ直立スル事

「喫煙室」ノ標札ヲ掲クル車室以外ノ閉鎖セル車室竝待合所ニ於テ喫煙スルコトヲ禁ス

鐵道職員カ運賃ノ徴收、檢査ノ爲メ旅客ニ對シテ要求スル際旅客ニ於テ遵守スヘキ規則ハ監督官ノ意

見ニ基キ免許人ノ承諾ヲ經、縣知事ノ定ムル所トス、乘車券ヲ所持セサルモノノ乘車ヲ拒絕スルコトヲ得

第五十九條　（乘客數ノ制限）

各車室內ニ揭ケタル座席數以上ノ旅客ヲ乘車セシムルコトヲ禁ス

第六十條　（乘車禁止）

左ノ旅客ノ乘車ヲ禁止ス

一、泥醉セルモノ

二、裝填セル火器及性質、容積、臭氣等ニ依リ他ノ旅客ニ迷惑ヲ與フル物品ヲ所持スルモノ

第六十一條　（危險物及惡臭物ノ發送）

現行規則ニ依リ危險物及惡臭物ノ部類ニ屬スル貨物ヲ發送セントスルモノハ其ノ貨物ヲ鐵道ニ引渡ス際其ノ旨ヲ申出テ且ツ條件ノ履行、荷造方、記號等ニ關スル成規ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十二條　（動物ノ運送）

如何ナル動物ト雖モ客車內ニ入ルヲ許サス但シ適當ニ閉鎖シタル小動物ノミハ除外例トシテ許可スルコトヲ得。尙ホ免許人ハ列車ノ都合ニ依リ飼犬ト分離スルヲ欲セサル乘客ヲ容ルヘキ特別室ヲ設クルコトヲ得、但シ如何ナル季節ニアリテモ犬ニハ口籠ヲ附スヘシ

第八章　一般免許ニ附スヘキ條件

第六十三條　（營業ノ停止及免許ノ失効）

線路ノ一部若シクハ全部ノ營業ヲ停止セル場合、線路竝車輛カ良好ノ狀態ニ保全セラレサルカ爲メ若シクハ免許人カ擔任セル道路ノ保修ヲ怠レルカ爲メ公安ヲ害スルニ至リタル場合ニ縣知事ハ直チニ免許人ノ負擔及責任ヲ以テ危險ヲ防止スヘキ必要ノ處置ヲ爲スモノトス、縣知事ハ前記ノ場合ニ爲シタル處置及運轉停止ノ際業務ノ繼續ヲ計ランカ爲メ免許人ノ負擔及責任ヲ以テ施行セントスル處置ニ付キテ工部大臣ヘ屆出ツヘシ

大臣ハ免許人カ業務ヲ回復シ運轉ノ安全ヲ確實ナラシムヘキ期間ヲ定ム、若シ定メラレタル期間內ニ公安ヲ障礙セスシテ繼續シ得ヘキ狀態ノ下ニ營業ヲ回復スルコト能ハサレハ大臣ハ免許ノ失効ヲ宣告スヘシ但シ參事院ニ訴願提起ノ場合ハ此限ニ非ス、縣及町村ニ於テ免許セルモノニ關シテハ失効宣告ノ際縣參事會及町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

工事ノ繼續竣功其ノ他免許人ト締結セル契約ヲ履行セシメンカ爲メ起業、用地、施行工事、建設用竝營業用貯藏材料、車輛其他ノ器具機械及營業開始線路ノ評定價格ヲ標準トシテ入札ヲ行フ

案ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內ニ自己ノ意見ヲ開申スヘシ

豫メ縣知事ノ承認ヲ受ケタル者ニ非サレハ入札ニ參加スルヲ得ス但シ失効免許人カ工部大臣ヘ願出テタル塲合ハ此限ニ非ス

入札希望者ハ定メラレタル期限内ニ契約履行ニ必要ナル財源ヲ證明スヘキ書類ヲ添附シ書面ヲ以テ届出ツヘシ

縣知事ハ該證明書類ヲ審査シ其ノ決定ノ次第竝入札期日ヲ各入札者ニ通知スヘシ

入札ノ許可ヲ受ケタル者ハ免許人カ支出スヘキ費用ノ三十分ノ一以上ノ額ヲ保證金トシテ預金局若シクハ縣本金庫ニ供託スヘシ

入札ハ千八百二十九年五月十日公布勅令第十一條、第十二條、第十三條、第十五條竝第十六條ニ定メタル手續ヲ以テ行フモノトス

入札額ハ評定價額ヨリモ下ルコトヲ得ス

落札者ハ失効免許人ノ權利義務ヲ繼承シ免許ニ附帶スル各種ノ補助金ノ交付ヲ受ケ失効免許人ハ落札者ヨリ落札ノ金額ヲ受納スルモノトス

償還未濟ノ保證金ハ免許機關ノ所得ニ歸ス

入札カ無効ニ終ルトキハ三箇月ヲ經テ第二次入札ヲ行フ、第二次入札ニ於ケル入札額ハ評定價額ヨリモ低額ナルコトヲ得、若シ此ノ第二次入札モ亦不結果ニ終ルトキハ免許人ハ全ク其ノ權利ヲ失ヒ起業、用地、施行工事、建設用竝營業用貯藏材料車輛其他器具機械及營業開始線路ハ免許機關ノ所有ニ歸スヘシ

縣若シクハ町村カ免許ヲ受ケ之ヲ移轉セルモノニシテ移轉ヲ受ケタル免許人カ其ノ契約ヲ履行セサル場合ハ前揭條項ニ依リ移轉免許ノ効ヲ失フモノトス、移轉免許人ノ納付セル保證金ニシテ償還未濟ノ分ハ免許ヲ移轉セル機關ノ所得ニ歸ス、本條ニ揭クル再度入札ニ附シ不結果ニ終ルトキハ工部大臣ハ免許ヲ移轉セル機關ニ對シ前項列記ノ物品竝設備回收ノ上軌道ノ營業ヲ繼續スヘキ方策ヲ立テ之カ實施ヲ試ムヘキ期間ヲ定ム、定メラレタル期間ニ顯レタル成績ニ依リ不適當ナルコトカ判明スルトキハ免許ヲ移轉セル機關ハ其ノ權利ヲ失ヒ前記ノ物品竝材料ハ何等ノ手續ヲモ要セスシテ直チニ免許機關ノ所有ニ歸ス、但シ參事院ニ訴願提起ノ場合ハ此限ニ非ス

第六十四條　（新交通路ノ建設）

政府カ免許線路ト交叉スル國道、縣道、里道、鐵道、運河等ノ建設工事若シクハ電力使用ノ線路ノ送電設備ニ影響テ及ホスヘキ電信電話線ノ建設ヲ命令シ若シクハ許可スル場合ニ免許人ハ其ノ工事ニ關シ抗議ヲ爲スコトヲ得ス、但シ其ノ工事ノ爲メ鐵道ノ建設若シクハ營業ニ障礙ヲ與ヘ若シクハ免許人ノ費用ヲ負擔セシムル等ノ事アルヘカラス

第六十五條　（新線ノ免許）

免許線路所在ノ地方及遠近ノ地方ニ於ケル道路、運河、鐵道、水運等ノ工事若シクハ許可ニ關シ免許人ハ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第六十六條　（許可ノ取消）

政府カ千八百八十一年五月十八日公布指令ヲ以テ定メタル手續ニ依リ調査ヲ遂ケタル上公益上必要アリト認ムルニ於テハ何時ニテモ免許ノ際執リタル手續ヲ以テ道路上線路ノ全部若シクハ一部ノ許可ヲ

取消スコトヲ得此際千八百八十六年六月十一日公布法律第六條竝第十一條ノ適用ヲ留保ス

第六十七條（道路借用ヲ許可セラレタル免許人ニ對シ留保セル條件）

免許人ハ左ニ揭クル理由ニ依リ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

車馬ノ往來ニ依リ鐵道工作物ニ來セル損害ニ關スル事

道路ノ狀態及其ノ影響カ線路ノ狀態及保修ニ關係ヲ及ホセルヲ理由ト爲ス事

其ノ外總テ道路使用ニ基ク原因ニ依ル事

線路ノ建設及營業ニ起因シ第三者ニ及ホセル損害ニ對スル賠償額ハ全部免許人ノ負擔トス

第六十八條

道路上工事施行ノ爲メ線路ヲ中斷セラルル場合ニハ免許人ハ線路ヲ移轉シ若シクハ普通車輛ヲ使用シ他ノ道路ニ依リテ一時運轉ノ繼續ヲ計ルコトヲ得

第六十九條（支線及延長線ノ免許）

政府、縣及町村ハ在來線路ヨリ分岐スル線路及延長線路ヲ免許スルノ權能ヲ有ス

本線免許人ハ此等支線ノ敷設ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス又其ノ工事ノ爲メ自己ノ鐵道ノ運轉ニ障礙ヲ受ケ若シクハ特ニ費用ヲ要セル等ノ場合ノ外如何ナル名義ヲ以テスルモ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

分岐線竝延長線ノ免許人ハ本線上ニ於テ自己ノ所有ニ係ル客貨車及機關車ヲ運轉スルノ權利ヲ有ス、

但シ本規則第二十條第一項ノ規程及本線ニ於テ實施セラルル保安規則ヲ遵守シ且ツ運賃ハ本線免許條件書ニ定メタル運賃率ニ據ルヘシ、本線免許人ニ於テモ分岐線竝延長線ニ對シ交互ニ此等ノ權利ヲ有スルモノトス

前項ニ揭ケタル權利ノ行使ニ關シ免許人間ニ不調ヲ生スルトキハ工部大臣ハ其ノ不調ノ點ニ付キ裁定ヲ爲ス但シ免許人ハ自己ノ線路ノ設計ニ不相應ノ重量ヲ有スル車輛ヲ線路內ニ引込ムコトヲ許可スヘカラス

分岐線竝延長線免許人カ自己ノ車輛ヲ本線上ニ運轉セシメサル場合及本線免許人カ分岐線竝延長線ヲ使用セサル場合ニハ此等線路ノ接續點ニ於テ運送ノ中斷ヲ來ササランカ爲メ當事者間ニ於テ協定ヲ遂クヘシ

免許人ノ中自己ノ所有ニ非サル材料ヲ使用スル者ハ其ノ使用料ヲ支拂フヘシ、使用料ノ定額若シクハ線路ノ同般ニ亘ル營業規則ノ制定ニ關シ不調ヲ生スルトキハ監督官廳ハ職權ヲ以テ必要ナル條項ヲ定ムルモノトス

第六十九條ノ二（共用停車場）

當該機關ニ於テ其ノ必要ヲ認ムルトキハ免許人ハ支線接續ノ停車場ヲ支線免許人ト共ニ共用スヘシ

停車場共用ニ要スル費用ハ分擔トス新會社ノ負擔額ニ關シ調停ヲ遂クルコト能ハサルトキハ仲裁ヲ以テ決定ス

停車場共用ノ主旨若シクハ其ノ實施ニ關シ不調ヲ生スルトキハ免許人共ノ承認ヲ經、工部大臣之ヲ裁定ス

但シ縣若シクハ一縣内ニ在ル町村ノ免許セル二個ノ鐵道ニ關シテハ縣知事之ヲ定ム

免許人ハ他ノ鐵道トノ接續停車場ニ於ケル貨物積替ノ設備ニ關シ監督官廳ヨリ受クル諸種ノ命令ヲ遵守スヘシ

第七十條（專用支線）

貨物ヲ運送スル鐵道ノ免許人ハ採石場、礦山、工場等ノ所有者、倉庫業者港灣設備、内國水運等ノ免許人ヨリ以下ニ定ムル條件ヲ具備シ支線敷設ノ請求アルトキハ之ヲ承諾スヘシ不調ヲ生スル場合ニ縣知事ハ求メニ依リ免許人ノ承諾ヲ經テ之ヲ裁定ス

支線ハ採石場、礦山、工場所有者倉庫業者港灣設備、内國水運業免許人ノ費用ヲ以テ建設スルモノトス、且ツ其ノ建設工事ノ爲メ一般運輸ニ障礙ヲ來シ材料ヲ損傷シ若シクハ本線ノ營業者ニ費用ヲ增サシムル等ノコトアルヘカラス

支線ノ保全ハ縣知事監督ノ下ニ所有者之ヲ負擔ス、鐵道免許人ハ其ノ職員ヲシテ支線ノ保全竝支線内ニ於ケル自己ノ材料ノ取扱方ヲ監視セシムルコトヲ得

縣知事ニ於テ必要ヲ認メタルトキハ何時ニテモ所有者ニ對シ支線ノ接續、線路、工事等ノ變更ヲ命スルコトヲ得其ノ變更ニ要スル費用ハ支線所有者ノ負擔トス

支線ノ全部若シクハ一部ノ運送ヲ停止セル場合ニ縣知事ハ所有者ノ承認ヲ經、一時其ノ接續點ニ在ル轉轍器ノ撤去ヲ命スルコトヲ得

採石場、礦山、工場、倉庫、港灣設備、内國水運等ノ構内ト本線トヲ聯絡センカ爲メ鐵道免許人ハ自己ノ車輛ヲ支線内ニ送付スヘシ

免許人ハ其ノ貨車ヲ支線分岐點迄送致スルモノトス

荷送人若シクハ荷受人ハ貨車ヲ專用線ニ引込ミ貨物ノ積卸ヲ行ヒ再モ之ヲ本線接續點ヘ送致スヘシ之等ノ費用ハ全部荷送人若シクハ荷受人ノ負擔トス

貨車ハ本線ニ於テ運送スヘキ貨物ノ運送ニノミ使用スルモノトス

一粁以内ノ專用支線内ニハ貨車ヲ六時間以上留置クヘカラス、貨車留置時間ハ粁以上一粁ヲ增ス毎ニ三十分ヲ增スモノトス、但シ夜間即チ日沒ヨリ日出迄ノ時間ヲ含マス

免許人ヨリ特ニ通告セルニ拘ラス留置期間ヲ經過セル場合ニ免許人ハ通告後ノ遲滯時間ニ對シ貨車賃貸料ト同額ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

縣知事カ監督官ノ意見ニ依リテ必要ヲ認メ支線轉轍器ニ轉轍手ノ常置ヲ命スルトキ其ノ俸給ハ支線所有者ノ負擔トス但シ其ノ撰定竝俸給ノ支拂ハ鐵道免許人ニ於テ取扱フモノトス

故障アル際ハ免許人ノ承諾ヲ經縣知事之ヲ裁定ス

支線内ノ運轉若シクハ留置中ニ生シタル車輛ノ損害ニ付キテハ支線所有者其ノ責ニ任ス

前掲諸條件不履行ノ場合ニ縣知事ハ免許人ノ申立ニ基キ支線所有者ノ承認ヲ經運轉ノ停止竝ニ接續設備ノ撤去ヲ命スルコトヲ得、但シ上級官廳ニ訴願提出ノ際ハ此限ニ非ス且ツ之レカ爲メ條件不履行ニ依リ免許人ノ蒙レル損害ニ對スル求償權ニ支障ヲ與フルモノニ非ス

免許人ハ支線引込料トシテ車輛走行ノ距離ニ應シ免許條件書ニ定ムル運賃率ニ依リ料金ヲ受クルコトヲ得

一粁以下ノ端數ハ之ヲ一粁ニ繰上クルモノトス

支線内ニ於ケル積卸ノ費用ハ荷送人若シクハ荷受人カ直接ニ行フ場合モ亦鐵道會社カ其ノ取扱ヲ承諾セル場合モ共ニ荷送人若シクハ荷受人ノ負擔トス

第二ノ場合ニ於ケル料金ニ關シテハ免許人ノ申出ニ基キ縣知事之ヲ規定ス

免許人カ支線内ヘ送致セル貨車ハ貸切扱ニ非サル場合ト雖モ總テ貸切扱ニ準シテ運賃ヲ支拂フヘシ

過載アルトキハ其ノ實際ノ重量ニ對シ法定運賃率ニ依リ運賃ヲ計上スヘシ、免許人ハ其ノ免許條件書ニ定メラレタル積載量ヲ超過スル積込ヲ拒絶スルコトヲ得

積載量ハ貨車ノ能力ニ適應スヘキモノニシテ縣知事ハ絶ヘス之ヲ檢査スヘシ

貨車ハ到達停車場ニ於テ計量スヘシ之ニ關スル注意竝ニ費用ハ免許人ノ負擔トス

第七十一條（地租）

道路以外ニ在ル鐵道附屬物ニ對スル地租ハ其ノ占據スル面積ニ依リテ之ヲ定メ、千八百三年四月二十

五日公布法律ニ依リ運河ニ準シテ其ノ稅額ヲ算出スルモノトス

鐵道營業用建物倉庫等ハ當該地方ノ家屋ニ準シ取扱ハルヽモノニシテ此等ノ家屋稅竝ニ地租ハ免許人ニ於テ負擔スヘシ

第七十二條（鐵道職員）

免許人カ運賃ノ徵收、線路竝附屬物ノ監視、保安等ノ爲メ使用スル職員ハ宣誓ノ上地方駐在巡査ト同格ノ待遇ヲ受クルコトヲ得、此等ノ職員ハ制服ヲ著シ若シクハ見易キ記章ヲ帶スルコトヲ要ス

第七十三條（年報及期報）

免許人ハ工部大臣ノ定メタル方式ニ據リ一年内（一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル）ノ成蹟ニ關スル統計表ヲ調製シ每年縣知事ヘ提出スヘシ

右ハ每年四月十五日迄ニ提出スヘキモノトス、免許人ノ提出ニ係ル報告書ハ之ヲ公開スルコトアルヘシ

此年報ノ外三ケ月每ニ建設費營業費收益ニ關スル營業報告書ヲ縣知事ヘ提出スヘシ此報告書ハ縣知事免許機關ノ代表者及工部大臣ニ宛テ三通取揃ヘ提出スルモノニシテ千八百八十年六月十一日公布法律第十九條ニ依リ其ノ全部若シクハ要點ヲ官報ニ掲載セラルヽモノトス

第七十四條（監督費）

工事ノ視察、監督、竣功監査等ノ費用及營業監査ノ費用ハ免許人ノ負擔トス

此ノ費用ニ充當センカ爲メ免許人ハ毎年免許機關ニ對シ免許條件書ニ定メタル額ヲ納付スヘシ、政府若シクハ縣ノ免許セルモノニアリテハ縣本金庫ニ納付シ町村ノ免許セルモノニアリテハ町村支金庫ニ納付スヘシ

前記ノ額ヲ規定ノ期日ニ納付セサルトキハ各免許ノ場合ニ應シ大臣、縣知事若シクハ町村長ハ執行命令書ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ

第九章　雜　則

第七十五條（免許人ノ腹案）

本規則ノ規定ニ依リ大臣若シクハ縣知事カ免許人ノ腹案ニ基キ決定ヲ要スル場合ニ免許人ハ定メラレタル期限内ニ其ノ腹案ヲ差出スヘシ若シ之ヲ怠ルトキハ大臣若シクハ縣知事ハ直接ニ決定スルコトヲ得

大臣若シクハ縣知事カ免許人ノ腹案ニ修正ヲ加フヘキモノアリト認ムルトキハ急ヲ要スル場合ノ外其ノ修正ヲナス前之ニ關シ免許人ノ承認ヲ得ヘシ

第七十六條（警視總監ノ職權）

本規則第二章及第七章ノ規定ニ依リ各縣知事ニ附與セラレタル職權ノ中警察權ニ關スル事項ハ警視總監之ヲ施行ス

第一章及第八章ニ依リ各縣知事ニ附與セラレタル職權及總テ免許契約ノ履行ニ關スルモノハセーヌ縣

若シクハセーヌエオワズ縣知事之ヲ施行ス

第七十七條（申告簿）

各停車場及各待合所ニハ郡長ノ印章ヲ押捺シ番號ヲ附シタル帳簿ヲ備付クヘシ該帳簿ヲ以テ免許人、鐵道職員竝ニ監督官ノ爲セル指令ノ結果等ニ對スル旅客其ノ他ノ公衆ノ苦情ヲ申告スヘキモノトス

申告簿ハ何時ニテモ公衆ノ求メニ應シテ差出シ且ツ監督官ニ披見セシムヘシ

申告記入ノ度毎ニ免許人ハ之ヲ主任監督官ニ通告スヘシ

第七十八條（本規則ノ掲示及公示）

職員常置ノ停車場ニハ本規則ノ謄本竝ニ關係規則ノ抜萃ヲ備付ケ何時ニテモ公衆ノ求メニ應シテ之ヲ披見セシムヘシ、且ツ其ノ旨ヲ場内ニ掲示スヘシ

各車輛ノ車掌、列車主任車掌ハ本規則ノ謄本ヲ所持スヘシ、又運轉手、機關手、火夫、轉轍手其他ノ鐵道雇員ニハ各自ノ職務ニ關係アル部分ノ抜萃ヲ渡シ置クヘシ

各車室内ニハ乘客カ進行中遵守スヘキ規則ノ抜萃ヲ掲示スヘシ

第七十九條（本規則違背事項ノ調査）

本規則及本規則ノ施行ニ關スル大臣及縣知事ノ決定ニ違反スルトキハ千八百八十年六月十一日公布法律第三十七條ニ依リ軌道ニ適用スルコトトナリタル千八百四十五年七月十五日公布法律ノ規定ニ準シテ調査竝ニ制裁ヲ行フ

第八十條　（本規則ヲ地方鐵道ニ適用スルコト）
地方鐵道線路中道路上ニ敷設スル部分ニハ本規則ノ規定ヲ適用ス但シ千九百　年五月一日附指令ヲ以テ改正セル千八百四十六年十一月十五日附指令ノ適用ヲ妨ケス

第八十一條　（舊規則ノ廢止）
千八百八十一年八月六日附、千八百九十四年一月三十日附、千八百九十八年八月三日附、千八百九十九年七月二十五日附指令及千九百年二月十三日附指令第一條第二項竝第二條ヲ廢止ス

第八十二條　（本指令ノ實施）
本指令ノ實施ハ工部大臣之ニ任ス

地方鐵道免許條件書樣式

千八百八十一年八月六日制定
千九百年二月十三日竝千九百七年七月十六日改正

第一章　線路及建設

第一條　線路

本免許條件書ノ目的トスル線路ハ　何々　ヨリ起リ　何々　ヨリ　何々　ニ至ル區間ニ達スルモノトス

附近ニ達スルモノトス

第二條　竣功期限

公益表明ノ法律公布後　何　日以內ニ工事ニ着手シ　何々　ヨリ　何々　ニ至ル區間ハ　何　月　何　日迄ニ　何々　ヨリ　何々　ニ至ル區間ハ　何　月　何　日迄ニ工事ヲ竣功シ營業ヲ開始スヘシ

線路全部ハ　何　月　何　日迄ニ工事ヲ竣功シ營業ヲ開始スヘシ

第三條　工事方法書ノ認可

千八百八十年六月十一日公布法律第三條ノ規定ニ依リ、工事方法ノ總體ニ對シテハ縣參事會若シクハ町村會ノ、其細目ニ對シテ縣知事ノ、又大道路水流等ニ關係アル工事ニ付キテハ工部大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ鐵道及其附屬物ノ建設工事ニ著手スルコトヲ得ス

公益表明ノ法律公布後六箇月内ニ線路、土工、停車場位置等ニ關スル工事方法書ヲ縣知事ヘ差出スヘシ

縣知事ハ之ニ關シ縣廳主任技師ノ意見ヲ徵シタル上之ヲ縣參事會(町村會)ニ附托シ同會ニ於テ之レカ裁決ヲ爲スモノトス尙ホ工部大臣ハ千八百八十年六月十一日公布法律第三條第二項ノ規定ニ依リ縣參事會ニ其ノ再審ヲ命スルコトアルヘシ

免許人ノ提出セル工事方法書ノ内一部ハ縣參事會(町村會)ノ決議ニ依ル認可ノ指令ヲ附シテ免許人ニ返付シ他ノ一部ハ縣知事ノ手許ニ留メ置クモノトス

工事著手前若シクハ著手後ト雖モ免許人ハ曩ニ認可ヲ受ケタル工事方法書ニ自己ノ必要ト認ムル變更ヲ加フル事ヲ得但シ其變更ハ當該機關ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得ス

第四條　縣廳調査書類

免許人ハ縣廳ノ取調ニ係ル圖面、其他測量、調査書類ヲ寫シ取ル事ヲ得但シ持出シヲ許サス

第五條　提出スヘキ圖書類

免許人ノ提出スル工事方法書ハ線路ノ各部若シクハ全部ニ付キ左ノ圖書類ヲ取揃フヘシ

一、八萬分ノ一略圖

二、一萬分ノ一平面圖

三、長サ五千分ノ一、高サ一千分ノ一ノ縱斷面圖、高サハ海抜ヲ以テ表ハスモノトス

此縱斷面圖ノ下部ニハ平行セル三條ノ横線ヲ引キ左ノ三事項ヲ表示スヘシ

一、起點ヨリ計算セル線路里程(粁ヲ以テ表ス)

一、勾配ノ長サ並角度

一、直線ノ長サ、曲線ノ延長並半徑

四、縮尺五粍一米ノ線路横斷面圖數個及縮尺ニ粍一米ノ線路定規横斷面圖

五、工事方法ノ主要ナル點ニ付キ記述セル覺書及曲線竝勾配表

停車場、鐵道ト交叉スル水流道路、踏切、架道橋、跨線人道橋等ノ位置ヲ平面圖及縱斷面圖ニ記入シ且各個ノ設計書ヲ提出スヘシ

第六條　用地ノ買收、建造物及複線敷設

待避停車場構内ヲ除クノ外土地ノ買收、建造物竝土工工事ノ施行、線路ノ敷設等ハ盡ク單線式ニ據ルヘシ

一粁ノ收入カ一年、、、(一)、、、法ニ達スルニ至ラハ免許人ハ第二線ヲ敷設スヘシ、前項ノ場合ニ非スト雖モ縣知事ハ縣(町村)ノ名ニ於テ又工部大臣ハ國家ノ名ニ於テ線路ノ全部若シクハ一部ノ複線敷設ヲ要求スルコトヲ得、此際第二線路ノ建設費ハ縣知事若シクハ工部大臣之レヲ支辨ス

命令條件ニ準據シ期限内ニ複線工事ニ著手セサル際當該官廳ハ鐵道全部ノ供託ヲ受ケ、自ラ其工事ヲ施行スヘシ

鐵道建設ノ爲メ買收セル土地ハ他ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス

本條ノ規定ニテ充分ナラサル際ニハ左ノ條項ヲ以テ之ニ更フ

「土地ノ買收、建造物竝土工工事ノ施行、線路ノ敷設等ハ複線式ニ據ルヘシ

但シ免許人ハ當分ノ內單線式ノ土工ヲ施シ線路ヲ敷設スル事ヲ許可セラルルモノトス

鐵道建設ノ爲メ買收セル土地ハ他ノ用途ニ使用スルコトヲ得ス

(一) 場合ニ依リテ異ナルモ普通ハ參萬五千法トス

第七條 軌間竝車輛定規

軌間ハ、、、、、(一)、、、、トス

車體及其積載物ノ幅ハ、、、、(二)、、ヲ超ユヘカラス、車輛全部ノ幅ハ踏段等ノ外部突出物ヲモ入レ、

、、(三)、、、ヲ超ユヘカラス又車輛ノ高サハ諸種ノ外部突出物ヲモ入レ機關車ニアリテハ、、、(三)、

、、、其他ノ車輛竝積載物ニアリテハ、、、、、、、、(三)、、、以內トス

複線ノ部分ニ於ケル兩線路ノ間隔ハ、、、、、、、、(四)、、、、トス

軌條ノ外側トバラストノ肩トノ幅ハ、、、、、、、、(五)、、、、トス

バラストノ厚サハ、、、、、(六)、、、、ヲ下ルヘカラス、施工基面ノ境界ハ車輛ノ外部突出物ノ端ト九十

糎以上ノ距離アル事ヲ要ス

線路ニ沿ヒ踏段ト同水平以上ニ在ル障礙物ト車輛外部突出物トノ間隔ハ、特ニ監督官廳ヨリ許可セラ

ルル場合ノ外六十糎ヲ下ルヘカラス

免許人ハ線路ニ沿ヒ線路排水ノ爲メ必要ナル溝渠ヲ設クヘシ

溝渠ノ幅、深サ等ハ各場合ニ應シ免許人ノ腹案ニ基キ縣知事ニ於テ定ムルモノトス

(一) 一米四四、一米、(アルジユリ國ニ於テハ一米〇五五ノ線路アリ)八〇糎、七五糎、六〇糎ノ區別アリ

(二) 各場合ニ應シテ定ムルモ一米四四、ノ線路ニアリテハ同一地方ノ普通鐵道ニ準ス但シ三米二〇、ヲ超エサルモノトス

其他ノ線路ニアリテハ左表ニ依リテ之ヲ定ム

	線路			
	一、〇五五米	一、〇〇米	〇、八〇米	〇、六〇米
車體竝其積載物ノ幅	二、五〇	二、一〇	二、〇〇	一、八〇
車輛全部ノ幅	二、八〇	二、四〇	二、三〇	二、一〇

(三) 此等ノ幅ハ乘降場其他ノ建造物ノ幅ヲ定ムヘキ車輛定規ノ幅ニ等シ

一米四四ノ線路ニアリテハ四米二〇トス其他ノ線路ニアリテハ左表ノ制限ヲ超エサルモノトス

機關車ノ高サ	線路
其他ノ車輛竝積載物ノ高サ	一、〇五五米
	一、三五〇
	二、三〇
	二、九〇
	二、七〇
	二、四〇

此等ノ高サハ線路上ニ設クル建造物ノ標準トナルモノナリ

(四) 二線ノ間隔ハ各線上ヲ走行スル車輛ノ外部突出物ノ間ニ尙ホ五十糎以上ノ空地ヲ殘スコトヲ要ス

(五) 特殊ノ場合ヲ除クノ外普通、一米四四ノ線路ニアリテハ七五糎〇一米〇五五、一米、並八〇糎ノ線路ニアリテハ六〇糎。又七五糎竝六〇糎ノ線路ニアリテハ五〇糎以上トス

(六) 枕木ノ下ノ厚サハ一五糎以上トス

但シ軌條ノ表面ト乘降場面トノ差ハ三〇糎ヲ下ルヘカラス

右ヲ標準トシテバラストノ厚サヲ定ム

第八條 直線、曲線及勾配

曲線ノ半徑ハ、、、(一)ヲ下ルヘカラス

方向相反スル二個ノ連續セル曲線ハ、、、、(二)以、、上ノ直線ヲ以テ結フコトヲ要ス

勾配ハ一米ニ付キ、、、(三)、、、糎ヲ上ルヘカラス

力向相反シ且ツ同一ノ箇所ニ水ヲ流下スルカ如キ二個ノ連續セル勾配ノ間ニハ、、、(四)、、、米以上ノ水平ノ部分ヲ置クヘシ

曲線ノ部分ニアル勾配ハ成ルヘク其角度ヲ緩ナラシムヘシ

特別ノ場合ニ於テ免許人ハ本條ノ規定ニ自己ノ必要ヲ認メタル變更ヲ加フル事ヲ得、但シ豫メ縣知事ノ認可ヲ得ルニ非サレハ其變更ヲ實施スルコトヲ得ス

(一) 特殊ノ場合ヲ除キ一米四四ノ線路ニアリテハ一五〇米。一米〇五五竝ニ一米ノ線路ニアリテハ七五米。八〇糎ノ線路ニアリテハ六〇米。七五糎ノ線路ニアリテハ五〇米。六〇糎ノ線路ニアリテハ四〇米ヲ普通トス

(二) 一米四四ノ線路ニアリテハ六〇米。一米〇五五、竝一米ノ線路ニアリテハ四〇米。八〇糎ノ線路ニアリテハ三〇米。七五糎竝六〇糎ニアリテハ二五米ヲ普通トス

(三) 各々場合ニ應シテ定ムルモノトス

(四) 一米四四ノ線路ニアリテハ六〇米。一米〇五五、一米竝八〇糎ノ線路ニアリテハ四〇米。七五糎竝六〇糎ノ線路ニアリテハ三〇米ヲ普通トス

第九條 停車場

旅客停車場及貨物停車場ノ位置竝其數ハ免許人ノ腹案ニ基キ特別ノ調査ヲ爲シタル上縣參事會（町村會）ニ於テ定ム

但シ左ノ地域ニ停車場ヲ設置スヘキコトヲ豫メ認定シ置クモノトス

（地　名）

營業開始後縣（町村）竝免許人カ共ニ新停車場設置ノ必要ヲ認メタル際ハ豫メ特別ノ調査ヲ爲スヘシ

其位置ハ免許人ト合議ノ上縣參事會（町村會）ニ於テ定ム

待避停車場ノ位置、面積、竝其數ハ縣知事ノ定ムル所トス、且ツ縣知事カ公安ノ爲メ必要ヲ認ムル際ハ

營業開始後ト雖モ待避停車場ノ新設、場内竝場外ニ於ケル線路ノ增設等ヲ命スル事ヲ得

免許人ハ工事着手前左記ノ圖書類ヨリ成ル各停車場設計書ヲ縣知事ヘ提出スヘシ

一、線路、乘降場、建物及場内場外ノ形勢ヲ表セル五千分ノ一平面圖

二、縮尺一糎一米ノ建物正面圖

三、設計ノ主要ナル點ニ付キ記述セル覺書

第十條　道路トノ交叉

免許人ハ當該官廳ヨリ認可ヲ受ケタル方法ニ依リ、鐵道ノ爲メ中斷セル道路ノ聯絡ヲ回復スヘシ

第十一條　架道橋

線路カ國道縣道及里道等ノ上ヲ通過スル際工部大臣若シクハ縣知事ハ當該地方ノ情況ニ鑑ミ架道橋ノ

徑間ニ付キ定ムルモノトス但シ其長サハ如何ナル事情アルモ國道ニアリテハ八米(一)縣道並里道ノ大ナルモノニアリテハ六米(一)其地ノ小道路ニアリテハ四米(一)ヲ下ル事ヲ得ス

架道橋ノ高サハ道路面ヨリ四米三〇ヲ下ルヘカラス

兩胸壁間ノ幅ハ、、、、、(二)、、、ヲ下ルヘカラス、欄壁ノ高サハ如何ナル場合ニアリテモ一米以上ト爲スヘシ

複線敷設ノ箇所ニ於ケル架道橋欄壁間ノ幅ハ、、、、、(二)ヲ下ルヘカラス

(一)人口稠密ノ地、農業機械使用ノ地方等其他ノ事情ニ依リ此幅ヲ增張スルモノトス

(二)單線ノ場合ニハ一米四四ノ線路ハ四米五五。一米〇五五、並一米ノ線路ハ四米。八〇糎ノ線路ハ三米七〇。七五糎並六〇糎ノ線路ハ三米六〇ヲ普通トス

複線ノ場合ニハ一米四四ノ線路ハ八米。一米〇五五、並一米ノ線路ハ七米三〇。八〇糎ノ線路ハ六米六〇。七五糎並六〇糎ノ線路ハ六米三〇ヲ普通トス

第十三條　跨線人道橋

線路カ國道縣道及里道等ノ下ヲ通過スル際工部大臣若シクハ縣知事ハ地方ノ情況ニ鑑ミ人道橋欄壁間ノ幅ヲ定ムル但シ其幅ハ如何ナル事情アルモ國道ニアリテハ八米(一)縣道及里道ノ大ナルモノニアリテハ六米(一)其他ノ道路ニアリテハ四米(一)ヲ下ルコトヲ得ス

人道橋徑間ノ長サハ單線ノ場合ニハ、、、、、(二)、、、複線ノ場合ニハ、、、、、(二)、、、ヲ下ルヘカラス

軌條ノ表面上二米ノ高サ迄此長サヲ保ツコトヲ要ス、　軌上面上垂直ノ高サハ車輛定規ノ高サト相應スヘキモノニシテ、、、、(三)、、、ヲ下ルヲ得ス

(一)　人口稠密ノ地、農業機械使用ノ地方等其他ノ事情ニ依リ此幅ヲ增張スルモノトス

(二)(三)　第十一條ニ定メタル架道橋ノ幅ニ等シ

一米四四ノ線路ニアリテハ四米八〇其他ノ線路ニアリテハ特別ノ事情アルノ外車輛定規ノ高サニ六〇糎ヲ加ヘタルモノニ等シキヲ普通トス

第十三條　水平交叉

鐵道カ國道、縣道、里道其他ノ公私道ト水平交叉ヲナス際ハ車馬ノ通行ニ差支無キ樣軌條竝護輪軌條ヲ道路面ト同水平ニ敷設シ沈下若シクハ突起セシムヘカラス

特ニ當該官廳ノ許可ヲ受クルニ非レハ鐵道ハ四十五度以內ノ角度ヲ以テ道路ト水平交叉ヲ爲スコトヲ得ス

踏切道ノ幅ハ國道縣道並里道ノ大ナルモノニアリテハ六米、其他ノ道路ニアリテハ四米ヲ下ルヘカラス(一)

縣知事ハ免許人ノ腹案ニ基キ、踏切箇所ニ設クヘキ柵門竝番人詰所ノ方式ヲ定ム

縣知事ハ交通ノ頻繁ナラサル道路ノ踏切ニモ柵門竝番人詰所ノ設置ヲ免除スルコトヲ得

踏切箇所ニ於ケル道路ノ勾配ハ十米ニ付二十糎以內ト爲スヘシ

(一)　人口稠密ノ地、農業機械使用ノ地方等其他ノ事情ニ依リ此制增張スルモノトス

第十四條　道路ノ改修

道路ノ位置若シクハ表面ヲ變更スル場合ニ於テ改修道路ノ勾配ハ國道ニアリテハ一米ニ付三糎、縣道竝里道ニアリテハ五糎ヲ超ユヘカラス　但シ縣知事ハ事情止ムヲ得サルモノト認ムル際縣道竝里道ニ關シ前記條項ノ違背ヲ許容スルコトヲ得、國道ニ關シテハ總テ工部大臣ノ決定スル所トス

第十五條　水路及橋梁ノ空隙

鐵道工事ノ爲メ堰止若シクハ變更ヲ施シタル水路ノ修覆ハ免許期間ヲ終ル迄免許人ニ於テ負擔シ且ツ「シャンブルダンプラン」(不明)ニ來ス危險ヲ防止スヘキ適當ノ施設ヲ爲スヘシ

河流運河其他ノ水路上ニ架設スル橋梁欄壁間ノ幅ハ單線ニアリテ、、、、、(一)、、、、複線ニアリテ、、、、(一)、、、、以上ナルコトヲ要ス且ツ橋梁ニハ線路工夫ノ待避所ヲ設クヘシ、　欄壁ノ高サハ一米ヲ下ルコヲト得ス

橋梁ノ徑間斷面積ハ各場合ニ依リ地方ノ狀況ニ鑑ミ監督官廳ニ於テ定ムルモノトス

監督官廳カ其必要ヲ認メタル際、免許人ノ架設セル鐵道橋ニ車道若シクハ人道ヲ添設セシムル事ヲ得之レカ爲メ增加セル費用ハ場合ニ應シ政府、縣若シクハ町村ニ於テ負擔スルモノニシテ其額ハ當該官廳ノ技師若シクハ吏員ト會社ノ技師トノ合議評定ラ以テ定ム

(一)　第十一條ニ定メタル幅ニ等シ

第十六條　隧道

隧道內軌條表面ト同水平ニアル兩側壁間ノ幅ハ單線ニアリテハ、(一)、、、

シ之レカ審査ノ爲メ左ノ部分ニ關スル調書ヲ提出スヘシ

一、市街地ニ於ケル踏切

二、道路ト接近ノ部分

三、水平交叉ノ兩側各十米以上ノ地域

四、停車場外

第二十一條　土地竝損害ノ代償

線路竝附屬物ノ建設、道路竝水路ノ附替其他ノ工事施行ノ爲メ必要ナル土地ハ免許人ニ於テ購買シ代價ヲ支拂フヘシ

土地ノ一時占有、地表破壞、工場ノ休業、變更、取拂其他ノ工事ニ起因スル損害ハ總テ免許人ニ於テ負擔シ之レカ賠償ヲ爲スヘシ

(一)縣若シクハ郡カ土地給付ノ契約ヲ爲セル場合ニハ此條項ヲ變更ス

第二十二條　免許人ノ享有スル權利

公益ヲ目的トセル起業ナルヲ以テ公共工事ニ關シ法令規則ヲ以テ當該官廳ニ附與セラレタル土地收用土地切取、運搬及堆積等ノ權利ハ免許人ニ於テ享有ス但シ免許人ハ同時ニ法令規則ノ定ムル所ニ依リ當該官廳ニ對シ義務ヲ負フモノトス

第二十三條　軍事關係

國境地帶及要塞地帶内ニ於テ工事ノ準備竝施行ヲ爲ス際免許人ハ工事ニ關シ法令規則ノ定ムル諸種ノ手續及條件ヲ履行スヘシ

第二十四條　鑛山

線路カ採堀特許ノ地域ヲ横斷スル際工部大臣ノ命スル坑内支保工事其他線路横斷ノ爲メ鑛業特許人ノ受クル損害ハ總テ免許人ニ於テ負擔スヘシ

第二十五條　採石場

線路カ採石場所在ノ地域ヲ通過シ若シクハ地中ニ於テ之ヲ横斷スル際ハ崩壞ノ虞アル坑虚ヲ塡充シ若シクハ支保工事ヲ施シタル後ニ非レハ運轉ヲ開始スルコトヲ得ス之ニ關シ工部大臣カ命スル工事ハ免許人ニ於テ自己ノ負擔ニ於テ施行スヘキモノトス

第二十六條　工事監督

工事ノ監督並監視ハ工部大臣主管ノ下ニ縣知事之ヲ行フ

工事ハ成ルヘク通行ノ自由安全ヲ妨ケサル樣ニ施行スヘシ、道路上ニ穿テル堀穴ニハ夜間燈火並番人ヲ附スヘシ

工事ハ競爭入札若シクハ豫メ承諾ヲ得タル請負人ノミノ入札ニ附スヘシ但シ或ル定マレル種類ノ施設若シクハ供給ニ付重役會議ニ於テ隨意契約ノ利アルヲ認メタル際ハ其契約ニ關シ株主總會ノ承認ヲ受クヘシ

線路全部。土工、建造物ノ工事、及線路ノ一區若シクハ數區ノ建設等ニ付キテハ如何ナル場合ニアリテモ隨意契約ニ依リテ請負ハシムルコトヲ禁止ス

縣知事ノ監督並監視ノ目的ハ免許人ヲシテ本條件書並認可ヲ受ケタル工事方法書ノ條項ニ違背セサラシムルニアリ

第二十七條　竣功監査

線路一部ノ工事竣功シ有効ニ運轉ヲ行ヒ得ルニ至ル時縣知事ハ一人若シクハ數人ノ吏員ヲ派シテ工事ノ監査ヲ爲スヘシ

縣知事ハ此監査報告書ニ依リ審査ノ上線路一部ノ營業開始ヲ許可ス、免許人ハ此許可ヲ受ケタル後營業ヲ開始シ免許條件書ニ定ムル運賃ヲ徵收スルコトヲ得、但シ此一部營業開始ハ全線ノ營業開始ヲ俟チテ確定スルモノニシテ全線ノ營業開始ハ一部營業開始ト同樣ノ手續ニ依ルモノトス

第二十八條　境界及地積圖

工事ヲ竣功遲滯無ク晩クモ線路全部若シクハ各部ノ營業開始後六ケ月以內ニ免許人ハ縣ノ代表者立會ノ上自己ノ費用ヲ以テ沿道土地所有者トノ境界ヲ確定シ且ツ鐵道竝附屬物ノ地積圖ヲ調製スヘシ

免許人ハ又縣知事ノ指定セル吏員ト共ニ自己ノ費用ヲ以テ諸種建造物ニ關スル明細書ヲ調製シ之レニ各建造物ノ側面圖ヲ添附スヘシ

免許人ハ自己ノ費用ヲ以テ境界確定始末書、地積圖、建造物明細書及圖面ヲ調製ノ上之ヲ縣廳記錄課ニ

送附シ之ヲ寄托スヘシ

後日ニ至リ免許人カ營業上必要ヲ認メタルニ依リ境界外ニ取得シ線路ニ編入セル土地ハ其取得ノ度毎ニ境界ノ追補ヲ行ヒ且ツ地積圖ニ追加スヘシ、又圖面調製後ニ出來上レル建造物ハ之ヲ圖面ニ追加スヘシ

第二章　保全竝營業

第二十九條　保全

線路及其附屬物ハ常ニ良好ノ狀態ニ保全シ運轉ヲ安全且容易ナラシムヘシ

保全費、普通竝特別修繕費等ハ總テ免許人ノ負擔トス

一旦竣功シタル線路カ常ニ良好ノ狀態ニ保全セラレサル際縣知事ハ職權ヲ以テ自ラ之ヲ行ヒ免許人ヲシテ其費用ヲ負擔セシムヘシ

費用ノ總額ハ縣知事ノ適當ト認ムル方法ニ依リテ償却セシムルモノトス

第三十條　監守

列車運轉及鐵道ト平面交叉ヲナス道路通行ノ安全ヲ確保センカ爲メ縣知事カ必要ヲ認ムル箇所ニ免許人ハ自己ノ負擔ヲ以テ適數ノ監守ヲ置クヘシ

第三十一條　車輛

線路上ニ運轉スル輛車ハ第七條第二項ニ定メタル車輛定規ニ準據シテ製作シ且ツ軍事輸送ニ關シ定ム

ル條件ヲ具備セシムヘシ

機關車ハ最良ノ方式ニ則リテ製作シ、火煙ノ噴出ヲ防止シ且ツ總テ其使用ニ關シ監督官廳ニ於テ定ムル條件ヲ具備セシムルコトヲ要ス

客車ハ最良ノ方式ニ則リテ製作シ　且總テ旅客運送ノ用ニ供スル車輛ニ關シ定ムル條件ヲ具備セシムヘシ、客車ニハ總テ擔彈器ヲ附シ(二階附ト爲ス事ヲ得)(一)

下階ハ全部被覆ヲ施シ倚附(モタレ)ノ腰掛ヲ備ヘ窓ハ硝子戸ヲ以テ閉鎖シ窓掛ヲ附シ夜間ハ燈火ヲ點スヘシ(一)

上階ニハ屋蓋ヲ附シ倚附ノ腰掛ヲ備ヒ座席ニ達スル椽並階段ニハ高サ一米十糎以上ノ堅固ナル欄ヲ附スヘシ)(一)

倚及座面ニハ傾斜ヲ附シ且ツ倚ハ乘客ノ頭ノ高サト爲スヘシ

座席ニハ、、、、等級ヲ設ケ、各等級座席ノ裝備ニ付キテハ縣知事ノ定ムル指令ニ準據スヘシ

車室内ニハ其座席數ヲ掲示スヘシ

縣知事ハ單獨ニテ旅客列車ヘ乘車スル婦人ノ爲メ一車室ヲ定メシムル事ヲ得

監督官ノ意見ニ基キ縣知事カ特ニ許可スル場合ノ外客車ニハ冬期間暖房ノ設備ヲナスヘシ

客車、貨車、郵便車、家畜車其他ノ車輛ハ總テ堅牢ニ製作スヘシ

免許人ハ車輛ノ使用開始ニ付キテ其關係法規ヲ遵守スヘシ

列車ヲ編成スル制動機附車輛ノ數ハ勾配ニ應シテ縣知事ノ定ムル所トス

機關車、炭水車其他ノ車輛ハ常ニ良好ノ狀態ヲ保タシムヘシ

(一)　一米以下ノ線路ニアリテハ括弧内ノ部分ヲ省略ス、此場合ニハ二階附客車ノ使用ヲ許サス

第三十二條　列車數

列車數ハ全線路ニ於テハ一日、、、、、ヲ下ルヘカラス

第三十三條　保安竝營業ニ關スル規定

免許人ハ鐵道ノ保安並營業ニ關スル千八百四十五年七月十五日竝千八百八十年六月十一日公布法律ノ適用ニ基ク法令及大臣縣知事ノ指令施行ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

免許人ハ鐵道營業ニ關スル内規ニ付キ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

縣知事ハ免許人ノ提案ニ基キ監督官ノ意見ヲ徵シ線路各區ニ於ケル旅客列車竝貨物列車ノ速力、列車運轉表等ヲ定ム

第三章　免許ノ期間、買收、竝失效

第三十四條　免許ノ期間

本條件書第一條ニ掲ケタル、、、、何々、、、、ニ至ル線路ノ免許期間ハ認可ノ法律公布ノ日ヲ以テ始マリ、、、、ニ終ルモノトス

第三十五條　免許期滿

免許期滿ノ際ハ縣(町村)ハ免許人カ線路竝其附屬物ノ上ニ有スル權利ノ全部ヲ繼承シ直チニ其效果ヲ

收得ス

免許人ハ線路竝之レニ附屬スル不動產即チ停車場建物倉庫、工場發電送電ニ關スル工場其他ノ設備、監視人詰所等ヲ良好ノ狀態ニ保全シ縣(町村)ニ交付スヘシ、線路ニ附屬スル其他ノ不動產即チ柵垣、道路、附替道路、轉車臺、給水裝置、水力動重機其他ノ据附機械等ニ付キテモ亦同シ

免許人カ其義務ヲ充分ニ果サヽル際縣(町村)ハ免許期滿ノ期日ノ五年前ヨリ鐵道ノ益金ヲ收得シ之ヲ線路竝其附屬物ノ保全費ニ充當スルコトヲ得

縣(町村)ハ車輛、停車場用竝ニ工場用器具機械等ノ如キ動產(一)ノ全部若シクハ一部ヲ評定價格ヲ以テ買收スルコトヲ得、買收ノ代價ハ免許期滿シ物品ノ引渡ヲ了セル後六ケ月以內ニ縣(町村)ヨリ免許人ヨリ支拂フモノトス

縣(町村)ハ免許人ノ要求ニ應シ評定價額ヲ以テ材料、燃料其他諸種ノ貯藏品ヲ讓受クヘシ又免許人ハ縣(町村)ノ要求ニ應シ同樣ノ手續ニ依リ前記ノ貯藏品ヲ讓渡スヘシ

但シ縣(町村)ハ六ケ月間鐵道營業ニ必要ナル額以上ヲ讓受クル義務ナキモノトス

(一) 若シ縣カ車輛器具機械ノ代價ヲ自己ノ負擔セル資本金、補助金、償却金等ヲ以テ支拂ハントスル際ハ特ニ其旨ヲ記載スヘシ

第三十六條　免許ノ買收

縣(町村)ハ何時ニテモ鐵道ヲ買收スルノ權利ヲ有ス

營業開始後十五年以內ニ買收スル際ハ千八百八十年六月十一日公布法律第十一條第三項ノ規定ニ依リテ之ヲ行フ　前記十五年ノ期間ハ全線路營業開始ノ日若シクハ本條件書第二條ニ定ムル期間滿了ノ日ヨリ起算ス、第二ノ場合ニ於テハ工事竣功期間ニ加ヘタル伸長期間ノ影響ヲ受クルモノニアラス

營業開始後十五年ヲ經テ縣(町村)カ免許ヲ買收セントスル際ハ買收期日前七年間ニ鐵道ノ得タル純益(補助金ヲモ含ム)ヲ基トシ買收價格ヲ決定ス、即チ先ツ七年ノ中利益ノ最モ尠ナカリシ二年ヲ除キ殘リ五年分ノ平均純益ヲ算出ス

此平均純益金ハ免許期間ノ滿了スル迄免許人ノ受クヘキ年賦金ニ當ルモノトス

如何ナル場合ニ於テモ該年賦金ハ計算ノ基トナレル七年ノ中ノ最後ノ年ノ純益ヨリモ少額ナル可カラス

尙ホ免許人ハ第三十五條第四項竝第五項ニ依リ免許期滿ノ際受クヘキ代償ヲ買收後六個月以內ニ受取ルヘシ、且ツ此際ニアリテハ縣(町村)ハ動產ノ全部ヲ讓受クル義務アルモノトス

線路ヲ普通線路ニ編入スル場合ニハ千八百八十年六月十日公布法律竝本條件書ニ起因シ縣(町村)ノ保有セル權利ヲ政府ニ於テ繼承ス此際免許人ハ何等ノ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

本條第一項ニ定メタル十五年ノ期間經過後政府カ免許ヲ買收セントスル際買收ハ本條第一項ノ規定ニ準シテ行ハル、モノトス、若シ又政府カ期間經過前ニ買收セントスル際免許人ニ支拂フヘキ買收價格ハ千八百八十年六月十一日公布法律第十一條第三項ニ定メタル特別委員會ヲ以テ精算ス可シ

第二十七條　失效

第二條竝第三條ニ定メタル期間内ニ免許人カ縣知事ヘ工事方法書ヲ提出セス若クハ工事ニ着手セサル際工部大臣ハ一回催告ヲナシタル後免許ノ失效ヲ宣告ス但參事院ニ訴願提起ノ場合ハ此限ニアラス

前項ノ場合ニハ第六十六條ノ規定ニ依リ納付セル保證金、、、、、ヲ縣(町村)ニ於テ沒收ス

第二十八條　失效ノ場合ニ於ケル工事ノ遂行

免許人カ第二條ニ定メタル期間竝條件ニ準シテ工事ヲ竣功セサル場合、本條件書ヲ以テ定メタル諸種ノ義務ヲ履行セサル場合竝千八百八十年六月十一日公布法律第十條ニ揭ケタル場合ニハ免許條件ニ依リ保證金ノ一部若シクハ全部ノ沒收竝免許ノ失效ヲ來スモノトス、就レノ場合ニアリテモ縣知事ノ上申ニ基キ一回ノ催告ヲ爲シタル上工部大臣ニ於テ命令スルモノトス但シ參事院ニ訴願提起ノ場合ハ此限ニ非ス、保證金ノ全部若シクハ一部沒收ノ場合ニアリテハ大臣ノ指定スル期間内ニ之ヲ補塡スヘシ

免許失效ノ場合ニハ工事ノ繼續竣功其他免許人ト締結セル契約ヲ履行セシメンカ爲メ起業、用地、施行工事、建設用竝營業用材料、車輛其他ノ器具機械及營業開始線路ノ評定價格ヲ標準トシテ入札ヲ行フ

價格ハ縣知事ノ評定ニ基キ免許人ノ承認ヲ經工部大臣ノ定ムル所トス、免許人ハ縣知事ヨリ其評定草案ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ自己ノ意見ヲ開申スヘシ

豫メ縣知事ノ承認ヲ受ケタル者ニ非サレハ入札ニ參加スルヲ得ス但シ失效免許人カ工部大臣ヘ願出テタル際ハ此限ニ非ス

入札希望者ハ定メラレタル期限内ニ契約履行ニ必要ナル財源ヲ證明スヘキ書類ヲ添付シ書面ヲ以テ出ツヘシ

縣知事ハ該證明書類ヲ審査シ其決定ノ次第竝入札期日ノ各入札者ニ通知スヘシ

入札ノ許可ヲ受ケタル者ハ免許人カ支拂フヘキ費用ノ三十分ノ一以上ノ額ヲ保證金トシテ預金局若シクハ縣本金庫ニ供託スヘシ

入札ハ千八百二十九年五月十日公布勅令第十一條、第十二條、第十三條、第十五條竝第十六條ニ定メタル手續ヲ以テ行フモノトス

入札額ハ評定價格ヨリモ低額ナルヘカラス

新免許人ハ本條件書ノ條項ヲ遵守シ失效免許人カ免許契約ニ依リ受ケ居タル諸種ノ補助金ヲ繼承スヘシ、失效免許人ハ新免許人ヨリ落札ノ金額ヲ受納スルモノトス

償還未濟ノ保證金ハ縣ノ所得ニ歸ス

入札カ無效ニ終ル際ハ三ケ月ヲ經テ第二次入札ヲ行フ、　第二次入札ニ於ケル入札額ハ評定價格ヨリモ低額ナルコトヲ得、

若シ此第二次入札モ不結果ニ終ル際ハ免許人ハ全ク其權利ヲ失ヒ起業、用地、施行工事、建設用竝營業用貯藏材料車輛其他ノ器具機械及營業開始線路ハ免許機關ノ所有ニ歸ス

第二十九條　營業停止

線路ノ一部若クハ全部ノ營業ヲ停止セル場合及線路竝車輛カ良好ノ狀態ニ保全セラレサルカ爲メ若ク
ハ免許人カ擔任スル道路ノ保修ヲ怠レルカ爲メ公安ヲ害スルニ至リタル場合ニ縣知事ハ直チニ免許人
ノ負擔及責任ヲ以テ危險ヲ防止スヘキ必要ノ處置ヲ爲スモノトス、縣知事ハ前記ノ場合ニ爲シタ
ル處置及運轉停止ノ際業務ノ繼續ヲ計ランカ爲メ免許人ノ負擔及責任ヲ以テ施行セントスル處置ニ付
キテ工部大臣ヘ届出ツヘシ
大臣ハ免許人カ業務ヲ回復シ運轉ノ安全ヲ確實ナラシムヘキ期間ヲ定ム、若シ定メラレタル期間
內ニ公安ヲ障礙セスシテ繼續シ得ヘキ狀態ノ下ニ營業ヲ回復スルコト能ハサレハ大臣ハ縣參事會ノ意
見ニ基キ免許ノ失効ヲ宣告スヘシ
免許失効ノ宣告ニ依リ線路竝其附屬物ハ前條ニ定メタル手續ヲ以テ入札ニ附セラルルモノトス

第四十條　不可抗力ノ場合

免許人カ不可抗力ノ爲メ其義務ヲ履行セサル場合ニハ前三條ノ規定ヲ適用セス且ツ之レカ免許ノ失効
ヲ來スモノニ非ラス

第四章　旅客貨物運賃竝運送條件

第四十一條　運賃表

免許人ハ本條件書ニ定ムル義務ヲ履行シ其建設費竝營業費ヲ償却センカ爲メ左ニ揭ケル通行料竝運送
料ヲ免許期間內徵收スルコトヲ得

一、七噸乃至十噸以上ノ炭水車……一、三五〇　〇、九〇〇　一、二五〇
一、旅客若クハ貨物列車ノ通行料カ單獨機關車竝炭水車ノ分ヨリモ低額ナル際其牽引機關車ノ運賃ハ列車ヲ牽引セサルモノニ準ス
積込貨車ノ運賃ハ空車ノ分ヨリ低額ナルヘカラス
一、(一)一重底ニシテ內部ニ腰掛一個ヲ有スル二輪車竝四輪車……〇、一五　〇、一〇　〇、一五
(二)乘合馬車等ノ如ク二重底ニシテ內部ニ腰掛二個ヲ有スル四輪車……〇、一八　〇、一四　〇、二五
荷送人ノ請求ニ依リ速達便ニ運送セラルヽ際ノ運賃ハ前記ノ額ノ二倍トス
前二項ノ內(一)ノ場合ニハ二人(二)ノ場合ニハ三人ヲ無賃ニテ該車輛內ニ乘車セシムヘシ、定數以上ノ乘客ニ對シテ二等ノ座席料ヲ徵收ス……〇、一二　〇、〇八　〇、一五
一、二輪竝四輪ノ空荷車……〇、一二　〇、〇八　〇、一五
荷積ヲナセル荷車ハ前記運賃ノ外一噸一粁ニ付……〇、二〇　〇、一四　〇、二五
四、葬儀竝屍体運送速達便
一、一個若シクハ數個ノ屍躰ヲ容レタル葬儀車但シ二重底腰掛二個ヲ有スル四輪車ニ限ル……〇、三六　〇、二八　〇、四五
一、別室ニ容レ普通列車ヲ以テ運送スル死体一個ニ付キ……〇、一八　〇、一二　〇、二三
一、特別車ニ容レ急行列車ヲ以テ運送スルモノ……〇、六〇　〇、四〇　〇、七五

免許人ハ本條件書ニ定ムル義務ヲ履行シ其建設費竝營業費ヲ償却セシカ爲メ左ニ掲ケル通行料竝運送料ヲ免許期間内徴收スルコトヲ得

運賃表

	通行料	運送料	總計
一、一人若クハ一頭一粁ニ付キ			
速達便			
旅客 一等	法(一)〇、〇六七	法(一)〇、〇三三	法(一)〇、一〇〇
二等	〇、〇五	〇、〇二五	〇、〇七五
三等	〇、〇三七	〇、〇一八	〇、〇五五
小兒 三才以下ノ小兒ニシテ同伴者ノ膝上ニ抱カルルモノハ無賃トス			
三才以上七才以下ハ運賃半額ニテ一座席ヲ占ムルコトヲ得但シ同一車室ニ於テハ小兒二人ニテ一座席ヲ占ムルモノトス			
七才以上ハ全額トス	〇、〇一	〇、〇〇五	〇、〇一五
犬 旅客列車ニテ運送セラルルモノ……但總額ニテ〇、二〇ヲ下ルヘカラス	〇、〇七	〇、〇三	〇、一〇
普通便	〇、〇二五	〇、〇一五	〇、〇四
牛、馬、騾其他……	〇、〇一	〇、〇〇五	〇、〇一五
犢、豚……			
羊、野羊……			
此等ノ獸類カ荷送人ノ請求ニ依リ速達便ニテ運送セラルル際ノ運賃ハ前記ノ額ノ二倍トス			
二、一噸一粁ニ付キ			
速達便貨物			
牡蠣、生魚、食料品、旅客列車ヲ以テ運送スル手荷物其他……	〇、二〇	〇、一六	〇、三六
普通便貨物			
一級品 酒精類、油類、指物用材、染料材、其他外國產木材、化學製品、卵、生肉、獵獲鳥獸、砂糖、珈琲、藥劑、乾物、織物類、殖民地產物、製造品、武器……	〇、〇九	〇、〇七	〇、一六
二級品 麥、穀類、麥粉、澱粉性野菜、米、玉蜀黍、粟、其ノ他ノ食料品、石灰、薪炭、竿、樣(タルキ)板、厚板、建築用木材、大理石材、雪花石膏(アルバアトル)壓青、綿糸、毛糸、葡萄酒、酢、飲料、麥酒、麹、骸炭、鐵、銅、鉛其ノ他ノ金屬鑄造金屬……	〇、〇八	〇、〇六	〇、一四
三級品 石材、鐵鑛以外ノ鑛石、粗製令屬(モエ)、塩、素石、臼石、粘土、煉瓦、石盤……	〇、〇六	〇、〇四	〇、一〇
四級品 石炭、泥灰石、灰、肥料、石灰石、道路敷石、鐵鑛砂利……	〇、〇五	〇、〇三	〇、〇八
貸切扱特別賃率			
各級品貨物	〇、〇五	〇、〇二	〇、〇六
秣、藁、其他一米立方ノ重量五百瓩ヲ超ヘサル貨物ハ一貨車ニ付キ一粁五十糎トス			
三、普通便ニテ運送スル諸種ノ車輛一車一粁ニ付キ			
一、三噸乃至六噸ノ貨車……	〇、〇九	〇、〇六	〇、一五
一、六噸以上ノ貨車……	〇、一二	〇、〇八	〇、二〇
一、十二噸乃至十八噸機關車（列車ヲ牽引セサルモノ）……	一、八〇	一、二〇	三、〇〇
一、十八噸以上ノ機關車（列車ヲ牽引セサルモノ）……	二、二五	一、五〇	三、七五
一、七噸乃至十噸ノ炭水車……	〇、九〇	〇、六〇	一、五〇
一、十噸以上ノ炭水車……	一、三五	〇、九〇	二、二五
旅客若クハ貨物列車ノ通行料カ單獨機關車竝炭水車ノ分ヨリモ低額ナル際其牽引機關車ノ運賃ハ列車ヲ牽引セサルモノニ準ス			
積込貨車ノ運賃ハ空車ノ分ヨリ低額ナルヘカラス			
一、(一)一重底ニシテ内部ニ腰掛一個ヲ有スル二輪車竝四輪車……	〇、一五	〇、一〇	〇、二五
一、(二)乘合馬車等ノ如ク二重底ニシテ内部ニ腰掛二個ヲ有スル四輪車……	〇、一八	〇、一四	〇、三二
荷送人ノ請求ニ依リ速達便ニ運送セラルヽ際ノ運賃ハ前記ノ額ノ二倍トス			
前二項ノ内(一)ノ場合ニハ二人(二)ノ場合ニハ三人ヲ無賃ニテ該車輛内ニ乘車セシムヘシ、定數以上ノ乘客ニ對シテ二等ノ座席料ヲ徴收ス			
一、二輪竝四輪ノ空荷車……	〇、一二	〇、〇八	〇、二〇
荷積ヲナセル荷車ハ前記運賃ノ外一噸一粁ニ付	〇、〇八	〇、〇六	〇、一四
四、葬儀竝屍体運送速達便			
一、一個若シクハ數個ノ屍躰ヲ容レタル葬儀車但シ二重底腰掛二個ヲ有スル四輪車ニ限ル……	〇、二六	〇、一八	〇、四四
一、別室ニ容レ普通列車ヲ以テ運送スル死体一個ニ付キ……	〇、一八	〇、一二	〇、三〇
一、特別車ニ容レ急行列車ヲ以テ運送スルモノ……	〇、六〇	〇、四〇	一、〇〇

前揭運賃ノ中ニハ政府ヘ納付スヘキ租稅ヲ含マス

運送料ハ免許人カ自己ノ費用負擔ヲ以テ運送ヲ取扱ヒタル際ニ限リ徵收スヘキモノニシテ然ラサル場合ニハ單ニ通行料ノミヲ徵收スヘキモノトス

運賃ハ走行距離ニ應シテ徵收ス、　粁以下ノ端數ハ之ヲ粁ニ切上ク

前掲運賃ノ中ニハ政府ヘ納付スヘキ租稅ヲ含マス

運送料ハ免許人カ自己ノ費用負擔ヲ以テ運送ヲ取扱ヒタル際ニ限リ徵收スヘキモノニシテ然ラサル場合ニハ單ニ通行料ノミヲ徵收スヘキモノトス

運賃ハ走行距離ニ應シテ徵收ス、　粁以下ノ端數ハ之ヲ粁ニ切上ク

走行距離六粁以下ナル時ハ之ヲ六粁トシテ計算スヘシ

停車場間ノ距離表ハ免許人ト監督技師トノ立會調製ニ係ル測量書ニ依リ縣知事ニ於テ定ム、　測量ハ兩端停車場中心間ノ最短距離ニ依リテ行フモノトス、　此標準ヲ以テ調製セル運賃規則ハ千八百八十年六月十一日公布法律第五條ニ定ムル權限ニ應シ工部大臣若クハ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

一噸ハ一千斤トス

速達便普通便共ニ百分ノ一噸即チ十斤ヲ以テ重量ノ單位トス

即チ十斤以下ハ十斤ノ運賃ヲ十斤以上ニ十斤迄ハ二十斤ノ運賃ヲ徵收シ以上之ニ準スルモノトス

但シ手荷物ニアリテハ左ノ區分ニ依ル

一、五斤以下　　二、五斤以上十斤以下

三、十斤以上ハ十斤ヲ以テ單位トス

速達便普通便ノ別無ク又距離ノ如何ニ係ラス運賃ノ最低額ハ四十仙トス

(一)　運賃率ハ各免許ノ場合ニ依リ異リ茲ニ擧ケケタルハ其標準ニ過キス

第四十二條　列車ノ編成

特ニ縣知事ヨリ許可セラルル場合ノ外普通旅客列車ニハ乘車申込ノ旅客ノ全部ヲ容ルヘキ各等級ノ車輛若シクハ車室ヲ具フルコトヲ要ス

第四十三條　手荷物

三十瓩以内ノ手荷物ヲ車室内ニ持込ムモ之レカ爲メ座席ノ料ノ割增ヲ徵收スルコトヲ得ス

無賃乘車ノ小兒ニハ前項ノ規定ヲ適用セス又運賃半減ノ小兒ノ手荷物制限ハ二十瓩トス

第四十四條　貨物等級ノ適用

運賃表列記以外ノ動物貨物其他ニアリテハ其最モ類似セル等級ニ準シ運賃率ヲ定ムルモノトス且ツ運賃表ニ列記セサル貨物ハ第四十五條竝第四十六條ニ掲クル例外ノ場合ヲ除キ一級品以上ノ運賃ヲ徵セラルヽコトナキモノトス

免許人ハ貨物等級ノ適用ニ關スル假規則ヲ定ムルコトヲ得右ハ直チニ掲示シ且ツ監督官廳ニ届出テ其確定ヲ受クルモノトス

第四十五條　大量品ノ輸送

三千瓩以上ノ大量品ニハ運賃表ヲ以テ定メタル通行料竝運送料ヲ適用セス

免許人ハ三千瓩乃至五千瓩ノ大量品ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得ス此際通行料竝運送料ハ五割增トス

免許人ハ五千瓩以上ノ大量品ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得

若シ免許人カ五千瓩以上ノ大量品ノ運送ヲ引受クル時ハ爾後三箇月間之レト同樣ノ請求ヲ盡ク受理スルコトヲ要ス

此場合ニ於ケル運送料ハ免許人ノ腹案ニ基キ監督官廳ニ於テ定ム

第四十六條　附外例及小荷物

運賃表ニ定メタル運賃率ハ左ノ諸項ノ場合ニ適用セス

一、運賃表列記以外ニシテ一米立方二百瓩ニ滿タサル物品

二、警察法規ノ定ムル所ニ依リ特ニ手數ヲ要スル爆發物、發火物危險ナル獸類竝危險物

三、表記價格五千法以上ノ動物

四、金銀地金、貨幣、加工金銀、金銀箔、水銀、白金、寶玉薄莎、寶石、美術品及其他ノ貴重品

五、小荷物竝一個ノ重量四十瓩若クハ四十瓩以下ノ手荷物ノ制限超過量

但シ數個ニ分レタル小荷物ト雖トモ一荷送人ヨリ一荷受人ニ對スル托送ノ一部ヲ成シ其總體ノ重量カ四十瓩ヲ超ユルモノニハ運賃表ニ定メタル運賃率ヲ適用ス、　尙ホ一個若クハ總體ニテ四十瓩ヲ超ユル手荷物超過量ニ對シテモ之ヲ適用ス

運送取扱業者ノ取扱フ小荷物ハ一個ニ取纏メタル上ニ非レハ前項ノ規定ヲ適用セス

上ニ特記セル五個ノ場合ニ適用スヘキ速達便竝普通便ノ運賃ハ每年免許人ノ腹案ニ基キ縣知事ノ定ムル所トス

第五ノ場合ニ揭ケタル小荷物ニ對シテハ如何ナル場合ニ於テモ其一個ノ運賃ハ同種類ニシテ四

十瓩以上ノ貨物ニ對スル運賃ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十七條　運賃低減

免許人カ許可ヲ得タル運賃ヲ線路ノ全部若シクハ一部ニ對シ條件附若シクハ無條件ニテ法定制限以下ニ低減スルノ必要ヲ認メタル場合ニ於テハ旅客ニ對シテハ三個月又貨物ニ對シテハ一個年ノ期間ヲ經ルニ非レハ再ヒ之ヲ引上クルコトヲ得ス

免許人ニ於テ定ムル運賃率ノ改正ハ一個月前ニ掲示ヲ以テ豫告スヘシ

改正賃率ハ千八百四十六年十月十五日附勅令ニ準シ及千八百八十年六月十一日公布法律第五條ニ定メタル區別ニ從ヒ工部大臣若シクハ縣知事ノ認可ヲ受クルニ非レハ實施スルコトヲ得ス

運賃ノ徵收ハ公平ニ行ヒ偏頗ノ所爲アルヘカラス

一人若シクハ數人ニ對シ特ニ運賃ヲ低減スルカ如キ契約ヲ締結スヘカラス

但シ前項ノ規定ハ政府ト免許人トノ間ノミ公益ノ爲メニスル契約竝免許人カ貧困者ニ施與スル運賃ノ低減竝免除ニハ之ヲ適用セス

運賃低減ノ場合ニハ通行料、運送料共ニ其割合ニ應シテ低減スヘキモノトス

第四十八條　發送期間

免許人ハ自己ノ引受ケタル旅客、動物竝諸種ノ貨物ノ運送ヲ常ニ叮嚀、正確、公平ヲ以テ取扱フヘシ

發送停車場竝到達停車場ニハ特別帳簿ヲ具ヘ發着ノ小荷物動物其他ノ貨物等ヲ記入シ且ツ發送停車場

ニ於テハ該帳簿ヘ運賃ノ總額ヲ記入スヘシ

同一ノ方向ニ送ルヘキ貨物ノ發送ハ發送停車場ニ於テ記入ノ順序ニ從ヒテ之ヲ取扱フヘシ

荷送人ノ請求ニ應シ運送狀ヲ以テ貨物ノ發送ヲ證シ且ツ其謄本一通宛ヲ免許人竝荷送人ニ於テ保管スヘシ、荷送人カ運送狀ヲ請求セサルトキハ免許人ハ貨物ノ性質重量、運賃ノ總額運送期間ヲ記セル荷預證ヲ荷送人ニ交付スヘシ

第四十九條　引渡期間

動物竝諸種ノ貨物ハ左記條件ニ依ル期間内ニ發送竝引渡ヲ行フモノトス

一、速達便動物竝諸種貨物ハ各等級ノ車輛ヲ具ヘ貨物ノ方向ニ向フ旅客列車ノ最初ノモノヲ以テ發送スヘシ但シ發車ヨリ三時間前ニ引受ケタル貨物ニ限ル

貨物ハ同列車到着後二時間以内ニ停車場ニ於テ荷受人ヘ引渡ス可シ

二、普通便動物竝諸種貨物ハ其引受ノ翌日中ニ發送スヘシ

運送期間ニ付キテハ免許人ノ提案ニ基ツキ縣知事ノ定ムル所トス

貨物ハ到達ノ翌日中ニ荷受人ニ引渡スヘシ

前三項ニ依ル總体ノ期間ニ付キ鐵道會社其責ニ任ス

免許人ハ縣知事ノ認可ヲ受ケ長期ノ引渡期間ヲ條件トスル割引賃率ヲ制定スルコトヲ得

貨物運送ニ關シ速達便ト普通便トノ中間ノ運送期間ニ定ムルコトヲ得

該期間ニ依ル運送ニ對スル運賃ハ又速達便ト普通便トノ中間ニ位スルモノトス

縣知事ハ夏季竝冬季中ニ於ケル停車場ノ開扉竝閉鎖ノ時刻ニ關スル特別規則及夜行列車ヲ以テ運送シ都市ノ市場ニ供給スヘキ食料品ニ關スル規定ヲ定ム

貨物ヲ一線路ヨリ接續セサル他ノ線路ニ遷移スル場合ニ於ケル引渡竝發送ノ期間ハ免許人ノ提案ニ基キ縣知事ノ定ムル所トス

第五十條　附帶料金

運賃表ニ掲ケサル附帶料金即チ登記料積卸手數料停車場倉庫ノ倉敷料ハ毎年免許人ノ提案ニ基キ縣知事ノ定ムル所トス

尙ホ軌間ノ異ナル線路トノ接續停車場ニ於ケル積替手數料ニ付キテモ亦同シ

第五十一條　配達

免許人ハ自己若シクハ代理人ヲ以テ貨物ヲ荷受人ノ居住地ヘ配達スル義務アルモノトス

但シ入市稅廳管區以外ニハ配達ノ義務ナク又五千人以內ノ人口ヲ有スル地方ノ停車場、五千人ノ人口ヲ有スル市街地ヨリ五粁ノ距離アル停車場ニ於テハ配達ヲ取扱ハサルコトヲ得

配達料ハ免許人ノ提案ニ基キ縣知事ニ於テ定メ公平ニ之ヲ徵收スルモノトス

但シ荷送人竝荷受人ハ自己ノ費用ヲ以テ自ラ貨物ノ運搬ヲ行フコトヲ得

第五十二條　隨意契約

縣知事ヨリ特ニ許可ヲ受クル場合ノ外免許人ハ同一交通路ニ關係スル全體ノ運送業者ニ許容セサル事項ニ付キ或ル特定ノ水陸貨客運送業者ト直接ニモ間接ニモ又名義ト形式トノ如何ヲ問ハス契約スル事ヲ禁止ス（一八四五年七月十五日法律第十四條）

千八百四十六年十一月十四日勅令第五十條ニ依リ縣知事ハ鐵道ト諸運送業者間ノ關係ヲ公平ナラシメンカ爲メ必要ノ處置ヲ爲スモノトス

第五章　諸官廳ニ對スル條件

第五十三條　監督官

線路、鐵道郵便事務、電線等ノ監督、監査ニ任セラレタル官吏ハ免許人ノ發行セル記名ノ乘車券ヲ以テ無賃ニテ客車ニ乘込ムコトヲ得

徵稅ノ爲メ鐵道監視ノ任ニ當ル間接稅吏員竝稅關官吏モ又前記ノ權能ヲ有ス

第五十四條　海陸軍人

政府ニ於テ鐵道經由地ヘ軍隊、竝海陸軍用材料ヲ輸送スルノ要アル際ハ免許人ハ直チニ輸送力ノ全部ヲ盡シテ其指圖ニ應スヘシ

前記ノ場合ニ於ケル運賃、及職務上單獨若シクハ團體ニテ旅行スル海陸軍人竝賜暇、歸休等ノ場合ニ於ケル運賃ハ運賃規則ニ依リテ支拂フモノトス

免許人カ政府ヨリ年賦補助金ヲ受クルモノナル時ハ前記ノ運賃ハ普通運賃率ノ半額トス

第五十五條　囚人輸送

免許人ハ當該官廳ノ命令ニ應シ刑事被告人、罪人及護送者ノ輸送ノ爲メ腰掛二個ヲ有スル二等車若シクハ之ニ準スル車室ヲ提供スヘシ

懲治場ニ送ラルヽ幼年囚ニ付キテモ前項ノ規定ヲ適用ス

尙ホ當該官廳ハ自己ノ所有ニ係ル囚人車ヲ普通列車ニ連結セシムルコトヲ得但シ囚人車ハ容積及其滿載時ノ重量共ニ鐵道ニ於テ使用スル普通車輛ノ最大ナル型ヨリモ大ナルヘカラス

此場合ニ於ケル運賃ハ前條ノ規定ニ準シテ定ムルモノトス

第五十六條　郵便電信事務

免許人ハ各定時列車ニ郵便物竝郵便電信事務員ヲ容ルヘキ二等車若シクハ之ニ準スル車室ヲ定メ置クヘシ　該車室ノ閉鎖、點燈、暖房等ハ總テ二等車ニ準スルモノニシテ必ス下階ニ在ルコトヲ要ス

郵便電信事務官廳ハ無料ニテ各列車ニ郵便函ヲ附スルコトヲ得該郵便函ノ取扱ハ郵便電信事務員ニ於テ行フモノトス

同官廳ハ自己ノ負擔竝責任ヲ以テ列車進行中郵便受授ノ設備ヲナスコトヲ得

郵便電信事務官廳ハ(一)第一項ノ條件ヲ以テ二等車室ヲ提供セシメ又(二)普通列車ニ自己ノ所有ニ係ル特別車輛ヲ連結セシムルコトヲ得、但シ該車輛ハ容積、重量共ニ鐵道ニ於テ使用スル普通車輛ノ最大ナル型ヨリモ大ナルヘカラス

郵便電信事務官廳ハ免許人竝縣ノ同意ヲ得工部大臣ト協議ノ上上下各一回ノ特別列車ヲ發セシムルコトヲ得

普通列車發着時刻ヲ改正セントスル際ハ免許人ハ十五日前ニ之ヲ郵便電信事務官廳ヘ通知スヘシ

郵便事務ノ監視、郵便物ノ授受、保管、郵便函ノ開閉等ニ任スル職員ハ其職務執行ノ爲メ停車場ヘ自由ニ出入スルコトヲ得但シ鐵道ノ保安ニ關スル規定ヲ遵守スヘシ

郵便電信事務官廳カ停車場内ニ郵便物保管所設置ヲ要求スル際免許人ハ必要ノ場所ヲ提供スヘシ但シ其場所ニ付キ工部大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

本條ニ定メタル條件ノ下ニ命令セル運送ニハ第二項ニ揭ケタル無料運送ノ郵便函ヲ除クノ外運賃規則ニ依リテ運賃ヲ支拂フモノトス

停車場内保管所ノ設置、特別列車ノ運轉等ノ如ク運賃規則ニ揭ケサル事務ニ付ギテハ免許人ニ其費用ヲ賠償ス、若シ之レカ爲メ益金ヲ生セル際ハ賠償額ヨリ控除スヘシ、　前記ノ特別事務ニ關スル規則ハ免許人、郵便電信事務官廳間若シクハ兩者ノ指定スル仲裁者間ニ於テ隨意ニ定ムルモノトス當事者間ニ合意ヲ得サル場合ニハ縣廳參事會議之レカ仲裁者タルヘキ第三者ヲ指定ス

政府カ年賦補助金ヲ下附スル鐵道ニアリテハ本條第一項ノ郵便事務用車室ノ提供竝第八項ノ郵便物保管所ノ設置ハ無償トス、　鐵道經由地ニ書狀ヲ配達スル配達人線路ニ沿フテ架設セル電線ノ建設保修ノ爲メ旅行スル官吏工夫等ノ乘車ニ付キテモ又同シ　郵便電信事務官廳ニ於テ請求スル其他ノ

運送即チ政府ニ於テ建設セル電信線其他ノ架設保修材料ノ輸送郵便電信事務員工夫ノ職務上ノ乘車等ニ對スル運賃ハ普通賃率ノ半額トス

免許人ハ**命令**ニ應シ關係法規ノ定ムル**所**ニ從ヒ小包郵便物ノ事務ヲ分擔スヘシ

第五十七條　電信電話線

免許人ハ**工部大臣**ノ命令ニ應シ營業ノ安全竝正確ヲ計ル爲メ必要ナル信號送致ノ電氣設備ヲ爲スヘシ

但シ電線架設前豫メ郵便電信事務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

鐵道用電氣通信設備ノ建設保修ニ要スル費用ハ免許人ノ負擔トス

免許人ハ**郵便電信事務大臣**ノ許可ヲ受ケ線路ニ沿フテ架設セラレタル官有ノ電柱ヲ共用スルコトヲ得

又政府ヨリ免許人カ建設セル電桂共用ノ命令アル時ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ス

免許人ハ電氣設備ノ建設竝使用ニ關スル行政法規ヲ遵守シ且ツ其監督費ヲ納付スヘシ

官府ハ鐵道ノ業務ニ支障ヲ及ホササル範圍内ニ於テ線路ニ沿ヒ諸種ノ建築ヲ爲シ若シクハ電線架設用器具ヲ据置クコトヲ得、　尚ホ鐵道用地内ニ電線用材料ヲ貯藏スルコトヲ得、但シ縣知事ニ於テ其地面カ鐵道ノ業務**上必要**アリト認ムル際ハ之ヲ撤去スヘシ

逓便電信事務大臣ノ請求ニ應シ免許人ハ後日指定スル**市**街地竝地方ニ在ル停車場内ニ於テ電信電話取扱所竝其材料ヲ容ルヘキ建物ノ**建**造ニ要スル土地ヲ提供スヘシ

免許人ハ其**職**員ヲシテ官有電線ヲ監視セシメ且ツ事故竝其原因ヲ郵便電信事務員ニ通知スヘシ

官有電線カ切斷セルトキハ鐵道**職**員ハ豫テ此事項ニ關シテ受タル指**令**ニ從ヒ其分離セル兩端ヲ假リニ**結**合スヘシ

官有電線ノ切斷其他ノ重**大**ナル事故ヲ生シタル際ハ修繕ニ必要ナル人員竝材料ヲ事故ノ發生地ヘ運送センカ爲メ直チニ機關車一臺ヲ當該事務**官**吏ノ指圖ノ**下**ニ置クヘシ　但シ前記輸送ノ爲メ一般運**輸**ヲ妨クルコトアルヘカラス

損害カ免許人若シクハ其**職**員ノ**責任**ニ非サル際ハ機關車ノ走行距離ニ應シ一粁ニ付キ五十三ノ賠償ヲ免許人ヘ**交**付スヘシ

免許人カ鐵道業務ノ爲メ施行セル**工**事ノ結果郵便電信事務官廳ニ於テ電線ヲ移轉スルノ必要ヲ生シタルトキハ免許人ハ其移轉費用ヲ政府ヘ納付スヘシ

免許人ハ**郵**便電信事務大臣ノ定ムル條件ニ依リ**公**用電報ヲ自己ノ電線竝器具ヲ以テ受**送**スルコトヲ拒ムヲ得ス

郵便電信事務大臣カ鐵道線路ノ一**停**車場ニ於テ公衆電報ヲ取扱ハシムル必要ヲ認ムル際ハ免許人ト協議ノ上其條件竝料金ニ付キ規定ヲ定ムヘシ

官有電線ノ建設監視、保修ニ任スル**郵**便電信事務員工夫等ハ其職務執行ノ爲メ停車場線路竝其附屬物ヘ**自**由ニ出入スルコトヲ得但シ鐵道ノ保安ニ關スル規定ヲ遵守スヘシ

第六章　雜　則

第五十八條　新交通路ノ建設

政府、縣及ヒ町村カ免許線路ト交叉スル國道縣道里道、鐵道運河等ノ建設ヲ命令シ若シクハ許可スル場合ニ免許人ハ其工事ニ關シ抗議ヲ爲スコトヲ得ス　但シ其工事ノ爲メ鐵道ノ建設若シクハ營業ニ障礙ヲ與ヘ若シクハ免許人ニ費用ヲ負擔セシムル等ノコトアルヘカラス

第五十九條　新線ノ免許

免許線路所在ノ地方及附近ノ地方ニ於ケル道路、運河、鐵道、水運等ノ工事若シクハ許可ニ關シ免許人ハ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第六十條　支線及延長線ノ免許

政府縣及町村ハ本條件書ノ目的トスル線路ヨリ分岐スル新線路及延長線路ヲ他ノ企業者ニ免許スルコトヲ得

免許人ハ此等支線ノ敷設ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス又其工事ノ爲メ自己ノ鐵道ノ運轉ニ障礙ヲ受ケ若シクハ特ニ費用ヲ要セル等ノ場合ノ外如何ナル名義ノ賠償ヲモ要求スルコトヲ得ス

分岐線竝延長線ノ免許人ハ本條件書ノ目的トスル鐵道上ニ於テ自己ノ所有ニ係ル客貨車及機關車ヲ運轉スルノ權利ヲ有ス

但シ前ニ掲ケタル運賃表ニ準據シ且ツ第三十一條第一項ノ規定竝保安營業等ニ關スル規則ヲ遵守スルヲ要ス、

本線免許人ニ於テモ分岐線竝延長線ニ對シ交互ニ此等ノ權利ヲ有スルモノトス

此場合ニ於テ各免許人ハ其走行距離ニ應シ通行料ヲ支拂フモノトス、一粁未滿ハ一粁トシテ計算スヘシ

上ニ掲ケタル權利ノ行使ニ關シ免許人間ニ不調ヲ生シタル際ハ工部大臣ハ其不調ノ點ニ付キ裁定ヲ爲スヘシ

但シ免許人ハ自己ノ線路ノ設計定規ニ不相應ナル重量ヲ有スル車輛ヲ線路内ニ引込ムコトヲ許可スヘカラス

分岐線竝延長線免許人カ自己ノ車輛ヲ本線上ニ運轉セシメサル場合及本線免許人カ分岐線竝延長線ヲ使用セサル場合ニハ此等線路ノ接續點ニ於テ運送ノ中斷ヲ來ササランカ爲メ當事者間ニ於テ協定ヲ遂クヘシ

免許人ノ中自己ノ所有ニ非ル材料ヲ使用スルモノハ其使用料ヲ支拂フヘシ使用料ノ定額若シクハ線路ノ全般ニ亘ル營業規則ノ制定ニ關シ不調ヲ生スル際監督官廳ハ職權ヲ以テ必要ナル條項ヲ定ムルモノトス

第六十條ノ二　共用停車場

當該機關ニ於テ其必要ヲ認メタル際ハ免許人ハ支線接續ノ停車場ヲ支線免許人ト共ニ共用スヘシ

停車場供用ニ要スル費用ハ分擔トス、新會社ノ負擔額ニ關シ調停ヲ遂クルコト能ハサル際ニハ仲裁ヲ以テ決定ス

停車場ノ供用ノ主旨若シクハ其實施ニ關シ不調ヲ生スル場合ニ免許人ノ承認ヲ經タル上双方トモ地方鐵道ニシテ同一縣内ニ在ルモノニ付キテハ縣知事之ヲ裁定シ又双方各異レル縣ニ屬シ若シクハ其一カ普通鐵道ナルトキハ工部大臣之ヲ裁定ス、

免許人ハ他ノ鐵道トノ接續停車場ニ於ケル貨物ノ積替ヲ敏活ナラシメ又一線路ヨリ他ノ線路ニ遷移スル旅客貨物ヲ可成近距離ニ據ラシムヘキ設備ニ關シ監督官廳ヨリ受クル諸種ノ命令ヲ遵守スヘシ

第六十一條　專用支線

免許人ハ採石場礦山工場等ノ所有者倉庫業者港灣設備内國水運等ノ免許人ヨリ以下ニ定ムル條件ヲ具備シ支線敷設ノ請求アル際ハ之ヲ承諾スヘシ不調ヲ生スル場合ニ縣知事ハ求メニ依リ免許人ノ承認ヲ經テ之ヲ裁定ス

支線建設ノ費用ハ採石場礦山工場所有者倉庫業者港灣設備内國水運等免許人等ノ負擔トス且ツ其建設工事ノ爲メ一般運輸ニ障礙ヲ來シ材料ヲ損傷シ若シクハ鐵道會社ニ費用ヲ負擔セシムル等ノ事アルヘカラス

支線ノ保全ハ縣知事監督ノ下ニ所有者之ヲ負擔ス、

免許人ハ其職員ヲシテ支線ノ保全竝支線内ニ於ケル自己ノ材料ノ取扱方ヲ監視セシムルコトヲ得

縣知事ハ必要ヲ認メタル際何時ニテモ所有者ニ對シ支線ノ接續線工事等ノ變更ヲ命スルコトヲ得、其變更ニ要スル費用ハ支線所有者ノ負擔トス

支線ノ全部若シクハ一部ノ運送ヲ停止セル際縣知事ハ所有者ノ承認ヲ經一時其接續點ニ在ル轉轍器ノ撤去ヲ命スルコトヲ得

採石場礦山工場倉庫灣設備内國水運等ノ構内ト鐵道本線トヲ聯結セシカ爲メ免許人ハ自己ノ車輛ヲ支線内ニ送附スヘシ

免許人ハ其貨車ヲ支線分岐點迄送致スルモノトス

荷送若シクハ荷受人ハ貨車ヲ所有地内ニ引込ミ貨物ノ積卸ヲ行ヒ再ヒ之ヲ本線接續點ヘ送致スヘシ之レ等ノ費用ハ全部荷送人若シクハ荷受人ノ負擔トス

貨車ハ鐵道本線ニ於テ運送スヘキ貨物ノ運送ニノミ使用スルモノトス

一杆以内ノ專用支線内ニ貨車ヲ六時間以上留置スヘカラス、貨車留置時間ハ杆以上一杆毎ニ三十分ヲ增スモノトス但シ夜間即チ日沒ヨリ日出迄ノ時間ヲ含マス

免許人ヨリ特ニ通告セルニ拘ラス留置期間ヲ經過セル際免許人ハ通告後ノ遲滯時間ニ對シ貨車賃貸料ト同額ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

監督官ノ意見ニ基キ縣知事ニ於テ命令スル支線轉轍器竝踏切ノ監視ニ要スル費用ハ支線所有者ノ負擔トス但シ番人ノ撰定竝俸給ノ支拂ハ免許人ニ於テ取扱フモノトス

故障アル際ハ免許人ノ承認ヲ經縣知事之ヲ裁定ス

支線内運轉若シクハ留置中ニ生シタル車輛ノ損害ニ付キ支線所有者其ノ責ニ任ス

前掲ノ諸條件不履行ノ塲合ニ縣知事ハ免許人ノ申立ニ基キ支線所有者ノ承認ヲ經運轉ノ停止竝接續設備ノ撤去ヲ命スルコトヲ得、但シ上級官廳ニ訴願提起ノ際ハ此限ニ非ラス、且ツ之レカ爲メ條件不履行ニ依リ免許人ノ蒙レル損害ニ對スル求償權ニ支障ヲ與フルモノニ非ス

第六十一條　引込貨車ニ對スル運賃

免許人ハ支線內貨車引込料トシテ一粁以內ノ線路ニアリテ一噸ニ付十二三一粁以上ノ線路ニアリテハ一粁以上一粁每ニ四三ノ料金ヲ受クルコトヲ得

一粁以下ノ端數ハ之レヲ一粁ニ繰上クルモノトス

支線內ニ於ケル積卸ノ費用ハ荷送人若シクハ荷受人カ直接ニ行フ際モ亦鐵道會社カ其取扱ヲ承諾セル際モ共ニ荷送人若シクハ荷受人ノ負擔トス

第二ノ塲合ニ於ケル料金ニ關シテハ免許人ノ申出ニ基キ縣知事之ヲ規定ス

免許人カ支線內ヘ送致セル貨車ハ滿載ニ非ラサル塲合ト雖總テ滿載ト見做シ運賃ヲ仕拂フヘシ

過載アル際ハ其實際ノ重量ニ對シ法定運賃率ニ依リ運賃ヲ計上スヘシ、　免許人ハ其貨車ノ容積ヲ本トシテ定メラレタル(三千五百瓩)ノ制限ヲ超過スル積込ヲ拒絕スルコトヲ得

積載量ハ貨車ノ能力ニ適應スヘキモノニシテ縣知事ハ絕ヘス之ヲ檢査スヘシ

貨車ハ到達停車塲ニ於テ計量スヘシ之レニ關スル注意竝費用ハ免許人ノ負擔トス

第六十二條　地　租

鐵道竝附屬物ニ對スル地租ハ其占據スル面積ニ依リテ之ヲ定メ千八百三年四月二十五日法律ニ依リ運河ニ準シ其稅額ヲ定ムルモノトス

鐵道營業用建物倉庫等ハ當該地方ノ家屋ニ準シ取扱ハルヽモノニシテ此等ノ家屋稅竝ニ地租ハ免許人ニ於テ負擔スヘシ

第六十三條　鐵道職員

免許人カ債權ノ取立、線路竝附屬物ノ監視保安等ノ爲メ使用スル職員ハ宣誓セシムルコトヲ得此塲合ニ於テハ地方駐在巡査ト同格ノモノトス

第六十四條　特別監査員

普通監督官ノ職權ニ非ラサル特殊ノ事項ニ付キ鐵道ノ內部ニアリテ監査ヲ行フヘキ一人若シクハ數人ノ吏員ヲ任命スルコトアルヘシ

第六十五條　監督費

工事ノ視察監督竣功監査等ノ費用及營業監査ノ費用ハ免許人ノ負擔トス

此費用ニ充當センカ爲メ免許人ハ每年一粁ニ付キヽヽヽヽ(一)ヽヽヽヽヲ縣本金庫ニ納付スヘシ

免許人カ前記ノ額ヲ指定ノ期日ニ納付セサル際ハ縣知事ハ直接國稅ノ塲合ニ準シ職權ヲ以テ其全額ヲ拂込マシムルモノトス

(一)　監督費ハ普通一粁ニ付五十法トシ免許指令ノ日時ヨリ直チニ支拂フヘキモノトス

第六十六條　保證金

免許契約調印前免許人ハ正金若シクハ千八百七十二年一月三十一日附指令ニ據リ計上セル國債年利若シクハ公債證書ヲ以テ、、、、、、、、、ノ額ヲ預金局ヘ供託スヘシ

右ハ起業保證金タルヘキモノトス

保證金ノ五分之四ハ工事ノ進行ニ從ヒ五分ノ一ツ、免許人ヘ返付シ殘ル五分ノ一ハ免許期滿ノ上免許人ヘ引渡スヘシ

第六十七條　住所ノ撰定

免許人ハ、、、、、、、、ニ其住所ヲ撰定スヘシ

免許人カ其撰定ヲ爲サヽル際ハ、、、、何々、、、縣廳官房内トシテ免許人ニ宛テテレタル諸種ノ通告ハ有効トス

第六十八條　爭議ノ裁決

本條件書ノ實施竝解釋ニ付免許人ト監督官廳トノ間ニ爭議ヲ生スル際ハ、、、、何々、、、縣廳參事會議ニ於テ行政裁決ヲナス但シ參事院ニ抗告スルコトヲ得

第六十九條　登錄費用

本條件書竝附屬契約書ノ登錄費用ハ免許人ニ於テ負擔スヘシ

第二編　白耳義地方鐵道諸法規

地方鐵道警察規則

一八九二年
一九〇三年

第一章　免許人及其使用人ノ義務

第一條　維持

車輛線路其附屬物及免許狀ニ於テ免許人ノ負擔ヲ以テ維持スヘキコトヲ命シタル道路ノ敷石部分ハ地方鐵道ニ使用セラルル車輛竝ニ一般ノ車輛カ常ニ容易ニ且ツ安全ニ運轉シ得ヘク又雨水カ水流及溝渠ニ流入シ得ル如ク之ヲ善良ナル狀態ニ維持スヘシ

本條ノ規定ハ溝渠及道路ノ側端ニ沿フテ設ケタル敷石水流ノ浚渫ヲ包含スルモノトス但シ道路ノ鐵道線路ニ當ル部分ノ普通ノ掃除ハ此限リニアラス

第二條　運轉

地方鐵道ハ免許狀ノ定ムル條件ニ從フニアラサレハ運轉スルコトヲ得ス

運轉中ノ車輛若クハ列車ニハ常ニ運轉士若クハ車掌ヲ乘務セシムヘシ車掌ハ線路ヲ監視シ得ル位置ニアリ且ツ必要ノ場合ニハ車輛若クハ列車ヲ徐行セシメ或ハ運轉ヲ停止セシメ得ヘキ方法ヲ供與セラレサルヘカラス又運轉士若クハ車掌ハ事故ヲ豫防スル爲メ車輛若クハ列車ノ接近セルコトヲ注意シ得ヘ

キ喇叭、笛若クハ此種ノ他ノ器具ヲ携帯スヘシ、場合ニヨリ人家稠密ノ場所ニ於テハ汽笛ノ使用ヲ禁止ス運轉手若クハ車掌ハ番人若クハ保線夫カ徐行又ハ停車ヲ命スル信號ヲ嚴守スヘシ

第三條　機關車

列車ノ速力及組織ハ最急勾配ノ地點ニ於テモ機關士ノ取扱フ制動機ノミニ依リ三十メートル以內ニ於テ之ヲ停車セシメ得ヘキヲ以テ程度トス

機關車ニハ火粉ノ奔出ヲ防止スル設備ヲ爲スヘシ

人家稠密ノ場所其他農工務省ノ指定シタル場所ニ於テハ石炭ノ餘燼灰又ハ水ヲ撒キ散ラシ及煙又ハ臭氣ヲ發散セシムヘカラス

農工務省ノ特別ナル免除ナキ場合ニハ車輪及通行人ニ接觸シ得ヘキ動搖部ハ之ニ金屬製ノ覆ヲ施スヘシ

總テ機關車ハ蒸氣機關ニ關スル規則ニ依ル試驗ヲ經及同規則ニ定ムル形式ヲ具ヘ且ツ監督官ニ依リ制動器ノ有効ナルコトニ付檢查ヲ受ケタル後ニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

第四條　客車

各客車ニハ制動機ヲ備フヘシ制動機ハ許可セラレタル速力ト線路ノ勾配トノ關係ニ於テ馬若クハ機關車ノ力ヲ借ラスシテ如何ナル場合ニモ車輛ヲ停止セシメ得ヘキモノナラサルヘカラス

各客車ニハ番號ヲ付スヘシ各室ニハ見易キ數字ヲ以テ規定ノ座席番號ヲ付スヘシブラットフオームニ

乘ルコトヲ許ス場合ニハ同樣番號ヲ付スヘシ

第五條　警衛及信號

免許人ハ線路ニ於ケル車輛、乘馬者及徒歩者ノ安全ヲ確保スル爲メ必要ナル設備ヲ爲スヘシ特ニ危險ナル場所ニ於テハ番人カ一定ノ場所ニ於テ取扱ヒ得ヘキ信號ヲ備フヘシ

機關車ハ人ノ歩行ノ速度ヲ以テ運轉スヘシ亦道路ニ於ケル交通頻繁ナル場所ニ於テハ其必要ニ應シ常時若クハ臨時ニ從事員ヲ先行セシムヘシ

線路工事ヲ施行スル場合ニハ其場所ニ信號ヲ設クヘシ此信號ハ必要ナル場合ニハ停車場若クハ徐行ヲ命シ及公衆ニ對シテ此先キニ車輛乘馬者若クハ徒歩者ノ通行止アリヤ否ヤヲ示スモノトス

第六條　點燈

日出前、日沒後若クハ朝霧中運轉スル客車中ニハ燃燒ニ依ル發生物カ大氣中ニ放散セラルヘキ樣裝置シタルランプヲ點スヘシ

同一ノ時間若クハ事情ノ下ニ單獨ニ運轉スル客車ニハ其外部前方ニ紅色燈後方ニ綠色燈ヲ裝置スヘシ

列車ニハ其外部後方ニ紅色燈ヲ裝置シ機關車ニハ其前方ニ線路ヲ照ラシ及列車ノ幅ヲ示ス爲メニ其兩側ニ一ケ宛二ケノ白色燈ヲ裝置スヘシ

各外部燈ニハ反射磐ヲ備フヘシ

第七條　危險ナル物品

客車中ニハ爆發性又ハ發火性ノ物品ヲ帶入スルコトヲ嚴禁ス

強質ノ紙ニ包ムカ厚紙又ハ木若クハ金屬製ノ函ニ納メ且破裂ノ危險ナク携行シ得ルニ充分ナル抵抗力アル木製ノ函ヲ以テ外裝ヲ施スヘキ條件ノ下ニ彈藥筒ニ入レタル十キログラム以下ノモノハ前項ノ限リニアラス

第八條ノ一　機關ニ依ル運轉ニ關スル事務

列車ノ長サハ線路ノ狀態、車輛ノ重量、制動機ノ種類ヲ參酌シテ鐵道郵便電信大臣之ヲ定ム機關車ト其他ノ車輛トハ緩衝器ヲ用キテ聯結スヘシ

機關車ハ資格アル機關士及火夫ヲシテ取扱ハシムヘシ

列車ハ車掌ノ命令ニ從フ而シテ車掌及制動手ノ必要ナル人數ヲ乘務セシムヘシ

機關士ハ列車出發前機關車各部ニ故障ナキヤ及特ニ制動機カ適當ニ働クヤ否ヤヲ確認スヘシ、機關士ハ列車長カ發車信號ヲ與ヘタル後ニアラサレハ列車ヲ運轉スヘカラス

機關士及火夫ハ停車中ト雖二人同時ニ機關車ヲ離ルヽコトヲ得ス

列車ノ速度ハ人家稠密ノ地以外ニ於テハ一時間三十キロメートル以內トス（譯者云凡二十哩余）町村ヲ橫斷スル場合ニハ十キロメートルトス場合ニ依リ鐵道郵便電信大臣ハ線路ノ狀態、橫斷ケ所ノ性質列車ノ種類、重量及長、運轉方法、制動機ノ種類等ヲ參酌シテ前項ニ依ラサルコトヲ許可スルコトヲ得

道路ノ雜踏セル場合若クハ列車ノ到着カ馬又ハ其他ノ動物ヲ驚カシメ以テ不秩序ノ原因トナリ又ハ事故ヲ惹起スカ如キ場合ニハ徐行シ又ハ運轉ヲ停止スヘシ

事務上特別ナル必要アル場合ノ外單行車輛又ハ列車ヲ停車場ニアラサル場所ニ停車セシムルコトヲ得ス

客車及貨車ハ之カ移動セサル樣必要ナル注意ヲ施サスシテ勾配線ニ放置スルコトヲ得ス

場合ニヨリ一輛若クハ數輛ノ車輛ヲ臨時本線上ニ停留セシムル必要アル場合ニハ道路上處々ニ停車信號ヲ揭出スヘク且車輛ノ移動ヲ防止シ及必要ナル場合ニハ急勾配ニ於テ之ヲ停止セシムル爲メ齒止若クハ海老錠ヲ備フル繫留鎖ヲ所持スル從事員ヲシテ之ヲ守ラシムヘシ此ノ如キ車輛ノ存在スル場所カ普通ノ道路ニ敷設シタル線路ニ當ル時ハ夜間明瞭ナル燈火ヲ以テ警戒スヘシ

勾配ノ多キ線路ニ於テハ貨物列車ノ緩急車ニハ最急勾配ニ於テ列車ヲ停止セシムルニ充分ナル數ノ「ブロックダアレ」ヲ備フヘシ

第八條ノ二　電氣ニ依ル運轉ニ關スル事務

自働車ニハ其前方兩側ニ一ケ宛線路ヲ照ラス爲メニ反射盤ヲ備フル白色燈ニ二個ヲ備フヘシ列車ヲ組成スル客車ノ最大數ハ鐵道郵便電信大臣之ヲ定ム

運轉士ハ就職資格ヲ有スモノナラサルヘカラス運轉士ハ線路ヲ監視シ得ル位置ニアリ且ツ列車ヲ徐行セシメ又ハ其運轉ヲ停止セシムル方法ヲ供與セラレサル可カラス、又運轉士ハ喇叭、笛若クハ少クトモ

其響カ五十米突ノ距離ニ達シ得ヘキ鐘ヲ携帯スヘシ運轉士ハ事故ヲ防止スル爲メ列車若クハ車輛ノ發車又ハ接近ヲ注意ス運轉士ハ發車前車輛ノ各部ニ故障ナキヤ否ヤ克ク聯絡セラレタルヤ否ヤ及特ニ制動機カ適當ニ働クヤ否ヤヲ確認スヘシ運轉士ハ列車長ノ命令ヲ受クルニアラサレハ發車スヘカラス

停車中ト雖全ク之ヲ移動スルコトヲ得サラシムル方法ヲ施シタル上ニアラサレハ運轉士車掌同時ニ自働車ヲ離ルヽコトヲ得ス

第九條　列車内ニ於ケル秩序維持

規定ノ座席數ヲ超ユル旅客ヲ客車内ニ乘込マシムルコトヲ得ス從事員ハ酩酊若クハ著シク不潔ナル狀態ノ人、裝塡セル銃、危險物其他分量、性質又ハ臭氣ニ依リ旅客ヲ傷ケ汚穢シ不安又ハ不快ナラシムル如キ荷物ヲ携フル人ヲ乘車セシムヘカラス

又他人ニ煩ヲ及ホスコトナク持主ノ膝上ニ置キ得ル場合ノ外犬其他ノ動物ヲ車内ニ入レシムヘカラス

機關士及火夫ハ地方鐵道ノ特別許可證ヲ有スル者ニアラサレハ機關車ニ乘込マシム可カラス但シ監督事務ヲ行フ者ハ此限リニアラス

第十條　掲示

免許人ハ停車場ノ掲示板ニ鐵道郵便電信大臣ノ定ムル所ニ依リ運賃表竝ニ本規程ノ全文ヲ掲示スヘシ客車ノ各室ニハ運賃表及本規程第二章第三章ノ規定ヲ掲示スヘシ

第二章　旅客荷送人及一般公衆ノ義務

第十一條　旅客及荷送人ノ義務

左記ノ各事項ヲ禁止ス

一、滿員ノ客車ニ乘車スルコト

二、秩序ヲ亂シ若クハ車掌運轉士ノ事務ヲ妨クルカ如キ酩酊又ハ著シク不潔ナル狀態ニテ乘車スルコト

三、他人ニ煩ヲ及スコトナク所有主ノ膝上ニ置カレ得ル場合ノ外犬若クハ其他ノ動物ヲ客車内ニ入ルヽコト

四、列車内發賣ノ切符ヲ所持セス若クハ停車場又ハ停留所ノ出札口ニ於テ發賣スル切符ヲ所持セスシテ乘車スルコト及監督者ノ請求セル場合ニ切符ノ呈示ヲ拒ムコト（切符ハ必ス切符發賣口ニ於テ買受クヘキ義務ナキモノトス）

五、乘車賃ノ支拂ヲ拒ムコト運賃差額ヲ直チニ仕拂ハスシテ切符相當以上ノ等級ノ客車ニ乘ルコト

運賃表ニ依リ新ナル切符ヲ直チニ買受クルコトナクシテ切符有効ノ區間ヲ乘過スコト

六、車体外ニ頭ヲ出スコト及特ニ禁止シアル場合ニハプラットフォームニ立チ居ルコト但監督事務ヲ行フ者ハ此限リニ在ラス

七、車内ニ於テ放歌スルコト飲酒スルコト及不体裁ナル談話ヲ爲スコト

八、喫烟ヲ許サレアル客車以外ノ車内ニ於テ喫烟スルコト及車内ニ於テ唾ヲ吐キ其他車輛ヲ汚損スルコト

九、全乘客ノ同意ヲ得スシテ窓扉ヲ明ケルコト

十、列車カ完全ニ停止スル前ニ乘降スルコト及反對ノ側ヨリ乘降スルコト

十一、昇降臺ノ上ニ立チ居リ又ハ戸ニ凭リ掛ルコト及保安裝置ニ觸ルヽコト

十二、裝置セル銃危檢ナル物品若シクハ其分量、性質又ハ臭氣ニヨリ旅客ヲ損傷シ不安又ハ不快ナラシムルカ如キ荷物ヲ携ヘテ乘車スルコト

十三、列車運轉中一客車ヨリ他ノ客車ニ乘リ替ユルコト

十四、機關車ニ乘リ又ハ手荷物車ノ貨車ニ乘ルコト

十五、人ヲ傷クルカ如キ物品ヲ車外ニ投棄スルコト

十六、信號類似ノモノニ依リ若シクハ虚僞ノ警戒ニヨリテ停車場員又ハ列車乘務員ヲ錯誤ニ陷ラシムルコト

十七、如何ナル方法ヲ以テスルモ鐵道ノ許可ヲ得スシテ地方鐵道ノ客車、緩急車及貨車ヲ運轉若クハ移動スルコト

上記ノ義務ニ關シテハ旅客ハ鐵道員ノ指圖ニ從フヘシ

貨物託送申込書ニハ貨物ノ種類若クハ分量ニ關シ眞實ヲ誤ラシメ若シクハ規定ノ賃率ノ適用ヲ避クルコトヲ目的トスル虚僞ノ記載ヲナスヘカラス

地方鐵道ハ荷送人カ署名シ且貨物ノ種類及分量ヲ記載シタル申込書ノ添付ナキ小荷物又ハ荷造セサル貨物ノ託送ヲ拒絶スルコトヲ得

貨幣、高價品、貴重品及美術品ハ運送狀ニ記載シタル明告價額ニ從ヒ運送ヲ引受クルモノトス

荷送人ハ貨物ノ種類及分量竝ニ美術品、貴重品及貨幣ノ價額包裝内容ノ價額若クハ鐵道ニ運送ヲ託シタル貨車積込品ノ價額等ヲ自認セルヲ證明スル爲メ前ニ規定セル申込書ニ署名スヘシ

地方鐵道ニ依リ荷造セスシテ運送セラルヽ貨物ノ種類重量若クハ分量ニ關スル虚僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ二十一法二十三法以上二百法以上ノ罰金又ハ一日以上八日以下ノ拘留ニ處シ若シクハ上記ノ限度ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ罰金及拘留ヲ併料ス但必要ナル場合ニハ運送規定ニ依ル追徵金ヲ仕拂フヘシ

規定ノ賃率ノ適用ヲ避クル目的ヲ以テセル虚僞ノ明告ヲ爲シタル場合竝ニ貨幣及高價品ノ運送ニ於テ詐僞ノ意思ヲ以テ實際ノ内容ヲ超ユル額ヲ明告シタル場合亦同シ

第十二條　切符ノ檢查

檢札ノ場合ニハ旅客ハ鐵道員ニ切符ヲ交付スヘシ

第十三條

旅客ハ掲示場及列車運轉時刻表ニ示シタル停車ノ場所ニ於テ乘降スルコトヲ得

機關士ハ停車スヘキ場所ニ於テ必ス完全ニ列車ヲ停止スヘシ但其停留場カ隨意停留場ナルカ又ハ乘降スヘキ旅客ナキ場合ニハ此限リニアラス

第十四條　一般公衆ノ義務

徒歩者、乘馬者、動物及各種ノ車輛ハ道路以外ニ特ニ設タル敷地ニ敷設シタル地方鐵道ノ上ヲ通行スルコトヲ得ス

乘馬者、動物及各種ノ車輛ハ道側ノ人道ニ敷設シタル地方鐵道ノ上ヲ通行スルコトヲ得ス

此通行禁止ハ鐵道ヲ横斷スルコトヲ許シ且ツ其爲メニ設ケタル平面ノ踏切ニ對シテハ之ヲ適用セス但此場合ニ依リ此ノ如キ場所ニ於テハ本規程ト異ル規定ニ從フヘキモノトス

乘馬者、各種車輛若クハ動物ノ宰領者ハ鐵道ニ通スル道路ヲ通行スル場合ニハ牽馬若クハ動物並歩(ナミアシ)セシメ且ツ線路ヲ横斷スル前ニ列車ノ接近セルヤ否ヤヲ確ムヘシ

徒歩者、乘馬者、各種ノ車輛及諸動物ノ宰領者ハ列車若クハ鐵道ノ車輛カ接近セル場合ニハ其通過ニ必要ナル場所ヲ明クル爲メ直ニ動物又ハ牽馬ト共ニ線路ヨリ一メートル半ノ距離ニ退クヘシ

乘馬者、各種ノ車輛及諸動物ノ宰領者ハ列車若クハ鐵道ノ車輛ニ接近シタル場合並ニ第十三條ニ規定セル停留場ヨリ四十メートルノ距離ニ至リタル場合ニハ牽馬及諸動物ヲ並歩(ナミアシ)セシムヘシ

若シ乘馬車又ハ宰領者カ馬匹ヲ操縱スルコト能ハサル者ナル場合ニハ下乘シ且列車ノ通過スル迄手綱ヲ把持スヘシ

線路上若クハ線路ヨリ一メートル半以内ニ臭氣物、石及其他ノ物ヲ置クヘカラス又線路、其附屬物及車輛ヲ損傷スヘカラス鐵道事務ヲ妨ケ又ハ延遲セシメ、虚僞ノ信號ヲ線路上ニ掲出シ又ハ信號機ニ接觸スヘカラス、如何ナル方法ヲ以テスルモ車輛又ハ機關車ニ接シテ歩行スヘカラス

第三章　雜則

第十五條　本規程ニ違反セルコトノ證明ハ地方警察官竝ニ政府ノ宣誓セシメタル免許人ヨリ監督事務ヲ委託セラレタル土木局ノ吏員ノ慣習ニ依リ之ヲ行フ

規定違反ニシテ現行法上特ニ處罰ノ規定ナキモノニ關シテハ一八一八年三月六日ノ法律第一條ノ規定ニ依リ處罰ス

地方鐵道ニ對スル政府ノ社債保證條件確定ニ關スル勅令

第一章　國庫ノ奥印

第一條　國立地方鐵道會社ガ町村、縣、政府ヨリ受ク可キ年賦金ヲ提供シテ發行スル債券ニハ國庫ノ奥印ヲ附スヘシ

此奥印ヲ以テ政府保證ノ證トナスモノトス

第二條　債券株式、各種社債ノ償還表等ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

償還ノ方法ハ年賦金トシテ受クヘキ額ヲ以テ漸次元金及利子ヲ支拂フ樣計算スヘシ

第二章　奥印附債券ノ發行

第三條　債券ハ國庫ノ奥印ヲ受ケタル後國立地方鐵道會社ノ項目ヲ以テ本金庫ニ供託スヘシ

株式拂込金ハ定款ノ定ムル所ニ依リ預金局若シクハ國立銀行ニ預入ルヘシ

第四條　前條ニ揭ケタル債券ノ發行及資金交付ニ關シテハ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

資金交付ハ左ノ規定ニ依ル

免許ト同時ニ株式資本ノ**百分之二十五**

土地買收、竣功工事、現場若シクハ倉庫ノ貯藏物品等ノ支拂ニ對シ土木會議（ボンエンヨーセ）ノ證明書ニ依リ株式資本ノ百分ノ五十マデ

株式資本ノ殘リ百分ノ二十五ハ前項ト等シク土木會議支拂證明ニ基ツキ漸次交付スヘシ

（舊規定）

第四條　前條ニ揭ケタル債券ノ發行及資金ノ交付ハ大藏大臣許可スル處ニシテ土地買收、竣功工事及現場貯藏物品等ノ支拂ニ對シ土木會議ノ證明書ニ依リ工事ノ進行ニ伴ヒ漸次交付スルモノトス

第三章　社債元利償還

第五條　政府ハ國立地方鐵道會社ノ代理人トシテ出納會計官署ヲシテ社債元利支拂ヲ取扱ハシムル可キ年賦金ト等シキ額ヲ國庫ヘ拂込ムヘシ

第六條　國立地方鐵道會社ハ縣及町村ノ年賦證書ニシテ其ノ提供ニ依リ債券ノ奥印ヲ得タルモノヲ國庫ニ抵當トシテ供託スヘシ

第七條　縣及町村ノ引受株式年賦拂込ハ左ノ方法ニ依ル

イ、縣ノ拂込年賦金ハ期日ヲ定メタル縣本金庫渡ノ約束手形

ロ、町村ノ分ハ縣ト同種類ノ約束手形若ハ必要アル場合ニハ町村基金ヨリ引出ヘキ定期支拂命令書

第八條　社債元利支拂期日ヨリ少ナクトモ十五日前ニ國立地方鐵道會社ハ同期間ニ縣及町村ヨリ受ク可キ年賦金ト等シキ額ヲ國庫ヘ拂込ムヘシ國庫ハ地方鐵道會社ヨリ前記拂込ノ受取書ノ返還ヲ受ケタル上曩ニ預ケ入レタル關係年賦證書ヲ同會社ヘ返付ス

第九條　政府ハ自己カ同期間ニ於テ會社ニ拂込ムヘキ年賦額ノ支拂通知書ヲ地方鐵道會社ニ交付ス

此支拂通知書ハ之レカ爲メ別段國庫ヨリ會社ニ對シ金子ヲ支拂フモノニ非ス、地方鐵道會社ニ於テ此支拂通知書ヲ受ケタル上ハ其記載ノ額ハ「地方鐵道會社元利支拂用」トシテ存シ第三者ニ拂渡スモノトス

第十條　町村ノ發行セル支拂命令書ハ地方鐵道會社ノ受取書ヲ添ヘ會社ヨリ預金局長官ヘ提出スヘシ長官ハ町村基金中ヨリ其額ヲ引出シ正金ヲ以テ町村收入役ヘ拂渡モノトス

第十一條　町村收入役ノ振出シタル約束手形ハ期日ニ至リ町村ヨリ地方鐵道渡シノ支拂通知書ト交換スヘシ

第十二條　地力鐵道會社ノ純益ガ社債費用ヲ支拂フテ剩餘アル場合ニハ縣及町村ヨリ振出ス可キ前記手形及支拂命令書ハ配當計算書ト引換ニ交付スルモノトス

第四章　社債ノ償還

第十三條　社債ノ償還ハ其借入方法ノ區別ニ依リ株式取引所ノ手ヲ經テ買戻シ若ハ抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第五章　雜則

第十四條　社債元利及利子ノ支拂ハ關係人ヨリ其自署ニ係ル明細書ヲ差出サシメタル上ニ行フモノトス

僞造債券ニ對シテ元利ヲ支拂ヒタル場合ニハ支拂取扱者ニ重大ナル過失アルトキノ外總テ其ノ損害

ハ地方鐵道會社ニ於テ負擔スヘシ

第十五條　支拂濟ノ利札及債券ハ期ヲ定メテ地方鐵道會社ヘ交付ス、會社ハ國庫ニ對シ責任解除ノ承認ヲ爲スヘシ

會社ハ國庫代表者ノ立會ヲ以テ支拂濟利札及債券ヲ燒棄シ債券消滅ノ次第ヲ證明スヘキ始末書ヲ國庫ニ提出スヘシ

第十六條　期日後五年ヲ經タルモ支拂ヲ請求セサル利札ハ地方鐵道會社ノ所得ニ歸ス

第十七條　會社ハ社債元利支拂費用トシテ大藏大臣及農商工務大臣ハ本勅令ノ施行ニ任ス

大藏大臣ノ定ムル額ヲ毎年國庫ヘ納付スヘシ

（千八百八十五年七月六日）

國立地方鐵道會社ニ付與スヘキ免許ニ關スル規則

第一條　千八百八十五年六月二十四日公布ノ法律ニ依リ國立地方鐵道會社ニ附與スヘキ免許ノ申請ニ關シテハ左ノ規定ヲ適用ス

第一章　免許ノ申請及調査事項

第二條　免許申請書ニハ左ノ圖書ヲ添附スヘシ

一　起業ノ目的、公衆ノ受クル利益、規在交通線路トノ聯絡及同上線路ニ及ホス可キ影響等ヲ記述セル目論見書

二　費用概算書

三　運賃表及收益豫算

四　免許條件書案

五　線路ヲ記入セル陸地測量部出版縮尺二万分之一平面圖

六　本線及附屬物ヲ記入セル縮尺二千五百分之一特別平面圖此平面圖ハ路性圖（Plan d'alignement destraverses）ニ準シ調製スルモノニシテ沿道ノ建物及其持主ノ氏名、人、道、下水道ヲ記入シ、地方鐵道車輛（諸種外部突出物ヲ含ム）ノ運轉ニ占用ス可キ區劃ハ青線ヲ以テ分チ其内

部ニハ青色ヲ塗抹スヘシ尚ホ狹隘ナル箇所ニアリテハ特ニ圖面ヲ調製シ、鐵道車輛ノ運轉ニ占用スヘキ地域幅員、同地域ト人道ノ端トノ間ノ自由交通路タル可キ部分ノ幅員、及各人道ノ幅員若クハ前記地域ト治道建物トノ間間隔ヲ記入スヘシ

八　線路縱斷面圖及適數ノ橫斷面圖

九　重ナル建造物ノ設計圖及線路定規圖其他

前記諸種ノ圖書ニハ國立地方鐵道會社ニ於テ日附ヲ附シ且ツ署名スヘシ

第三條　免許申請書類ハ農商工務省ヘ提出スヘシ農商工務省ハ國立地方鐵道會社ノ負擔ヲ以テ前記書類圖面ノ謄寫ヲ命スルコトヲ得

第四條　農商工務省ニ申請書ヲ審査シ其訂正變更ヲ命シ且ツ必要アルトキハ之ヲ調査ニ附託ス

第五條　前條ニ揭ケタル申請書ノ審査及後章ニ述フル調査ニ關スル費用ハ國立地方鐵道會社ニ於テ盡ク負擔スヘシ

第二章　調査

第六條　第二條ノ規定ニ依ル申請書及第四條ニ揭ケタル國立地方鐵道會社ヨリ提出スル附屬書類ハ各關係町村役場ニ於テ十五日間公衆ノ檢閱ニ供ス

此檢閱ハ揭示及公文書公告ト同樣ノ手續ヲ以テ公告スヘシ前記期間ハ此公告ノ日ヨリ起算ス

第七條　起業ニ關スル諸種ノ批判ハ町村助役會ニ於テ蒐集スヘシ第六條ニ揭ケル期限ヲ以テ町村助

役ニ於テ閉鎖スヘキ始末書ニハ提出者ノ署名セル申立事項ヲ記載シ且其添附申立書類ヲ列記スヘシ

第八條　調査始末書閉鎖後八日以内ニ於テ各町村會ハ起業及當該町村ニ於ケル調査期中ニ提起セラレタル申出事項ニ對シ自己ノ意見ヲ上申スヘシ

調査妹末書及町村會議事錄ハ遲滯ナク上級機關町村參事會ニ提出スヘシ上級機關ニ於テハ十五日以内ニ自己ノ意見ヲ附シ農商工務省ニ進達スヘシ

第九條　農商工務省ハ調査ノ結果必要ト認ムル時ハ國立地方鐵道會社ヨリ提出セル起業案ニ變更ヲ命スルコトヲ得、此變更ガ線路ノ一般設計若シクハ人家稠密ノ部分ノ線路位置ニ關係アルモノナルトキ農商工務省ハ其變更事項ヲ更ニ調査ノ上申スヘシ

更ニ調査ニ附ス可シト決シタル塲合ニハ總テ第一次ノ調査ト同樣ノ手續ヲ以テ再調査ヲ行フヘシ但シ第六條及第八條ニ定メタル十五日ノ期間ハ各八日ニ短縮ス

第三章　免許狀

第十條　審査及調査ヲ了リタル上農商工務省ハ工事設計案及免許狀案ヲ定ム

第四章　免許ノ裁可

第十一條　免許ハ裁可ヲ俟チテ確定ス

第五章　臨時規定

第十二條　本勅令公布前ニ國立地方鐵道會社ヨリ提出スル免許申請書ハ千八百七十五年九月十日勅令

第二條ニ依リ調製スルコトヲ得

農商工務大臣ハ本勅令ノ施行ニ任ス

（千八百八十五年七月二十二日）

第三編　獨逸輕便鐵道諸法規

小鐵道法附錄(甲)

千八百九十二年六月二十八日ノ小鐵道及專用鐵道法ニ關スル施行細則（一八九八年八月十三日施行）

第一條附錄　認可協議ニ與カル鐵道官衙ハ鐵道建設地所管縣知事(伯林ニ於テハ警視總監)ニ提出スヘキ總テノ認可申請中動力ヲ以テ運轉スル鐵道(第三條ノ一)ノ變更又ハ擴張ニ關スル申請竝ニ動力ニ依ラサル他ノ鐵道(第三條ノ二)カ動力ヲ使用スルニ關スル申請ニ限リ署名ノ上工部大臣ニ報告スルモノトス但シ該鐵道ハ千八百三十八年十一月三日ノ鐵道企業法ニ從フモノナルヤ否ヤヲ調査シ之カ判斷ニ必要ナル圖面ヲ添ヘテ報告スルモノトス

右ノ外ノ小鐵道ノ建設認可ニ關スル申請ハ市街馬車鐵道ニ關セサルモノニ限リ同樣ノ事項ニ關シ工部大臣ニ報告スルモノトス

認可權限アル官衙ハ動力ヲ以テ運轉スル鐵道ニ關シテハ工部大臣ニ於テ決定ヲ與ヘサル限リハ認可申請ヲ處理スヘカラス但シ千八百三十八年十一月三日ノ鐵道企業法ニ依リ報告又ハ質疑ヲ要セサルモノト認ムルモノニ限リ工部大臣ノ決定ヲ俟タス認可申請ヲ處理スルモノトス

小鐵道法ノ總テノ規定ニ從フ動力ヲ以テ運轉スル鐵道ノ變更又ハ擴張ニ關スル申請ハ該鐵道カ市町村區域ノ外ニ延長スルノ時ハ之カ報告ヲ要セサルモノトス

認可ニ際シ他ノ鐵道トノ連絡ヲ許サヽルコトヲ豫メ決定シタル場合ハ報告ノ謄本ヲ直チニ陸軍大臣ニ提出スルモノトス

(イ)ダンチヒ線ヨリヂルシャウヽシュナイデーミユルヽボーゼンヽブレスラウヲ經テオーデルベルヒニ至ル鐵道以東

(ロ)ライン河左岸ニ至ル鐵道以西

(ハ)海岸ニ瀕スルモノ

(ニ)其ノ他ノ國境竝ニ之ニ準スヘキ地域內

(ホ)前記以外ノ地域ニ於テモ小鐵道カ二個又ハ二個以上ノ本鐵道又ハ副鐵道ト直接ニ接續スルトキ若クハ二個又ハ二個以上ノ本鐵道又ハ副鐵道ト一所ニ他ノ小鐵道ト連絡スルトキ

小鐵道ノ擴張又ハ變更ニ關スル申請ハ千八百三十八年十一月三日ノ法律ニ從フヘキモノナルヲ理由トシテ該申請ヲ却下スル場合ニハ其ノ理由ヲ明記シ且ツ適當ニ指定シメル期間ニ處分府縣知事ヲ經テ右ノ處分ニ關スル內閣ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得ル旨ヲ附記スヘシ右ノ申請アリタル片ハ處分府縣知事ハ工部大臣ニ報告スヘシ

第二條附錄　企業認可ハ本人ニ交付スルモノトス、申請者カ一個人ナル時ハ該認可ハ相續人又ハ其ノ

他ノ權利承繼人ニ移轉ス但シ相續以外ノ權利承繼人ニ於テハ鐵道企業者トシテ何等ノ妨ナキ（外國人官吏）場合ニ限ル企業者カ他國人ナル場合ニハ認可ニ際シ次ノ條件ヲ命スヘシ內地ニ於テ住所ヲ有效ニ有スルコト。帝國臣民トノ契約ハ該住所ニ於テ有効ニ締結スルコト。業務ニ關スル契約ヨリ生スル一切ノ責務ハ當該地ノ管轄裁判所ニ訴フヘキコト

第三條附錄　縣知事ハ外部ニ對シ認可交付ニ關スル權限アルモ認可狀竝ニ追加認可狀ニ於テハ企業人ニ認可ニ同意シタル同官衙ノ名ヲ記載スルモノトス

縣知事ハ認可交付前ニ該企業ハ小鐵道中市街鐵道ニ屬スルモノナルヤ副鐵道類似ノ小鐵道ニ列スヘキモノナルヤニ關シ明瞭ナラサル場合ニ於テハ工部大臣ニ伺ヒタル後右ニ關スル決定ヲ爲シ認可狀ニ記載スルモノトス

左ノ道路ハ之ヲ人工道路ト見做ス

(イ)千八百八十七年六月二十日ノ法律施行區域ニ於テハ同法第十二條ニ規定ノ人工道路

(ロ)ハンノーヴエル洲ニ於テハ石灰叩キ道路竝ニ國道

(ハ)シユレスウィヒ、ホルスタインニ於テハラウエンブルヒ侯領ヲ除キ洲ノ維持ニ屬スル本國道及副國道竝ニ郡ノ維持ニ屬スル改築副國道

(ニ)ヘッセン、ナッサウ洲ニ於テハ元ノ國道、洲道、郡道、石灰叩キ連絡道路竝ニ國道

(ホ)ホーヘンツォルレルン國ニ於テハ國道

(ヘ)ラウエンブルヒ侯領ニ於テハ國道

何レノ人工道路カ市街道路トシテ市ノ維持及管理ニ屬スルヤハ各場合ニ於テ特ニ決定ヲ要スル事實問題トス此ノ場合ニ於テハ直チニ市廳ト商議シ人工道路ノ何レノ部分カ縣ノ所管ニ屬セサルヤニ關シ解決スルヲ可トス但シ右ノ場合ニ於テ意見ヲ異ニスル時ハ權限アル大臣（工部及ヒ內務大臣）ノ決定ヲ要スルモノトス

線路カ公ノ道路ニ接シテ河川ニ架設セラレサル可ラサルカ若シクハ該道路ノ建築狀態ニ於テ容易ニ線路ヲ布設スルヿ能ハサル場合ニ於テハ認可申請ニ關スル調查ニ於テ技師（王國技師、縣、郡又ハ市技師）ニ諮問スルコトヲ要ス

右認可會議ニ關シテ要シタル總テノ實費ハ企業人ニ於テ負擔シ其ノ他ノ費用（技師ノ旅費等）ハ國ニ於テ負擔スルモノトス

第三項末文ニ於テハ動方運轉ヲ他ノ運轉ニ變更スル場合ニ付テハ縣知事ハ鐵道官衙ノ同意ヲ得テ認可ニ關スル權限ヲ有スルコト、竝ニ鐵道カ始メヨリ動力ヲ以テ運轉セサルヿ初ヨリ決定セラレタルトキハ認可後ノ監督權ハ認可交付ノ權限アル官衙ニ移轉スルコトヲ注意スルモノトス

第四條附錄　第一號乃至第四號ニ於テハ概シテ警察ノ檢查スヘキ諸點ノミヲ規定スルモ右ハ獨リ警察ノ決定事項ト爲スノ必要ナシ殊ニ第四條ノ規定ニ依リテ認可ヲ交付スル所ノ官衙ハ同號ニ揭クル總テノ檢查事項ニ關シ豫メ規程ヲ設ケ又ハ條件ヲ定ムルコトヲ要セス各場合ニ應シ公共ノ利益保護ニ

關スル規程又ハ條件竝ニ該規程及條件ノ程度ヲ決定スルモノトス

官衙ハ各場合ニ於ケル狀況ニ從テ職務上公共ノ利益保護ニ關シ必要ト認ムル事項ハ總テ之ヲ檢査スルモノトス殊ニ建設ノ設計ハ右ノ主旨ニ從テ檢査スルモノトス但シ技術上ノ改良ニ關スルモノハ此ノ限リニアラス

企業者ノ提出セル圖面(建設竝ニ運轉ニ關スル設計)ニ付必要ナル檢査ヲ詳細ニ行フヲ要セサル場合ニ於テハ該檢査竝ニ計畫ニ相當スル條件ノ設定ハ建設又ハ運轉著手迄保留スルコトヲ得

第三號ニ揭クル『外勤業務員』トハ鐵道ニ於ケル『外勤業務員』ヨリ狹義ニ解スヘシ鐵道ニ於テハ廳內ノ職員ト區別シテ直接ノ業務ニ關シ公衆ニ接スル總テノ職員ヲ總稱スルモ小鐵道法ニ於テ外勤業務員ト稱スルモノハ直接ニ運轉又ハ保線業務ニ從事スル職員(機關手、火夫、列車長、車掌、馭者、線路檢查番主任、列車ノ運轉ニ任スル職員等)ヲ云フ

技術上ノ信用トハ職務上ノ義務ノ履行ニ關スル信用ト同意義ナリ

技術的技能ニ關スル試驗ノ程度及方法ハ認可ノ際ニ之ヲ定ムヘキモノトス尙該試驗ハ馬車鐵道ニ於ケル如ク技術上ノ技能ナキ職員又ハ技術上ノ信用ナキ職員ヲ除外スルモノナルコトニ關シ規定スルモノトス

認可ニ際シテ一般ニ行フヘキ各職務ニ關スル試驗ハ各場合ニ於テ各職員ニ付キ行フコトヲ要スルモノトス

小鐵道企業人ハ外勤業務員ノ試驗規則ニ限リ之ヲ起草シ監督官衙ノ認可ヲ受クルコトヲ得ルモノトス監督官衙ノ適當ナル檢查ノ下ニ認可ヲ受ケタル該試驗規則ニ從テ試驗ヲ經タル職員ハ又他ノ監督廳管區竝ニ他ノ小鐵道ニ於テモ小鐵道法第四條第三號ニ規定ノ業務ト同一ノ業務執行ニ關シ技術的技能ヲ備フルモノト見做スモノトス

認可ニ關スル條件ハ法律ニ依ル企業人ノ義務ノ定量及性質ヲ明ニスル爲メ必ス認可狀ニ揭クルモノトス

企業人カ將來ノ運輸發展ノ結果企業ノ擴張又ハ變更ニ關スル要求ニ從フコトヲ前以テ承諾スルノ條件ハ此ノ限リニアラス

第五條附錄　技術上企業ノ判定ニ必要ナル圖面ハ小鐵道法第四條第一號ノ檢查ヲ行フ爲メニ必要ナリ故ニ圖面ハ檢查ヲ行フニ必要ナルモノニ限リ請求スルモノトス、如何ナル圖面ヲ要スルヤハ各場合ニ於テ決定セサルヘカラス但シ左ノ圖面ハ常ニ缺クヘカラサルモノトス

一　動力ヲ以テ運轉スヘキモノニシテ副鐵道的小鐵道トシテ千八百九十八年八月十三日ノ運轉規程ニ從テ運轉スヘキ鐵道ハ左ノ圖面ヲ要ス

(イ)停車場竝ニ線路(一「キロメートル」區分)ヲ識別スル爲メ大ナル朱引ノ線路ヲ示ス一覽圖、參謀本部製地圖、市町村地圖、測量圖、鑛山地圖、但シ書塵ニ於テ販賣スル適當ナル地圖ハ之ヲ一覽圖トシテ使用スルコトヲ得

(ロ)直線及曲線路ノ長サ、曲線ノ半徑、停車場、傾斜面ノ勾配竝ニ公益ノ爲メ又ハ線路附近土地ノ所有者ノ利益ノ爲メ「線路ノ位置決定、線路建設及對來ノ運轉ニ關シ必要ト認ルカ又ハ企業其ノモノニ關シ重要ト認ムル所ノ總テノ設備ヲ表示スル平面圖及橫斷面圖

(ハ)貨物ノ積却線區ノ線路ノ下部工事ニ關シ標準ヲ定ムル橫斷面圖及建築定規ノ橫斷面圖竝ニ運轉規程ニ規定セサル限リ車輛ノ最大限ノ幅及長サノ橫斷面圖

(ニ)軌條橫斷面圖及實物大ノ小鐵具竝ニ五十分ノ一ノ衝頭接合ヲ示ス上部工事圖面、該圖面ニ於テハ列車ノ最大限輪壓、最大限速度線路一「キロメートル」ニ付テノ縱枕木ノ長サ及重量竝ニ其寸方、橫枕木ニ於テハ相互ノ間隔

(ホ)車輛ノ圖面竝ニ運轉規程ニ違背スル車輛ヲ使用スル場合ニ限リ說明ニ必要ナル書類ヲ添附シタル制動機設備ニ關スル圖面

(ヘ)千八百三十八年十一月三日ノ法律ニ從フ鐵道ノ轍叉圖面竝ニ同鐵道ニ接續スル線路圖面、但シ該接續線ノ實設ニ關シテハ之ニ必要ナル工部大臣ノ認可ヲ要スルモノトス

橋梁、踏切、地下道、排水、旋車盤、轉轍器等ノ建築圖面ハ建築着手前ニ提出スルモノトス

各圖面ニ說明書添附ノ要否ニ關シテハ認可權限アル官衙ニ於テ決定スルモノトス、但シ此場合ニ於テハ認可スヘキ設備ノ結構及性質ヲ詳細ニ證明スルニ足ル材料ノ存否ニ關シ注意ヲ要ス

二　動力ヲ以テ運轉スヘキ鐵道ニシテ本小鐵道ハ鐵道法第三條及同第二十二條附錄ニ從ヒ特別警察規則ニ基テ運轉スヘキ小鐵道ハ左ノ圖面ヲ要ス

(イ)平面圖及斷面圖

(ロ)軌條圖面及轉轍器圖面

(ハ)建築定規竝ニ車輛ノ最大限ノ幅及高サ

(ニ)前一號ホニ示ス場合ニアラサル限リ車輛及其他ノ圖面

建築圖面ニ關シテハ前一號ノ末項ヲ適用ス

右以外ノ鐵道(動力ヲ以テ運轉セサル)ハ左ノ圖面ヲ要ス

(イ)平面圖

(ロ)軌條及轉轍器圖面

(ハ)(ニ)前二號ノ(ハ)及(ニ)ニ揭ノル圖面

經濟ニ關シテハ企業人ハ鐵道建設費ヲ有スルヤ又ハ法律上許サルヘキ確實ナル方法ニ依リテ該費用ヲ調達シ得ルヤ尙ホ該費用ハ鐵道ノ完成及設備ヲ當初ノ計畫及見積通リ遂行スルニ足ルヤ

ヲ調査スルモノトス、該費用ハ通例要スル所ノ費用見積リニ基キ調査スルコトヲ得、但シ建設費ノ適否竝ニ同費用調達ノ可能不可能ニ關スル調査方法ハ認可權限アル官衙ニ於テ決定スルモノトス

第八條及第九條附錄　帝國郵便及電信ノ利益保護、小鐵道法第八條二項及第九條)ニ關シテハ權限アル帝國郵便廳ト協議ノ上決定スルモノトス

國防(小鐵道法第八條第一項及第九條)ノ利害ニ關シテハ左ノ事項ヲ注意スルモノトス

第八條第一項附錄

一　全部又ハ一部分カ要塞ノ最外堡壘ニ十五米突又ハ十五米突以下ノ地點迄接近スル總テノ小鐵道又ハ要塞ノ最外堡壘及都市ノ圍廓ニ介在スル總テノ小鐵道ハ要塞地區ニ接近スル鐵道ニ加入スルコト

二　要塞地內ニ建設セルモ都市ノ圍廓ヲ越ヘサル小鐵道又ハ該小鐵道ノ一部分ハ前一號ニ揭クル小鐵道ニ屬セス

三　都市ノ圍廓ナキ要塞ニ於テハ陸軍大臣及工部大臣ニ於テ特ニ協定シタル線路

第九條附錄(甲)　發動機ヲ以テ運轉スヘキ總テノ小鐵道ニ對シテハ線路及車輛ノ設備ニ關シ認可狀ニ左ノ條件ヲ附スルモノトス

一　軌道

(イ)標準軌間ノ外ハ〇、六〇〇　〇、七五〇及一、〇〇〇米突ニ限リ許スヘキコト

(ロ)橫枕木ノ工事ニアリテハ軌條ノ最小重量ヲ線路一米突ニ付九、五「キログラム」トナスコト

(ハ)〇、六〇〇米突ノ軌間ニ在リテハ曲線ノ最小半徑ハ三〇米突トナスコト

(ニ)轉轍器轍叉及踏切等ニ於ケル轍溝ノ間隔ハ〇、〇三五米突以上トナスコト

二　車輛

(イ)〇、六〇〇米突ノ軌間ヲ有スル鐵道ニ在リテハ機關車及車輛ハ半徑三〇米突ノ曲線ヲ容易ニ通過スル如ク製造スヘキコト

(ロ)輪緣附車輪ヲ使用スヘキコト

(ハ)〇、六〇〇米突ノ軌間ヲ有スル鐵道ノ車輛ハ軌條面上〇、三〇〇乃至〇、三四〇米突ノ高サニ於テ中心緩衝器ヲ設クヘキコト

(ニ)車輛ノ積載重量ハ五百「キログラム」ノ倍數トナスヘキコト

三　停車場ノ設備

小鐵道カ他ノ鐵道ト連絡シ而モ車輛ノ通過ヲ許サヽルモノニ限リ適當ナル貨物積替規則ヲ設クヘキコト

四　既存鐵道ヲ擴張スル場合ニ於テ從來ノ軌間竝ニ軌條重量カ前一號(イ)及(ロ)ノ規定ニ相當セサルトキハ擴張區間ニ對シ更ニ認可ヲ經ヘシ

五　格段ナル理由ニ依リ前四號ノ規定ニ依ラサルコトヲ必要トスル場合ニ於テ陸軍大臣ノ同意ヲ得

テ決定シタル事項ハ工部大臣ニ報告スルモノトス

六　其ノ他各小鐵道ニ對シ特ニ設備ニ關シテ認可狀ニ記載スヘキ格段ナル要求ヲ爲スヤ否ヤハ陸軍大臣ノ同意ヲ得テ決定スルモノトス

第九條附錄(乙)　發動機ヲ以テ運轉スヘキ總テノ小鐵道ハ運轉ニ關シ左記規定ノ義務ヲ負擔ス但シ該小鐵道ハ市街鐵道ナルカ又ハ三個以上ノ市町村區域ニ亘ラサル小鐵道ニシテ旅客運輸ニ限リ使用セラルヽモノナル時ハ此ノ限リニアラス

一　小鐵道ハ戰時及平時ニ於テ運搬力ニ相當スル各種ノ輜重護送ノ義務ヲ負擔ス又戰爭狀態ノ繼續中陸軍經理ノ爲メニ個人貨物ノ運搬ヲ義務ヲ負フ

二　輜重護送ノ執行上貨物ノ受付、送達、荷積、荷卸竝ニ運送ニ關スル必要ナル設備及公衆運輸ニ關スル規定ニ依ラサルヿヲ必要トスル場合ニアリテハ輜重護送ハ各場合ニ於テ軍衙及鐵道ノ協定ニ從フモノトス但シ運轉ノ保安ニ關スル一般ノ規定ハ之カ爲メ妨ケラルヽコトナシ

三　動員及戰爭ノ場合ニ於テ普通列車ヲ以テ輜重護送ヲ遂行スルコト能ハサル時ハ陸軍經理ハ普通運輸ノ運轉時刻表ニ軍用列車竝ニ臨時列車ノ運轉時刻ヲ記入スルコト竝ニ時々普通列車ノ發着時刻ヲ制限シ又ハ全ク之ヲ中止シテ臨時軍用列車運轉時刻ヲ實施スルコトヲ得

四　小鐵道ハ動員及戰爭ノ場合ニ職員竝小鐵道ノ修理及運轉ニ必要ナル材料ヲ供給スヘキ義務アルモノトス但シ該費用ノ賠償格ハ軍用鐵道法及千八百七十三年六月十三日ノ戰時作業法ニ從テ決定

スルモノトス

五　陸軍ハ動員及戰爭ノ場合ニ於テ戰場又ハ戰場附近ノ小鐵道ヲ引受クヘキ權利ヲ有ス該鐵道ノ引受運轉返還ニ關スル取扱手續ハ鐵道ノ戰時運轉及軍用運轉ニ關スル規定ニ從テ定ムルモノトス

六　小鐵道ハ平時及戰時ニ於ケル輜重運搬力取調ノ爲メ鐵道監督官衙ノ請求アル時ハ同鐵道ノ設備及車輛ニ關シ報告スルヲ要ス

陸軍經理ハ又該報告ノ追加ヲ求メ並ニ其他ノ軍事上ノ目的ヲ以テ直接ニ取調テ行フヘキ權限ヲ有ス、派遣シタル將校及職員ニ對シテハ各取調事項ニ關シ充分ナル援助ヲ與フルモノトス

各輜重護送ハ權限アル官衙ノ作製シタル證書ヲ附スヲモノトス

左ニ揭クルモノハ證書ノ効力ヲ有ス

(イ)附錄(一)ニ添附セル樣式ニ從フ證書

(ロ)除隊令及召集令並ニ賜暇旅行券

(ハ)荷物送狀

右ノ證明書類ニ基キ軍用運賃率ヲ以テ平時ハ現金戰時ハ定期支拂トシテ運送スルモノトス

軍用乘車券ハ前(イ)及(ロ)ニ揭クル證ヲ示ス時交付スルモノトス

陸軍官衙カ證書(附錄(一)ニ揭クル樣式)ニ代ヘテ乘車證(附錄(二)ニ揭クル樣式(二)ニ從フ)ヲ作製スル時ハ該乘車證ハ直チニ乘車券ト同一ノ効力アルモノトス

現金支拂ノ場合ニ發行スル該乘車證面ハ同樣ナル二個ノ區劃ヲ有シ權限アル鐵道職員ハ該兩區劃ニ於テ運賃ヲ記入シ職印ヲ捺スルカ又ハ署名スルモノトス兩區劃ハ輸送隊長ニ於テ保管スルモノトス一ノ區劃ニ於テハ軍用乘車券トシテ効力アルコト、陸軍經理ニ於テ承認セルコト、乘車運賃ハ陸軍經理ニ於テ支拂フヘキコト他ノ區劃ニ於テハ小鐵道ニ於テ承認セルコトヲ記載スルモノトス但シ該乘車券ハ軍衙ニ於テ輸送ヲ終ヘタル後ハ小鐵道ニ於テ返付スルモノトス

定期支拂ノ場合ニアリテハ乘車證書(樣式二)ニヨリ運送スヘシ此ノ場合ニ於テハ運賃ハ留守師團經理監督部ニ於テ清算ス此ノ場合ノタメニ乘車證ハ鐵道ニ於テ保管スルモノトス

七ノ一　武裝シタル召集軍人(陸海軍)並ニ國民軍召集軍人ハ動員狀態ノ繼續中ハ運轉時刻表ニ揭ケル總テノ列車(各級)ニ尙必要ナル場合ニ於テハ他ノ總テノ旅客及貨物運輸ヲ後廻ハシトシ乘車券ナク無賃ニテ鐵道ヲ使用ス但シ右ノ場合ニ於テハ左ノ規定ニ從フモノトス

(イ)豫後備下士卒ハ召集令又ハ他ノ軍用證書ヲ示スコト

(ロ)當該軍團管區內ノ國民軍下士卒ハ自己ノ國民軍ニ屬スルコト並ニ召集セラレタルコトヲ口頭ヲ以テ述フヘキコト

(ハ)國民軍志願兵ハ旅行ノ目的ニ關スル地方官衙ノ證明書ヲ示スヘキコト

證書ノ提示又ハ口頭陳述ハ監督官ニ對シテ爲スモノトス

旅行ノ目的ニ關スル口頭陳述ニ於テ疑点ナキ時ハ前(イ)ニ揭クル證書ノ提示ヲ要セス

二　小鐵道ハ前一號ニ規定ノ各事項ニ關シ市町村役場又ハ陸軍經理ニ於テ必要ト認ムル公告ヲ停車場ニ揭示スルヲ要ス

三　徵兵區司令部ハ小鐵道ニ對シ動員ノ場合ニ於テ要スヘキ行爲ニ關シ補助ヲ與フヘキ爲メ動員ノ場合ニ同鐵道ヲ以テ輸送スヘキ召集軍人ノ豫定數並ニ該召集軍ノ使用スヘキ列車ニ關シ三ケ年毎ニ報告ヲ爲スモノトス

該報告ハ必要ノ場合ニ於テハ前規定ニ依ラス何時ニテモ爲スモノトス

四　動員ノ場合ニ運轉業務員ノ兵役猶豫ニ關スル小鐵道ノ申請ハ該職員カ服職義務アルカ又ハ軍事教育ヲ受ケタル召集軍人中ノ第二國民軍ニ屬スルモノニ限リ徵兵令第二十號ノ樣式ニ從フ名簿ニ添附シテ府縣知事ニ提出スルモノトス府縣知事ハ該名簿ヲ審査シ已ムヲ得サルモノト認ムル者ニ限リ王國鐵道管理局ノ同意ヲ得テ徵兵令第二十三條號ニ從フ猶豫證ヲ作リ名簿ニ添附シテ徵兵區司令部ニ送附スルモノトス

該猶豫ノ決定ハ小鐵道法第九條附錄(施行細則)ニ規定ノ義務ニ服セサル小鐵道ニ對シテハ効力ナキモノトス

五　實際ニ輸送シタル下士卒ニ對スル追加運賃ノ仕拂ハ軍用運賃率ニ從テ鐵道ニ仕拂フモノトス檢查役ハ自己ノ決定ニ基キ必要ナル報告ヲナスモノトス、決算ハ檢查ノ爲メ召集軍出發地ノ徵兵區司令部ニ提出スルモノトス徵兵區司令部ハ留守參謀本部監督部ニ該決算ヲ送付ス

八　小鐵道ノ電信及電話ハ鐵道業務上差支ナキ限リ至急ヲ要スル軍事報告ニ使用ス該電信電話使用料ハ動員及戰爭ノ場合ニ於テハ之ヲ要セス

九　海軍及殖民地保護隊ハ又陸軍經理、陸軍官衙、輜重護送、軍隊ト等シク各自ノ名稱ヲ表記スルモノトス

前第九條附錄諸規定ハ企業、設備ノ擴張又ハ變更認可又ハ豫定線ノ運轉認可ニ關シ適用ス

第九條附錄(丙)

一　認可申請書ニ添附スヘキ本小鐵道法第五條附錄ニ依ル圖面ハ同八條附錄第一項ニ揭クル小鐵道ニ在リテハ認可狀交付前ニ要塞官衙ニ提出スルモノトス

二　右ノ規定ハ要塞ノ內方ニ布設スヘキモノニシテ都市ノ圍廓ヲ越ヘサルカ又ハ圍廓ナキモ同盟鐵道ヲ越ヘサル小鐵道又ハ該小鐵道ノ或ル部分ニ對シ効力アルモノトス該小鐵道カ其他ノ要求ニ應セサル時ハ國防上ノ利益ニ關シ同利益ノ侵害防衛ニ必要ナル要求ニ限リ應セシムルモノトス

三　國防ノ利益ニ關シ小鐵道ニ於テ負擔セシムヘキ義務ハ必要ナル場合ニ於テハ認可條件トシテ認可狀ニ揭クルモノトス

第十條附錄　貨物運輸用小鐵道ニ關スル規定ノ主旨竝ニ該主旨ニ關聯スル公ノ利益ハ著大ナル貨物ノ發送人及受取人ニ貨物ノ發送及受取ヲ容易ニ行ハシムル爲メ接續線ノ建設權ヲ付與シタル時ヲ以テ完全ニ認メラルヽモノトス

故ニ小鐵道ノ認可ニ際シテハ貨物運輸ヲ營ムヘキ同鐵道企業人ニ專用線ノ許可ニ附スル義務條件ヲモ規定シ置カサル可ラス

第十一條附錄　認可權限アル官衙ハ各種ノ小鐵道ヲ認可スル場合ニ企業人ニ對シ公共ノ利益アルモノト認ムル限リ該小鐵道ノ建設實行竝ニ秩序正シキ運轉ノ維持ニ關スル義務ヲ認可期間負擔セシメサル可ラス該キ旨ハ小鐵道法第十條末項ニ揭クル場合ニ適用スルモノトス、但シ單ニ鐵索鐵道ノ如キ娛樂ヲ主トシ土地收用權竝ニ公共道路ノ使用權ヲ有セサル鐵道ニ對シテハ右ノ主旨ニ依ル義務ヲ負擔セシムルコトヲ得ス、故ニ如斯場合ニ於テハ公共ノ利益ニ關シ建設及運轉ノ義務ニ關スル條件ノ要否ニ關シ充分ニ思料セサルヘカラス

第二項及第三項ニ規定ノ罰金ノ高ハ鐵道ノ存在及運轉ニ關スル公共ノ利益ノ度ニ從テ定ムルモノトス罰金ハ建設資本ノ百分ノ十ヲ以テ最大限トシ是以上ハ公共ノ利益上科スヘカラス

副鐵道的小鐵道ニ對シテハ運轉ノ秩序及保安ヲ維持スル爲メ改良資金竝ニ特別準備金ヲ左ノ規定ニ從テ積立ツヘキコトヲ認可狀ニ揭クルモノトス

一　改良資金ハ上部工事及車輛ノ改良ニ充ツルモノトス

但シ車輛ニ關シテハ一切ノ機關車及車輛ノ改良ニ要スル費用ヲ云ヒ、上部工事材料ニ關シテハ軌面上各部分ノ改良ニ要スル費用ヲ云フ車輛ノ各部分ノ改良補充費ハ營業費ヲ以テ仕拂フモノトス

改良費ハ左ノ收入ヲ以テ積立ツルモノトス

(一)不用材料ノ賣却代
(二)資金ノ利子
(三)營業費ヲ超過スル營業收入ノ剩餘額ヨル引去ルヘキ積立金

右年積立金額ハ各企業ノ格段ナル狀況及必要ニ顧慮シ左ノ如ク定ムルモノトス

(イ)軌條轉轍器及少鐵具ノ總製造費トシテ百分ノ一乃至二
(ロ)枕木費トシテ百分ノ二、五乃至五
(ハ)機關車ノ製造費トシテ百分ノ一、二五乃至二、五
(ニ)車輛ノ製造費トシテ百分ノ〇、七五乃至一、五

鐵道カ蒸氣機關ニ依ラス他ノ方法(例セハ電氣)ヲ以テ運轉セラルヽ時ハ認可權限アル官衙ハ如何ナル場合ニ於テモ前(ハ)ノ積立率ヲ命スルコトヲ要ス

一ケ年ノ營業成績カ改良資金ノ積立ヲ爲スコトヲ許サヽルカ又ハ規定ノ積立率ニ達セサル時ハ該缺陷ハ翌年又ハ次ノ營業年度ノ剩餘額ノ內ヨリ補塡スルモノトス尙ホ該餘額ノ內ヨリ補塡スルコト能ハサル時ハ工部大臣ノ認可ヲ經テ之カ積立ヲ免スルモノトス認可權限アル官衙ハ改良資金一定ノ額ニ達シタルコトヲ認メタル時ハ企業人ノ申請ニ對シ該資金積立ノ停止ヲ許可スルコトヲ得

二　特別豫備金ハ臨時事件及大ナル災害ニ基因スル費用ノ支拂ニ充ツルモノトス

特別準備金ニ編入スルモノ左ノ如シ

(一)配當ノ殘額及其利子
(二)本準備金ノ利子
(三)純益ヨリ控除スヘキ年積立額

毎年ノ特別準備金積立高ハ純益ノ百分ノ一、五乃至三ト定ムルモノトス特別準備金カ建設費ノ百分ノ五ニ達タルトキハ該金額ノ存在中準備金ノ積立ハ中止スルコトヲ得

三　改良資金及特別準備金ノ積立(第一號及第二號)高ニ關スル規定ハ從來ノ積立率ノ適否ニ關シテハ五ケ年毎ニ一回ノ調査又改良資金ニ關シテハ其ノ製造價格ニ關シ同一ノ期間ニ一回ノ調査ヲ行フコトヲ特別規程ニ於テ定ムルモノトス

四　改良資金及特別準備金ハ他ノ企業者ヨリ區分シテ各別ニ保管スルモノトス

改良資金及特別準備金ニ入ルヽ金額ハ直チニ使用セサルモノニ限リ帝國銀行ニ預ケ入レルモノトス

五　企業人カ會社定款ニ依リテ又ハ契約上(假令ハ補助給與土地貸渡ニ關シ國州又ハ郡トノ契約ニ依リテ)積立金積立ノ義務アルトキハ認可期限滿了迄該義務ヲ確實ニ履行スヘキモノタルコトヲ認可狀ニ揭クルコトヲ以テ足レリトス

六　自治團體カ小鐵道ノ企業人ナル場合ハ同團體ノ監督、國又ハ洲ノ保助ニ關スル規定若クハ協定

ヲ毀損セサル限リ積立金ノ積立ニ關シ前號ノ義務アルモノトス

第十三條附錄 認可ハ無期トスルヤ又ハ有期トスルヤハ認可權限アル官衙ニ於テ自由ニ決定スルモノトス此ノ場合ニ於テ公ノ道路カ使用セラルヽ時ハ一般ニ認可ハ無期限ニ交付スヘカラサルモノトシ又專有ノ線路ノ建設ニ關シテモ認可ハ常ニ無期限ニ交付スヘカラス企業經濟ノ狀態ニ於テ無期限認可ノ必要ナルコト尙ホ之ニ由テ公ノ利益ヲ害セサルモノト認ムル場合ハ無期限ニ交付スルモノトス

有限認可期限ヲ決定スル場合ニ於テハ道路使用權期限ノ外ニ企業者ニ於テ建設費ノ消却ヲナシ能フ爲メ該認可期限ハ詳細ナル調査ヲ行フテ決定スルモノトス

第十四條附錄 運轉時刻竝ニ運賃ニ關スル條件及要求ハ鐵道ノ運轉ニ基因スル公共ノ交通利益ノ度ヲ標準トシテ定ムルモノトス

運轉ニ關シテハ公共ノ保安ニ顧慮シ各場合ニ於ケル列車ノ最大限速力ハ副鐵道ノ最大限速度ヲ超過セサル度ニ於テ定ムルモノトス尙認可ノ場合ニ於テ總テノ列車又ハ各列車ノ數及時間ニ關シ其他ノ命令ヲ爲スヤハ各場合ニ於ケル格段ナル狀況ニ從テ定ムルモノトス

第十六條附錄 小鐵道法第十六條ニ揭クル會社ニアラサル企業人ニ認可狀ヲ交付シタル時ハ又鐵道建設地管轄官衙ノ公報ニ於テ認可交付ニ關スル公告ヲ爲スコトヲ要ス認可權限アル官衙ハ交付シタル各認可狀ノ謄本ヲ工部大臣ニ提出スルモノトス

同法第十六條ニ規定ノ一會社ニ交付シタル認可狀ハ認可權限アル官衙ニ對シ商業登記簿ニ登記シタ

ルコトヲ報告シタル後公告スヘシ認可權限アル官衙ハ登記ニ關スル期限ヲ認可狀ニ記シ公報ニ於テ公告スルモノトス

組合所屬ノ小鐵道ニ認可ヲ交付スル場合ハ認可狀ハ企業人ニ交付前ニ組合登記簿ヲ保管スル裁判所ニ提出シ裁判所ニ於テ登記ヲ終リタル時再ヒ之ヲ認可官衙ニ返付スルモノトス認可權限アル官衙ハ認可狀ヲ受取リタル時ハ企業人ニ之ヲ渡シ公報ニ於テ公告スルモノトス

第十七條附錄 府縣知事ハ權限アル鐵道官衙ノ同意ヲ得テ小鐵道ノ設計ヲ決定ス

設計ハ一般ニ認可後ニ於テ決定スルモノトス右ニ拘ラス認可ノ交付ヲ豫メ確實ト認メ且ツ企業人ニ於テ反對セサル限リ認可權限アル官衙ハ認可交付前ニ設計ヲ決定シ又ハ設計ノ決定竝ニ認可ヲ同時ニ與フルコトヲ得建設ハ認可狀竝ニ設計決定書ノ交付アリタル時着手スルモノトス

設計ノ豫先決定ニ關スル申請ハ直チニ決定セラルヽ樣理由ヲ附シテ工部大臣ニ提出スルモノトス

第十九條附錄 認可權限アル官衙ハ線路ヲ實査シタル後運轉開始ニ關スル許可ヲ交付ス但シ動力ヲ以テ運轉スヘキ鐵道ハ權限アル官衙ノ同意ヲ得テ府縣知事之ヲ交付ス檢查成績記錄ニ記載スルモノトス

第二十條附錄 機關車ノ運轉開始前ニ行フ檢查竝ニ其ノ後ノ定期檢查ハ副鐵道ニ使用スル機關車ノ檢查ニ關スル規程ニ從テ行フモノトス

千八百九十七年三月十五日ノ汽罐ノ認可及檢查ニ關スル商工部省令ハ小鐵道法第二十條ニ從フ小鐵

道機關車ノ汽罐ノ認可及檢査執行ニ關シ効力ナキモノトス

第二十一條附錄　客車及貨車ノ運轉時刻及運賃ハ認可狀ニ於テ定メタル新聞ヲ以テ公告スルモノトス、右ノ外ニ運轉時刻竝ニ旅客運賃ニ關スル公告ハ旅客停車場待合室等ニ於テ貨物運賃ニ關スル公告ハ貨物運輸ノ爲メニ定メタル建物又ハ場所ニ揭示スルモノトス

第二十二條附錄　小鐵道ニ關スル監督權ハ本小鐵道法第三條附錄末項ニ揭クル場合ノ外技術ニ關セサルモノニ限リ同第二條及第三條ニ從テ認可ヲ交付シタル官衙ニ屬ス企業ノ擴張又ハ變更ニ關スル認可ヲ前ニ認可シタル官衙以外ノ官衙ヨリ交付シタル時ハ該擴張又ハ變更シタル部分ニ對スル監督權ハ企業人ニ交付スヘキ擴張又ハ變更ニ關スル認可ノ効力ト同時ニ發生スルモノトス

動力ヲ以テ運轉スヘキ小鐵道ノ監督權ハ鐵道技術ニ關セサルモノニ限リ認可協議ニ關シ工部大臣ノ指定シタル鐵道官衙ノ同意ヲ得テ認可ヲ交付シタル官衙ニ屬ス、但シ監督ニ關シ他ノ鐵道官衙ヲ指定シタル時ハ此限リニアラス、認可協議ニ與カリタル鐵道ハ狀況ニ從ヒ他ノ鐵道官衙ニ監督權ヲ渡スコトヲ以テ適當ト認ムル場合ハ之ヲ工部大臣ニ提出スルモノトス

動力ヲ以テ運轉スヘキ小鐵道ノ技術上ノ監督ハ府縣知事（警視總監）ノ協議ヲ要セス、鐵道官衙ニ於テ行フ、該監督ハ線路及車輛運轉上ノ保安ニ關スル保護竝ニ列車ノ安全ナル秩序正シキ運轉ニ限リ行フモノトス

副鐵道ニ類似セル小鐵道ノ運轉ハ本施行細則附錄（附錄三）トシテ工部大臣ノ發シタル千八百九十

八年八月十三日ノ運轉規程ニ從テ規定ス、企業人及職員カ該規程ヲ遵奉セサル時ハ監督官衙ハ自己ノ權限ニ屬スル强制方法ヲ以テ之ニ從ハシムルモノトス

市街鐵道ニ關スル運轉規程ハ認可狀ニ示シタル外ニ又制裁ヲ以テ企業人竝ニ運轉手ニ職務ヲ確實ニ行ハシムル爲メ他ノ規定ヲ要スル限リ警察令ニ基テ定ムルモノトス

動力ヲ以テ運轉スヘキ小鐵道ノ運轉ニ關スル警察令及其他ノ警察規程ハ鐵道官衙ノ同意ヲ得テ公布スルモノトス、鐵道官衙ニ於テ同意セサル時ハ工務大臣ノ裁決ヲ要ス府縣知事ニ隷屬セル官衙カ右ノ如キ命令發布ニ關スル權限ヲ有スル時ハ該令發布前ニ上廳ノ同意ヲ確メサルヘカラス又該同意ニ關シテハ鐵道官衙ノ承諾ヲ要ス

必要ナル場合ニ於テ小鐵道所在地ノ警察官衙ハ職權ヲ以テ技能及信用ニ關スル試驗ヲ經タル（小鐵道法第四條第三號）小鐵道ノ外勤業務員ニ在職中鐵道警察事務施行區域ノ警察權ヲ委任スルコトヲ得該權限ハ警察ノ都合ニ依リ何時デモ取消スモノタル條件附ノ辭令ヲ以テ與フルモノトス、但シ該辭令ニ關スル條件、權限ノ範圍竝ニ職務執行ニ關スルモノハ千八百九十二年六月五日ノ獨逸副鐵道ニ關スル軌道條例第四十七條第二項乃至第五項同第四十九條第一項及第二項同第五十條第一項及第五十二條ヲ適用ス

警察官ヲ任命スヘキ鐵道カ多數ノ地方警察管區ニ亘ル場合ニ於テ同鐵道カ同一郡内ノ全線路ヲ管轄スル警察管區ニ建設セラルル時ハ郡長ニ於テ、同一ノ縣ノ異ナリ郡内ノ全線路ヲ管轄スル警察管區

ニ建設セラルル時ハ知事ニ於テ、同一ノ洲ノ異ナリタル縣内ノ全線路ヲ管轄スル警察管區ニ建設セラルル時ハ洲長官ニ於テ異ナリタル洲ノ全線ヲ管轄スル警察管區ニ建設セラルル時ハ中央官衙ニ於テ此等ノ警察官ヲ任命ス鐵道警察官ハ鐵道官衙ノ同意ヲ得テ任命ス

第二十三條及二十四條附錄 監督官衙ハ認可ノ消滅及取消ヲ公報ヲ以テ公告スルモノトス

第二十六條末項附錄 監督官衙ハ同項ニ掲クル期限決定前ニ道路保護義務者ノ外道路警察官衙ニ諮問スルモノトス

第二十七條附錄 建設及運轉中止ノ爲メ認可ヲ取消ス場合ニ於テ罰金刑附課ニ關シ決定ヲ爲ス場合ノ外道路警察管區ニ建設セラルル時ハ監督官衙ハ工務大臣ニ右ニ關スル申請ヲ爲スモノトス、該申請書ニハ適當ナル場合ニ於テハ小鐵道法ニ從テ罰金刑附課ニ關スル建議ヲ附スルモノトス動力ヲ以テ運轉スヘキ鐵道ニ關シテハ府縣知事ハ直チニ決定ノ權限ヲ有スル鐵道官衙ニ報告スルモノトス

第三十條附錄 監督官ナカ第三十條ヲ適用スヘキ理由アリト認メタルトキハ直ニ其旨ヲ工務大臣ニ報告スヘシ

第三十二條附錄 他ノ鐵道網ノ連絡ニ適セサル總テノ旅客運輸用市街鐵道及鐵索鐵道ハ企業人ニ於テ別箇ノ營業計算ヲ爲ス義務ヲ負擔スルモノトス

副鐵道的小鐵道ハ常ニ別個計算ヲ爲スモノトス

第四十五條附錄 認可權限アル官衙ニ於テ線路及車輛カ運轉上危險ノ虞アルヤ否ニ關シテ行フ所ノ試

驗ハ之ニ關スル法律上ノ規定ナキ場合ト雖モ亦專用鐵道ノ認可申請ニ關シ技術上要スル所ノ圖面ヲ要ス故ニ該鐵道ニ關シテモ技術上ノ圖面ニ關スルモノニ限リ本施行法第五條ニ從フコトヲ注意スヘシ但シ經濟上ニ關スル書類ハ之ヲ要セス

第四十七條附錄 認可權限アル官衙ハ第十七條末項ノ條件ノ存在ヲ認ムル時ハ企業人及國有鐵道ノ所有地ニ於テ建設スル總テノ專用鐵道ニ限リ前ニ設計ノ決定ヲ爲ササルモ建設ノ著手ヲ許可スヘキ權限アルモノトス

第五十三條第三項附錄 認可權限アル官衙ハ企業人カ本法ノ規定ニ充分服從スル場合ニ於テハ企業人ノ權利義務ヲ明ニスル爲メ新認可狀ヲ交付スルヲ可トス

第五項ニ規定ノ小鐵道法ニ從フ公告ハ認可權限アル官衙ノ公報ニ掲クルモノトス

第五十五條附錄 本附錄（小鐵道法施行細則）並ニ本則附錄運轉規程（附錄三）ハ千八百九十二年八月二十二日及千八百九十二年十一月十九日ノ施行細則（第八條第一項附錄及第九條附錄）ノ廢止ト同時ニ新認可ノ交付ニ關シ効力アルモノトス、但シ認可濟ミノ小鐵道ニ對シテハ企業人ノ既得ノ權利ヲ害セサル限リ千八百九十九年一月一日ヨリ適用ス

◉小鐵道施行細則附錄

第一章　線路ノ狀態

第一條　軌　條

一　廣軌鐵道ノ軌間ハ一方ノ軌條ノ內側ヨリ他ノ一方ノ軌條ノ內側ニ至ル間隔ヲ測リ直線ニ在リテハ一、四三五「メートル」ト爲シ狹軌鐵道ノ軌間ハ一方ノ軌條ヲ內側ニ至ル間隔ヲ測リ直線ニ在リテハ一、〇〇〇「メートル」又ハ七五〇「ミリメートル」ト爲スヘシ

二　前項ニ從フコト能ハサル場合ハ小鐵道法第九條附錄甲第五號ニ依ルモノトス

第二條　勾　配

線路ノ勾配ハ通例二十五分ノ一ノ割合ヲ超ユヘカラス本鐵道及副鐵道ノ車輛ノ通過スル廣軌齒輪鐵道ハ十分ノ一以上ノ勾配其ノ他ノ總テノ齒輪鐵道ニ在リテハ四分ノ一以上勾配ト爲スヘカラス但シ右以上ノ勾配ト雖試運轉ノ成績ニ準據シテ監督官衙ノ規定スヘキ追加保安規程ヲ條件トシテ許スコトアルヘシ

第三條　曲　線

一　停車場外ニ布設スヘキ曲線ノ半徑ハ廣軌鐵道ニ在リテハ通例一〇〇「メートル」以上軌間一「メートル」ノ狹軌鐵道ニ在リテハ四〇〇「メートル」以上軌間六〇〇「ミリメートル」ノ狹軌鐵道ニ在リテハ五〇「メートル」以上軌間七五〇「ミリメートル」ノ狹軌鐵道ニ在リテハ

四〇〇「メートル」以上軌間六〇〇「ミリメートル」ヲ狹軌鐵道ニ在リテハ三〇「メートル」以上ト爲スヘシ

二　曲線ノ半徑ハ機關車及車輛カ規定ノ曲線ヲ支障ナク通過スル如ク建造セラレサル限リ軌間ニ在リテハ三五「ミリメートル」ヲ超ユヘカラス

第四條　軌間ノ擴張

一　廣軌鐵道ノ軌間ノ擴張ハ曲線ニ在リテハ三五「ミリメートル」ヲ超ユヘカラス

二　車輛カ特ニ軌間ノ大ナル擴張ニ應スル如ク建造セラレサル限リ軌間一「メートル」ノ狹軌鐵道ニ在リテハ軌間ノ擴張ハ二五「ミリメートル」ヲ軌間七五〇「ミリメートル」ノ狹軌鐵道ニ在リテハ二〇「ミリメートル」ヲ軌間六〇〇「ミリメートル」ノ狹軌鐵道ニ在リテハ一八「ミリメートル」ヲ超ユヘカラス

第五條　線路ノ運轉狀態

一　線路ハ第二十四條ノ最大速度ヲ以テ危險ナク列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス但シ修繕又ハ改良工事施行ノ場合ハ此限リニアラス

二　列車ガ隨時規定ノ運轉速度ヲ減セサルヘカラサル線區ハ徐行信號ヲ現示スヘシ列車ノ通過スルコトヲ得サル線路ハ列車ヲ期待セサル場合ト雖常時信號ヲ以テ閉塞スヘシ

第六條　建築定規及車輛定規

一　廣軌鐵道ノ建築定規ハ獨逸國副鐵道軌道條例ノ規定ニ從ヒ同例附錄(A)ニ揭クル輪廓線ヲ有スルコトヲ要ス車輛定規ニモ同規定ヲ適用ス

二　格段ナル車臺ヲ以テ廣軌鐵道ノ貨車ヲ運轉スヘキ狹軌鐵道ノ建築定規ハ車臺ニ轉載セル廣軌鐵道用車輛ノ車輪ノ最低部ヨリ測リテ高サ及幅ニ於テ前一項ノ規定ニ從フヘシ但シ運轉スヘキ車輛ノ高サ及幅竝ニ該車輛ニ積載スヘキ貨物ノ種類ニ從テ建築定規ノ高サ及幅ハ之ヲ制限スルコトヲ得

三　廣軌鐵道ノ車臺ヲ移シ入ルヽコトヲ得サル狹軌鐵道ノ建築定規ハ常時使用スヘキ車輛ニ從テ測定シ獨逸國副鐵道軌道條例附錄(B)ニ揭クル寸法ヲ以テ最小尺度トス

第七條　線路ノ柵垣

線路ノ柵垣竝ニ踏切及道路ニ於ケル保安裝置ハ格段ナル土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ之ヲ設クルモノトス

第八條　區劃標、勾配標、目標

一　線路ハ總基米突ノ距離ヲ示ス所ノ區劃標ヲ備フルコトヲ要ス

二　長サ五百「メートル」以上ニ亘ル百分ノ一以上ノ勾配ニ在リテハ各傾斜變更點ニ於テ勾配標ヲ設クヘシ

三　左ノ曲線ハ一時間二十「キロメートル」以上ノ速度ヲ以テ進行スル各線區ニ於テ目標ヲ設クヘシ

一、一、四三五「メートル」ノ軌間ヲ有スル半徑百五十「メートル」以下ノ曲線

一、一、「メートル」ノ軌間ヲ有スル半徑百「メートル」以下ノ曲線

一、七五〇「ミリメートル」ノ軌間ヲ有スル半徑八〇「メートル」以下ノ曲線

一、六〇〇「ミリメートル」ノ軌間ヲ有スル半徑六〇「メートル」以下ノ曲線

四　番人ヲ附セサル水平踏切ニ於テ機關手ニ示スヘキ爲メ目標ヲ設クルヤ否ヤ及ヒ其場所ハ各踏切ニ就テ特ニ定ムヘシ

五　線路ノ交叉點ニ於テハ一方ノ軌道ニ於テ他ノ一方ノ軌道ニ於ケル車輛ノ通過ヲ障碍スルコトナク車輛ノ一部分タリトモ推進スルコトヲ得サル位置ヲ示ス所ノ目標ヲ設クルコトヲ要ス

六　小鐵道相互ノ軌面上ノ交叉點ニ於ケル保安裝置竝ニ之ニ關スル標準ハ各交叉點ニ就テ特ニ定ムヘシ此場合ニ於テ鐵道官衙ハ運轉ノ結果必要ト認メタル變更ヲ行フ權限ヲ有ス

第二章　車輛ノ狀態保護及檢查

第九條　車輛ノ狀態

車輛ハ常ニ第二十四條ノ最大限速度ヲ以テ危險ナク進行スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス

第十條　機關車ノ建造

一　機關車ノ最大限速度ハ其ノ建造式ニ從テ定ムヘシ該速度ハ機關車ニ表記スルコトヲ要ス

二　各汽罐ニハ安全瓣ノ負擔力竝ニ彈機附檢秤及檢壓器ノ正否ヲ試驗スヘキ爲メ檢定用檢壓器ノ取付ニ備フルコトヲ要ス

三　各機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

(イ)汽罐ニハ少クモ各獨立ニ其ノ用ヲ爲シ得ヘキ二個ノ給水器ヲ備フルコト但シ各給水器ハ列車ノ進行中必要ナル給水ヲ供給シ能フコトヲ要スルモノトス

(ロ)汽罐內部ノ水平ヲ正確ニ認知スルコトヲ得ヘキ爲メ少クモ二箇ノ各獨立ノ量水器ヲ備フルコト但シ其一個ハ格段ナル試驗ヲ要セスシテ機關手ノ位置ヨリ水平ヲ直チニ認メ得ヘキモノニシテ且ツ其ノ汽罐ノ最低水位ヲ表示スルモノタルコトヲ要ス

(ハ)少クモ二個ノ安全瓣ヲ備ヘ且ツ一個ノ安全瓣ノ負擔力ハ一定ノ度ヲ超過シ得サル樣裝置スルモノタルコトヲ要ス

安全瓣ニハ三「ミリメートル」ノ垂直運動ヲ爲スノ裝置ヲ要ス

(ニ)汽壓ヲ正確ニ且ツ格段ナル試驗ヲ要セスシテ直ニ認メ得ヘキ驗壓器ヲ備フルコト但シ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコトヲ要ス

(ホ)汽笛及音響裝置ヲ備フルコト

ヘシ

第十一條　機關車ノ檢查

一　新機關車又ハ新汽罐ヲ備フル機關車ハ規定ノ檢查ヲ執行シ安全ト認メタル後之ヲ使用スルコトヲ得最高實用汽壓竝ニ機關車及汽罐ノ製造所名製造番號製造ノ年ハ易ク認メラレ得ル樣機關車ニ表記スルコトヲ要ス

二　機關車ハ少クモ三ケ年毎ニ一回又ハ三ケ年以內ト雖汽罐ニ大ナル修繕ヲ施シタル際ニハ其各部ヲ檢查シ同時ニ汽罐ノ汽壓ヲ試驗スヘシ該期間ハ檢查執行後使用開始ノ日ヨリ次ノ檢查執行ノ爲メ機關車ノ使用停止迄ノ日ヲ計算スルモノトス

三　汽罐ノ水壓試驗ニハ彼蓋ヲ取除キテ水ヲ充タシ水壓「ポンプ」ヲ以テ試驗スヘシ其ノ試驗壓力ハ汽罐ノ最高壓力ニ五ノ汽壓ヲ增シタルモノタルヘシ

四　前項ノ試驗ニ際シ汽罐カ其ノ原形ヲ變シ復舊セサルトキハ其儘使用スルコトヲ得ス

五　汽罐ノ試驗ニ際シテハ同時ニ驗壓器ノ正否竝ニ機關車安全瓣ノ負擔力ヲ試驗スヘシ

六　汽壓ハ試驗用驗壓器ヲ以テ測ルヘシ但シ該驗壓器ハ適當ナル期間ニ於テ其正否ヲ試驗スルコトヲ要ス

七　汽罐ハ使用後少クモ八ケ年以內ニ一回煙管ヲ撤去シ其ノ內部ヲ檢查スヘシ該檢查ハ爾後少クモ六ケ年毎ニ執行スヘシ

八　汽罐ノ試驗機關車各部ノ檢查成績ハ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第十二條　線路除碍器、灰箱火粉止

一　機關車ノ前方及後方ニ於テハ線路除碍器ヲ備フルコトヲ要ス齒車機關車ハ右ノ外ニ齒車ノ前方ニ於テモ之ヲ備フヘシ適當ナル場合ニ於テハ線路除碍器ニ代ヘテ掩蓋箱ヲ備フヘシ

二　機關車ハ閉鎖器附灰箱竝ニ灰箱及煙筒ヨリ火粉ノ放出ヲ防ク設備ヲナスヘシ

第十三條　機關車ノ制動機

機關車ニハ通例備附ケノ制動機以外ニ容易ニ且ツ迅速ニ使用セラル、輕便制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條　發條及緩衝器

總テノ車輛ニハ發條竝ニ前後ノ兩部ニ於テ發條附緩衝器ヲ備フヘシ但シ工事用列車竝ニ純貨物運輸列車トシテ二十「キロメートル」以下ノ速度ヲ以テ進行スル列車ハ此限リニ非ス

第十五條　輪緣

總テノ車輪ハ三車軸ノ機關車及車輛ノ中央車軸ノ車輪ヲ除キ輪緣ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條　輪鐵ノ幅

一　廣軌鐵道ニ在リテハ機關車ノ輪鐵ノ幅ハ勘クモ二〇「ミリメートル」爲スヘシ車輛ノ輪鐵ノ幅ハ一六「ミリメートル」以下ト爲スコトヲ得

二　狹軌鐵道ニ在リテハ機關車ノ輪鐵ノ幅ハ勘クモ一二「ミリメートル」ト爲シ車輛ノ輪鐵ノ幅ハ少クモ一〇「ミリメートル」ト爲スヘシ

第十七條　車輛ノ檢查

一　車輛ハ法律第四條第一項ニ依リテ認可シタル圖面ニ相當スルモノニ限リ使用スルコトヲ得

企業人ハ車軸聯結具及彈機ヲ取除シ時々車輛各部ノ檢查ヲ執行スヘシ該檢查ハ勘クモ使用開始後又

ハ最終檢查後二ケ年毎ニ執行スヘシ

第十八條　車輛ノ標記

各車輛ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

(イ)車輛ノ屬スル小鐵道ノ記號

(ロ)車軸及車輪ヲ除キタル自己ノ重量

(ハ)貨車及手荷物車ニハ積載重量及自己重量

(ニ)最終檢查ノ年月

第三章　運轉ニ關スル設備及規則

第十九條　線路ノ監視

一　線路ハ列車ノ速度カ一時間ニ二〇「キロメートル」以上ノモノニ限リ毎日勘クモ一回其狀態ヲ檢查シ列車ノ速度カ一時間二〇「キロメートル」以下ノモノハ少クモ三日間ニ一回檢查スヘン但シ齒棒線路ノ檢查ニ關シテハ鐵道技術監督官衙ニ於テ之ヲ定ム

二　列車又ハ機關車カ水平踏切ニ進近スル際ニハ機關手ハ目標ヲ設ケタル場所ヨリ又ハ目標ノ設ナキ場合ト雖該踏切ニ達スル迄適當ナル距離ニ於テ汽笛ヲ鳴ラシ又ハ其他ノ警報ヲ爲スヘシ線路又ハ線路ノ危險界ニ於テ人又ハ車ヲ認ムル時モ前同樣ノ警戒ヲ爲スヘシ水平踏切通過前ニ列車ノ徐行又ハ停止ニ關シテハ認可權限ヲ有スル官衙ノ同意ヲ得テ鐵道技術監督官衙之ヲ定ム

三　轉轍器ハ之ヲ鎖錠シ置クトキハ其運用及燈火ニ關シ常ニ注意スヘシ

第二十條　列車ノ軸數

一　列車ノ軸數ハ廣軌鐵道ニハ八十車軸、軌間一「メートル」ノ狹軌鐵道ニハ五十車軸ヲ超エルコトヲ得ス

二　歯車鐵道ニハ列車ノ運轉ニ一機關車ヲ使用スルコトヲ得之ニ反シ普通鐵道ニハ列車ノ前部機關車及前部補助機關車ノ外ニ尙ホ列車ノ後部ニ一機關車ヲ使用スルコトヲ得但シ右ハ旋客列車ヲ停車場内ニ入ルヽトキ竝ニ貨物列車ニ限リ使用スルモノトス

第二十一條　列車ノ制動機數

各列車ニハ機關車ノ制動機ヘ外ニ尙ホ左表ニ掲クル區別ニ依リ該列車ガ有スル車輛ノ數ニ比例シタル制動機ヲ備フヘシ

線路ノ勾配		平坦	一分ノ二百分ノ二百三十三	一分ノ二百分ノ一百三十三	一分ノ八十分ノ六十六分五十七分五十分ノ一	一分ノ四十四分四十分ノ三十三分二十八分三十五分ノ一
百輛ニ對シ制動機ヲ附スヘキ軸數	列車ノ平均速度一時間一五「キロメートル」	六	六	六	八	一〇
	同上一時間二〇「キロメートル」	六	六	七	一〇	一三
	同上一時間三〇「キロメートル」	六	九	一二	一五	一八
	同上一時間四〇「キロメートル」	六	一二	一五	一八	二一
	同上一時間五〇「キロメートル」	六	一五	一八	二一	二四
	同上一時間六〇「キロメートル」	六	一八	二一	二四	二七
	同上一時間七〇「キロメートル」	六	二一	二四	二七	三一
	同上一時間八〇「キロメートル」	六	二四	二七	三一	三四
	同上一時間九〇「キロメートル」	六	二七	三一	三四	三七
	同上一時間一〇〇「キロメートル」	六	三〇	三四	三七	四三
	同上一時間一一〇「キロメートル」	六	三三	三七	四〇	四九
	同上一時間一二〇「キロメートル」	六	三六	四〇	四五	五六

前表ニ依リ制動機ヲ附スヘキ車軸數ヲ算出スルニ方リ左ノ事項ニ注意スヘシ

(イ)表中ニ掲クル速度及勾配ノ中間ニ位スルモノハ制動機數ノ最モ大ナルモノヲ取ルヘシ

(ロ)制動機ヲ附スヘキ車軸ノ數ハ一區間ニ於テ最急勾配(上リ又ハ下リ)一〇〇〇「メートル」又ハ其レ以上續クトキハ其ノ勾配ヲ以テ標準トナスヘシ最急勾配カ何レノ個所ニ於テモ其ノ長サ一〇〇〇「メートル」ニ達セサルトキハ一〇〇〇「メートル」ノ距離ニ於テ最大高低ヲ示ス二點ヲ直線ヲ以テ連接シ其ノ勾配ヲ以テ標準ト爲スヘシ

(ハ)列車ノ運轉速度ハ最急上リ勾配ノ線區ニ於ケル列車ノ速度ヲ以テ標準トスヘシ

(ニ)車軸ノ計算竝ニ制動機ヲ附スヘキ車軸ヲ決定スルニ方リ貨車ノ空虛ナルモノニ在リテハ其ノ一軸ヲ以テ半軸ニ換算シ客車、郵便車及小手荷物車ノ車軸ニアリテハ其ノ實數ヲ算入スヘシ

(ホ)計算上制動機ヲ附スヘキ軸數ニ二分ノ一以上ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一位ニ切上ケ之レ以下ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨ツヘシ

三　二十五分ノ一以上ノ急勾配ヲ有スル線路ニ於テ運轉スル列車ノ制動機ノ數ハ鐵道技術監督官衙ニ於テ特ニ定ムル規程ニ依ルヘシ長キ線路ヲ補助機關車ヲ以テ運轉スル列車及車輛竝ニ特別建設式ニ依ル「アプト」式及其他ノ線路ニ要スル制動機ノ數モ右ノ規程ニ依ルヘシ

四　驛員竝ニ列車掛ニハ列車カ最大速度ヲ以テ進行スルニ方リ各線區ニ於テ第何番目ノ車軸ヲ制輪スルヤニ關シ通知スルコトヲ要ス

第二十二條　列車ノ組成

列車ヲ組成スル二方リテハ車輛ヲ適當ニ聯結シ貨物ハ各車ニ成ルヘク平等ニ分載シ必要ナル信號裝置ヲ爲シ制動機ハ成ルヘク平等ニ列車ニ設クルコトニ注意スヘシ

第二十三條　車輛ノ點燈

客車内ハ進行中夜間ハ適當ナル點燈ヲ設クヘシ

第二十四條　最大限運轉速度

一　列車及各機關車ノ最大運轉速度ハ軌間一、四三五「メートル」ノ線路ニ在リテハ一時間三〇「キロメートル」ヲ同二「メートル」ヲ同一「メートル」ノ線路ニ在リテハ一時間二五「キロメートル」同六〇〇「ミリメートル」ノ線路ニ在リテハ一時間二〇「キロメートル」ヲ「アブト」式線路ニ在リテハ一時間一五「キロメートル」ヲ超過スルコトヲ得ス

二　前一項以上ノ運轉速度ハ運輸上必要ナル場合ニ限リ工部大臣ニ於テ許可スルコトヲ得右ノ場合ニ於テ保安裝置ノ補充ハ工部大臣ノ決定ニ從フモノトス

第二十五條　列車ノ徐行

一　列車ノ運轉速度ハ途中徐行現示又ハ線路ニ於テ障礙物ヲ認メタルトキハ適宜之ヲ減スヘシ

二　回轉橋ノ有ル線路又ハ急曲線急勾配ノ爲メ又ハ其他ノ理由ニ依リ常ニ格段ナル注意ヲ以テ進行スルコトヲ要スル線路ニ於テ各種列車ノ最大限速度ハ鐵道技術監督官衙ニ於テ定ムルモノトス

第二十六條

一　列車ハ權限ヲ有スル職員ニ於テ發車ヲ許サヽル前停車場ヲ發車スルコトヲ得ス

二　列車カ一時間一五「キロメートル」以上ノ速度ヲ以テ同一ノ方向ニ發車シタル他ノ列車ニ先シテ發車シクルトキハ後發列車ハ尠クモ一時間五「キロメートル」ノ速度ヲ減スルニ非ラサレハ續テ進行スルコトヲ得ス通望スル線路又ハ急勾配ノ線路竝ニ天候不良ノ場合ニ於ケル列車ノ速度ハ鐵道技術監督官衙ニ於テ制限スルコトヲ得

第二十七條　臨時列車

關係停車場竝ニ線路番人ニ前以テ通知セサル臨時列車及各機關車ハ一時間一〇「キロメートル」以上ノ速度ヲ以テ進行スルコトヲ得ス

第二十八條　列車ノ推進

前部ニ機關車ヲ聯結セサル停車外ノ線路ニ於ケル列車ノ推進ハ同列車ノ聯結數カ四十車軸以下ニシテ且ツ一時間ノ速度一五「キロメートル」ヲ超過セサルヤ普通鐵道ニ限リ許スヘキモノトス右ノ場合ニ於テハ番人ヲ置カサル踏切ノ前方ニ於テ又ハ其他必要ナル場合ニ於テ鐘、喇叭等ヲ以テ警報ヲナスヘキ適當ナル職員ヲ前部ノ車ニ乘込マシムヘシ但シ歯車鐵道ニ於ケル列車ノ推進ニ關スル規程ハ鐵道技術監督官衙ニ於テ制定スルモノトス

第二十九條　車掌

車掌ハ列車進行中ニ限リ乘務職員ニ服從スルコトヲ要ス

第三十條　停止機關車及車輛

一　機關車ヵ發車準備ヲ爲シ停止スル間ハ絕ヘス看守スヘシ

二　充分ナル看守ナク軌道ニ停止スル所ノ車輛竝ニ夜間軌道ニ停止スル車輛ハ適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第三十一條　機關車ニ於ケル同行

業務上機關車ニ乘込ムヘキ權限ヲ有ス職員ノ外ハ何人ト雖該職員ノ許可ナク機關車ニ乘込ミ同行スルコトヲ得ス

第三十二條　信號笛等ノ使用

一　汽笛又ハ壓搾空氣笛ハ第三十八條ニ揭クル信號竝ニ非常ノ場合ニ限リ使用スヘシ

二　列車ヵ公ノ道路ニ接近シテ通過スルトキハ殊ニ機關車ノ音響裝置又ハ其他ノ警報裝置ヲ使用スヘシ但シ此場合ニ於テ機關車ノ汽笛弁ハ開クヘカラサルモノトス

第三十三條　機關車ノ運轉

一　機關車ノ運轉ハ規定ノ試驗ヲ經テ必要ナル技術的能力竝ニ信用アルコトヲ證スル者ニ限リ之ニ任スルコトヲ得

第三十四條　臨時機關車

鐵道技術監督官衙ハ各企業人ノ爲メ蒸汽力ヲ以テ運轉スヘキ機關車トシテ他ノ機關車ヵ使用セラルル限リ同機關車ノ狀態、維持、檢查及取扱方ニ關シ必要ナル保安規程ヲ制定スヘシ

第四章　信號

第三十五條　停車場間ノ信號

鐵道技術監督官衙ハ定時運轉ニ於テ二箇又ハ二箇以上ノ列車ヵ同時ニ相對向シテ進行スルカ又ハ此等ノ列車ヵ格段ナル注意ヲ要スル限リ運轉保安ノ爲メ停車場間ニ信號ノ設備ヲ要求スルコトヲ得

第三十六條　線路信號

線路ニ於テハ列車ノ徐行及停止信號裝置ヲ爲スヘシ

第三十七條　列車信號

閉塞シテ進行スル各列車ハ晝間ハ閉塞夜間ハ列車ノ前部及閉塞ヲ現示スル信號裝置ヲ爲スヘシ單行機關車ニ在リテモ右同樣ノ裝置ヲ爲スヘシ

第三十八條　機關手ノ信號

機關手ハ左ノ信號ヲ爲スヘシ

注意

制動機ノ緊締

制動機ノ緩解

第三十九條　着色信號

着色信號ヲ使用スル限リ白色、綠色、及紅色ヲ使用スヘシ但シ紅色ハ停止信號トシテ使用スヘシ

第五章　運轉

第四十條　運轉線路及運轉ニ任セラレタル者ノ氏名ハ鐵道技術監督官衙竝ニ認可權限ヲ有スル府縣知事（伯林ニ在リテハ警視總監）ニ届出ツヘシ

第四十一條　業務上ノ命令及監督

一　外勤業務員ニ對シテハ各業務員ノ業務處理竝ニ各業務員相互ノ關係ニ關シ筆書シタル又ハ印刷シタル命令書ヲ與フヘシ該命令書ハ鐵道技術監督官衙ニ提出スルコトヲ要ス鐵道技術監督官衙ハ小鐵道ノ運轉ノ保安ヲ維持スルニ足ラサルモノト認ムルトキハ之ニ反對スルコトヲ得又同官衙ハ外勤業務員ノ試驗竝技術上ノ能力ヲ備ヘサルモノト認ムル該業務員ノ免職ヲ要求スル權限ヲ有ス

二　鐵道技術監督官衙ノ權限ハ鐵道業務條件書ニ掲クヘシ

三　鐵道官衙ハ業務員ノ免職ニ關スル決定又ハ企業ヲ變更セサルニ拘ラス現行命令ノ著大ナル變更ニ關スル決定ハ豫メ府縣知事（伯林ニ在リテハ警視總監）ノ同意ヲ得テ與フルカ又ハ至急ヲ要スル塲合ニ於テハ決定後同官衙ノ同意ヲ求ムルモノトス

第六章　附則

第四十二條

一　該運轉規程ハ獨逸帝國及普魯西ニ於テ發行ノ新聞內務省公報鐵道法令雜誌小鐵道新聞及普魯西官報ヲ以テ公布スルモノトス

二　該運轉規程ハ同規程施行前ニ認可シタル小鐵道ニ對シテハ企業人ニ認可シタル權利ヲ害セサル限リ適用ス其他鐵道技術監督官衙ハ該小鐵道カ本規程ニ依ルコトヲ得サル塲合ニ之カ許可ニ關スル權限ヲ有ス

三　該運轉規程ヲ以テ豫メ認可スルコトヲ規定シタル且ツ認可權限ヲ有スル官衙又ハ鐵道技術監督官衙ニ於テ決定スヘキ其他ノ例外ハ該規程ニ依リテ運轉スル小鐵道ニ對シテハ運轉上ノ必要アル塲合ニ限リ工部大臣ニ於テ許可スルコトヲ得

一千八百九十八年八月十三日

伯林ニ於テ

工部大臣

機關力ヲ備フル輕便鐵道作業規程

千八百九十八年八月十三日公布

第一　線路ノ狀態

第一條　軌道（グライゼー）

(一) 廣軌鐵道ノ軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ヨリ軌條頭マテ一、四三五「メーテル」トシ又狹軌鐵道ニ在テハ一「メーテル」若ハ七五〇「ミリメーテル」又ハ六〇〇「ミリメーテル」トス

(二) 例外ハ輕便鐵道及專用連絡鐵道規則第九條ニ對スル施行規程ノ甲ニ之ヲ定ム

第二條　勾配（ナイグンク）

勾配ハ普通線路ニ在テハ千分ノ四十（一ニ對スル二十五）ヲ超ヘサルモノトス○本鐵道及副鐵道（ハウプトバーン　ネーベンバーン）ノ車輛ノ通過スル廣軌齒輪式線路ニ在テハ千分ノ百（一ニ對スル十）其他ノ總テノ齒輪式線路ニ在テハ千分ノ二百五十ヲ超ヘサルモノトス○但シ尚ホ強度ノ勾配ヲ許スコトアリ此場合ニ於テ試運轉結果ニ依リ監督官廳ノ制定シタル保安規定ノ條件ニ依ルヘキモノトス

第三條　曲線（クリユンメルング）

(一) 停車場外ノ線路ニ於ケル曲線ノ半徑ハ通例廣軌道ニ在テハ一〇〇「メーテル」ヨリ小ナルヘカラス又狹軌道ニ在テハ左ノ如シ

軌間幅員一「メーテル」ナルトキハ五〇「メーテル」ヨリ小ナルヘカラス

軌間幅員七五〇「ミリメーテル」ナルトキハ四〇「メーテル」ヨリ小ナルヘカラス

軌間幅員六〇〇「ミリメーテル」ナルトキハ三〇「メーテル」ヨリ小ナルヘカラス

(二) 尚ホ小半徑ヲ許スコトアリ但シ機關及車輛ニシテ許サレタル半徑ノ曲線ヲ支障ナク通過シ得ル如ク建設シ得ル場合ニ限ル

第四條　軌間ノ擴度（スプールエルワイテンク）

(一) 廣軌鐵道ニ於ケル軌間ノ擴度ハ曲線ノ個所ニ在テハ三五「ミリメーテル」ノ寸法ヲ超ユヘカラス

(二) 狹軌鐵道ニ於ケル軌間ノ擴度ハ左ノ如シ

軌間幅員一「メーテル」ナルトキハ二五「ミリメーテル」ノ寸法ヲ超ユヘカラス

軌間幅員七五〇「ミリメーテル」ナルトキハ二〇「ミリメーテル」ノ寸法ヲ超ユヘカラス

軌間幅員六〇〇「ミリメーテル」ナルトキハ一八「ミリメーテル」ノ寸法ヲ超ユヘカラス

但シ車輛カ特ニ尚ホ大ナル軌間ノ擴度ニ對スルモノトシテ建造シアラサルトキニ限ル

第五條　線路ノ運轉シ得ヘキ狀態

(一) 線路ハ絕ヘス各區間カ別ニ修繕ヲ加ヘサルモ規定ノ最大速度（第二十四條）ヲ以テ危險ナク運轉シ得ラルヘキ如ク建設上ノ狀態ヲ保持スヘキモノトス

(二) 規定ノ速度ヲ時々低減スヘキ區間ハ信號ヲ以テ示シ又列車ノ通行ヲ許サヽル不通區間ハ信號ヲ以

テ閉鎖スヘキモノトス

第六條　建築定規及車輛定規

(一) 廣軌鐵道ニ於ケル建築定規ハ獨逸副鐵道ニ對スル軌道條例ノ規定ト相俟テ附錄甲號ニ揭ケタル雛形ニ依ルヘキモノトス○該規定ハ車輛定規ニ適用ス

(二) 狹軌鐵道ニシテ其線路ヲ廣軌鐵道ノ貨車カ特別ノ車器(車臺車(ロルシユーメル))ニ依リ運搬セラルヘキモノニ在テハ前項ノ建築定規ハ車臺車ニ搭載セル廣軌鐵道車輛ノ輪緣ノ下端ヨリノ高サ及幅サノ寸法ヲ保ツヘキモノトス○此場合ニ在テハ運搬セラルヘキ車輛ノ高サ及幅サヲ縮少スルコトヲ得

(三) 狹軌鐵道ニシテ其線路ニ廣軌鐵道ノ車輛ノ轉入セサルヘキモノニ在テハ建築定規ハ使用スヘキ車輛ニ從ヒ各場合ニ就キ測定スヘキモノトス○附錄乙號ニ揭ケタル寸法ハ最小限寸法トス此寸法ヲ使用スル場合ニ於テハ車輛ノ固著セル部分ハ定規ニ達スルコトヲ得但シ軌條ノ上端上一〇〇「ミリメーテル」ヨリ一「メーテル」ノ高サニ於テハ三〇「ミリメーテル」ノ幅員其以上ノ高サニ於テハ總テ一〇〇「ミリメーテル」ノ幅員ノ存スルトキニ限ル

(四) 齒輪運轉ヲ備ヘタル廣軌鐵道ニ在テハ齒形軌條ノ高サハ軌間中心ノ左右二五〇「ミリメーテル」ノ最大幅サノトコロニ於テ軌條ノ上端上一〇〇「ミリメーテル」マテニナスコトヲ得

(五) 狹軌齒輪式鐵道ニ在テハ齒形軌條ノ配置ノ爲メ必要ナル建築定規ノ縮少ヲ各鐵道毎ニ特ニ定ムヘキモノトス

(六) 定規ヲ規正スル場合ニ於テ曲線ノ箇所ハ軌間ノ擴度及外方軌條ノ高度ニ餘裕ヲ取ルコトニ注意スヘシ

(七) 貨物交通ノミニ使用スヘキ鐵道竝停車場ノ貨物側線ニ於テハ建築定規ノ縮少ヲ許スコトヲ得○定規ハ縮少ノ場合ニ於テハ使用スヘキ車輛ノ寸法ニ從ヒ定ムヘキモノトス

(八) 廣軌道ニ在テハ軌條ノ上端ヨリ五〇「ミリメーテル」マテ突出セル不動体ハ線路外ニアリテハ軌條頭ノ內側ヨリ少クモ一五〇「ミリメーテル」隔ツルヲ要ス軌道ニ固着セルトキハ一三五「ミリメーテル」ニ迄減縮スルコトヲ得○軌間內ニ在リテハ軌條頭ノ內側ヨリ少クモ六七「ミリメーテル」ヲ隔ツルヲ要スト雖强制軌條ノ場合ニハ漸次減縮シテ四一「ミリメーテル」ト爲スコトヲ得○曲線ニ於テ軌間ニ擴度ヲ與ヘタルトキハ軌道內ニ突出セル不動体ト軌條頭內側間ノ前記ノ距離ヲ軌間擴度ニ相當セル迄擴ムルコトヲ要ス

第七條　線路ノ圍墻

線路ノ圍墻竝踏切道ノ保安設備ハ殊ニ場所ノ關係上必要ト認ムルトキニ限リ特ニ設クヘキモノトス

第八條　線區標(アブタイルンクスツアイヘン)、勾配標、目標(メルクツアイヘン)

(一) 線路ニハ全部ノ「キロメーテル」距離ヲ示セル線區標ヲ設クルヲ要ス

(二) 長サ五〇〇「メーテル」以上ニ亘レル千分ノ十(一ニ對スル一〇)ノ勾配ニ在テハ傾斜變更ノ地點ニ

勾配標ヲ設クヘキモノトス

(三) 左ニ掲クルモノヨリ小ナル半徑ヲ有スル曲線ニ在テハ一時間二〇「キロメーテル」以上ノ速力ヲ以テ進行スル區間ニ曲線標ヲ設クヘシ

軌間幅員一、四三五「メーテル」ノ場合ニ於テ半徑一五〇「メーテル」

軌間幅員一「メーテル」ノ場合ニ於テ半徑一〇〇「メーテル」

軌間幅員七五〇「ミリメーテル」ノ場合ニ於テ半徑八〇「メーテル」

軌間幅員六〇〇「ミリメーテル」ノ場合ニ於テ六〇「メーテル」

(四) 軌條ノ高サニ同シキ番人ヲ附セサル踏切道ノ前方ニ其區間ヲ進行スル列車ノ運轉手カ踏切道ニ近寄リタルヲ知ルヘキ警標ヲ設クヘキ場所ハ各踏切ニ付キ特ニ定ムヘキモノトス

(五) 輻湊セル軌條ノ間ニハ或ル一方ノ線路ニアル車輛カ其一部分タリトモ他方ノ線路上ニアル車輛ノ通過ヲ妨クルニアラサレハ進ムコト能ハサル地點ヲ示ストコロノ目標(車輛ノ停止區域ヲ示ス警標)ヲ設クルヲ要ス

(六) 輕便鐵道ノ軌條ノ高ニ於テ相互交叉セル場合ニ於ケル保安設備及方法ハ各交叉ニ就キ特ニ之ヲ規定スヘキモノトス○此場合ニ於テ鐵道技術監督官廳ハ作業ノ結果ニ依リ必要ト認ムル變更ヲ命スルノ權ヲ留保スヘキモノトス

第二　車輛ノ狀態、保存及檢査

第九條　車輛ノ狀態

車輛ハ絕ヘス制規ノ最大速度ヲ以テ危險ナク運轉シ得ル如キ狀態ヲ備フルヲ要ス

第十條　機關ノ構造

(一) 各機關ニ對シテハ其構造ノ種類ニ從ヒ保安上決シテ超過スヘカラサル運轉速度ヲ規定スヘキモノトス○此速度ハ機關ニ揭示スルヲ要ス

(二) 各蒸氣汽罐ニハ安全瓣ノ負擔力竝彈力衡器(フェーデルワーゲン)及檢壓器(マノメーテル)ノ正確ヲ試驗スル試驗檢壓器ノ取附ヲナシ得ル如ク構造シアルヲ要ス

(三) 各機關車(ロコモチーフ)ハ左ノ如キ橫造ヲ備フルヲ要ス

(イ) 汽罐ヲ養フ爲メ少クトモ二個ノ各獨立シテ働クヘキ確實ノ裝置(フオールリヒトング)ヲ備ヘ且ツ各此裝置ハ運轉中汽罐ヲ養フ爲ニ水ヲ送ルヘキ狀態ニアルヲ要ス○此裝置ノ一ツハ機關車停止ノ場合ニ於テ汽罐ニ水ヲ送ルニ適當ナルコト

(ロ) 汽罐ノ內部ニ於ケル水量ノ高サヲ確實ニ知ル爲メ少クトモ二個ノ各獨立セル裝置ヲ備フルヲ要ス○此裝置ノ一ハ運轉手ノ席ヨリ絕ヘス直ニ知ルヲ得ル如クシ且ツ制規ノ最低水量ヲ見ルヘキ記號ヲ附スヘキコト

(ハ) 少クトモ二個ノ安全瓣ヲ備フルコト但シ其一ノ負擔力ハ一定ノ量ヲ超ユルコト能ハサル如ク構造シアルヲ要ス○安全瓣ハ蒸汽ニ依リ拋棄セラレサル如ク構造スヘキモノトス○安全瓣ノ構造ハ

三「ミリメーテル」ノ垂直運動ヲ許ササルヘカラス

(ニ) 蒸汽ノ壓力ヲ確實ニ且ツ特ニ試驗ノ手數ヲ要セス絕ヘス知ラシムヘキ一個ノ裝置(檢壓器)ヲ備フルコト○驗壓器ノ數字表ニハ制規ノ最高汽壓ヲ記號ヲ以テ示スヲ要ス

(ホ) 汽笛及響音器ヲ備フヘキコト

第十一條　蒸汽機關車ノ受領試驗及再檢查

(一) 新ナル機關車若ハ新ナル汽罐ヲ備ヘ附タル機關車ハ制規ノ試驗ヲ行ヒ安全ナルコトヲ認メタルニアラサレハ運轉スルコトヲ得ス○試驗ノ際許スヘキモノト認メタル最大汽壓、機關車及汽罐製造人ノ名、製造番號竝製造年ハ容易ニ認メ得ル如ク永久ニ堪ユヘキ方法ヲ以テ機關車ニ表示セサルヘカラス

(二) 汽罐ノ大修繕ヲ加ヘタル時又ハ然ラサルモ少クトモ三ケ年ノ期間ニ於テ機關車ノ各部ヲ詳細ニ檢查シ併セテ汽罐ノ壓力試驗ヲ行フモノトス○此期間ハ最近檢查後運轉ニ使用シタル日ヨリ次ノ檢查ノ爲メ運轉ヲ止メタル日マテヲ計算スヘキモノトス

(三) 壓力試驗ノ際ハ汽罐ヲ火爐(マンテル)ヨリ取外ツシ水ヲ充タシ壓迫ポンプニ依リ試驗スヘキモノトス○試驗壓力ハ制規ノ最高汽罐ヲ五「アトモスフエーレー」超過セサルヘカラス

(四) 此試驗ノ際形狀ヲ變テ變スルトコロノ汽罐ハ其儘ニテハ再ヒ使用スルコトヲ許サス

(五) 汽罐試驗ノ際ハ同時ニ機關車ノ檢壓器及安全瓣負擔力ノ正確ナルヤ否ヤヲ試驗スヘシ

(六) 使用シタル試驗壓力ハ試驗壓器ヲ以テ測ルヘキモノトス

(七) 長クトモ機關車汽罐ノ初メノ使用後八ケ年ニハ○又其後ハ遲クトモ六ケ年毎ニ檢查ヲナスヘキモノトス

(八) 汽罐試驗及其他機關車試驗ノ成績ニ關シテハ帳簿ニ記載スヘキモノトス

第十二條　排障器(パーシロイメル)、灰(アッシュカステー)櫃、火煙止

(一) 機關ノ前部及後部ニハ排障器(パーシロイメル)ヲ備ヘサルヘカラス○齒輪式機關ハ其他齒輪ノ前ニ排障器(パーシロイメル)ヲ備フルヲ要ス○適當ノ場合ニ於テハ阻遏弁(シュツツカステー)ヲ排障器(パーシロイメル)トシテ取附クヘキモノトス

(二) 蒸汽機關車ニハ密閉スヘキ灰櫃竝灰櫃及煙突ヨリ石炭燃屑ノ出ツルヲ妨クヘキ裝置ヲ備ヘサルヘカラス

第十三條　機關ノ制動機

機關ハ制動製置ノ設ケアリトモ尙ホ容易ニ且迅速ニ取扱ヒ得ルヲ手用制動機ヲ備ヘサルヘカラス

第十四條　彈機、牽引裝置、推衝裝置

作業列車及二〇「キロメーテル」以上ノ速度ヲ以テ運轉セサル貨物列車ヲ除クノ外總テノ車輛ハ擔彈機竝前后ノ下床ニハ牽引裝置及推衝裝置ヲ備フヘシ

第十五條　輪緣(スプールクランツ)

總テノ車輪ハ輪緣ヲ備ヘサルヘカラス但シ三軸機關及三軸車輛ノ中軸ハ車輪ハ此限ニアラス

第十六條　輪鐵（ラートライフ）ノ幅（ステルゲー）

(一)　廣軌鐵道ニ在テハ機關ノ輪鐵ノ厚サニ少クトモ二〇「ミリメーテル」トシ車輛ノ輪鐵ノ原サハ一六「ミリメーテル」マテ磨損使用ヲ許スモノトス○輪鐵ノ厚サハ軸ノ中心ヨリ七五〇「ミリメーテル」ヲ隔ツヘキ踏輪（ラウフクライス）ノ垂直面ニ於テ計ルヘキモノトス

(二)　狹軌鐵道ニ在テハ機關ノ輪鐵ノ厚サハ少クトモ一二「ミリメーテル」又車輛ハ少クトモ一〇「ミリメーテル」ヲ有セサルヘカラス

第十七條　車輛ノ檢査

(一)　輕便鐵道規則第四條(一)ノ規定ニ從ヒ認可シタル設計ニ相當スル車輛ノミヲ使用スヘキモノトス

(二)　各車輛ハ檢査官ニ依リ時々車軸、車軸室及機ヲ取外ツシテ檢査セラルヘキモノトス○此檢査ハ遲クトモ使用開始後若ハ最近檢査後三ケ年ニナスヘキモノトス

第十八條　車輛ノ名稱

各車輛ニハ左ノ記號ヲ備フヘキモノトス

(イ)　車輛所屬ノ輕便鐵道

(ロ)　車輛及車輪ヲ込メタル車輛自体ノ重量但シ裝備品ヲ除ク

(ハ)　貨車及手荷物車ニ在テハ積載重量及載擔力

(ニ)　最近檢査ノ時期

第三　作業管理ニ對スル設備及方法

第十九條　線路ノ監視

(一)　線路ハ一時間二〇「キロメーテル」ノ速度ヲ以テ運轉スルトキハ少ナクトモ毎日一回制規ノ狀態ニアルヤ否ヤヲ檢査スヘシ又其以下ノ速度ナルトキハ少ナクトモ毎三日目ニ一回檢査セサルヘカラス○齒形軌條線區ニ於ケル檢査ハ監督官廳之ヲ定ム

(二)　軌條ノ高サニアル番人ヲ附セサル踏切道ニ列車若ハ機關ノ近接スル塲合ニ於テ運轉手ハ警標設置ノ塲所又警標ノ設ケアラサルトキハ適當ノ距離ヨリ踏切ニ達スルマテ響音ヲ爲シ若ハ他ノ警戒合圖ヲナスヘキモノトス○人若ハ車器ヲ線路若ハ線路ノ危險界内ニ認メタルトキト雖亦同樣ニナスヘキモノトス○踏切道通過前ニ列車ノ除行若ハ停止スヘキヤ否ヤ又ハ其位置ハ鐵道監督官廳ニ於テ認可官廳ト協議ノ上之ヲ定ム

(三)　待避線ノ閉鎖セラルルトキハ其運用及點燈ヲナササルコトヲ得

第二十條　列車ノ聯結數

(一)　一列車ノ聯結數ハ廣軌鐵道ニ在テハ八十車軸、一「メーテル」ノ狹軌鐵道ニ在テハ六十車軸、七五〇「ミリメーテル」及六〇〇「ミリメーテル」ノ狹軌鐵道ニ在テハ五十車軸ヲ超ヘサルモノトス

(二)　齒輪式線路ニ在テハ一列車ノ運送スルニハ唯一機關ヲ用ヒ又普通線路ニ在テハ夫レニ反シ列車ノ先頭ニ一機關ヲ附スルノ外尚ホ後部ニ一機關ヲ附スルコトヲ得但シ第二ノ塲合ニ在テハ單ニ貨物列

車ニ對スルカ若ハ旅客列車ノ停車場ニ入ルトキニ限ル

第二十一條　一列車ニ於ケル制動機ノ數

(一)　各列車ニハ機關ニ於ケル制動機ノ外尚ホ多クノ制動機ヲ使用スルカ又ハ左表ノ計算ニ從ヒ列車ニアル車軸ヲ制動シ得ル如キ方法ニ依ラサルヘカラス

勾配		一時間ニ對スル速度		
		15キロメーテル	20キロメーテル	30
千分ノ	割合	百軸ニ對スル制動軸數		
0	1=1000	6	6	6
2.5	1= 400	6	6	9
5.0	1= 200	6	7	12
9.5	1= 133	8	10	15
10	1= 100	10	13	18
12.5	1= 80	13	15	21
15	1= 66	15	18	24
17.5	1= 57	18	21	27
20	1= 50	20	23	31
22.5	1= 44	22	26	34
25	1= 40	25	29	37
30	1= 33	30	34	43
35	1= 28	34	39	49
40	1= 25	39	45	56

(二)　制動車輛數ヲ前表ニ依リ計算スル場合ニハ左ノ事項ニ注意スヘシ

(イ)　前表ニ揭ケタルモノノ中間ニアル運轉速度及勾配ニ對シ制動機數ニ疑ヒアルトキハ多數ヲ適用ス

(ロ)　間斷ナク一〇〇〇「メーテル」若ハ一〇〇〇「メーテル」以上ノ距離ニ亘ル最急勾配ニ對シテハ制動車輛數ハ別ニ定ムヘキモノトス

(ハ)　高坂ヲ有スル線路ヲ列車ノ登リ得ヘキ速度ハ適當ノ速度トシテ用ユヘキモノトス

(ニ)　現在ノ車輛ヲ計算シ竝亦所要ノ制動車輛ヲ定ムル場合ニ於テ積載セサル貨車車軸ハ半軸トシテ計算スヘシ○客車、郵便車及手荷物車ノ軸ハ常ニ一軸ヲ一軸ニ計算ス

(ホ)　制動車輛數計算ノ場合ニ於テ生シタル端數ハ若シ半軸ヨリ大ナルトキハ常ニ一軸トシ然カラサルハ切捨ツルモノトス

(三)　千分ノ四十以上ノ急勾配ヲ有スル線路ニ在テハ列車ノ制動機ニ關シ鐵道技術監督官廳ハ特別ノ規定ヲ發スヘキモノトス○長距離區間ヲ重力ニ依リ若ハ補助機關ヲ以テ運轉スル車輛及列車竝齒輪式線路及其他特種ノ構造ニ係ル線路ニ對スルモノニ關シ亦同樣ナリトス

(四)　制規ノ最大速度ノ場合ニ於テ車軸ノ幾部分カ各區間ニ於テ制動スヘキカハ書面ニ依リ停車場係員及列車係員ニ通知スヘキモノトス

第二十二條　列車ノ編成

列車編成ノ場合ニ於テハ各車輛ノ適宜ニ聯結シアルコト、各車負擔ノ平等ナルコト、必要ノ信號裝置ノ取附ケアルコト竝所要ノ制動機ノ使用ニ堪ヘ且ツ列車ニ平等ニ分配シアルコトニ注意スヘキモノトス

第二十三條　車輛ノ點燈

旅客運送ニ使用シタル車輛ノ內部ハ進行中暗キトキニ在テハ相當ニ點燈スヘキモノトス

第二十四條　制規ノ最大速度

(一) 列車及各機關ニ對スル制規ノ最大速度ハ一時間ニ付キ通例左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

軌間一、四三五「メーテル」ノ鐵道　三〇「キロメーテル」
軌間一「メーテル」ノ鐵道　三〇「キロメーテル」
軌間七五〇「ミリメーテル」ノ鐵道　二五「キロメーテル」
軌間六〇〇「ミリメーテル」ノ鐵道　二〇「キロメーテル」
齒輪式鐵道　一五「キロメーテル」

(二) 大運轉速度ハ工部大臣ノ認可ヲ得テ許可セラルルコトヲ得但シ交通上必要アルコトヲ證明シタルトキニ限ル○此場合ニ於テナスヘキ保安規程ノ補足ニ關シテハ工部大臣ノ決定スルトコロニ依ル

第二十五條　徐行

(一) 徐行ノ記號アルカ若ハ線路上ニ障害ヲ認メタルトキハ其場合ニ應シ運轉速度ヲ減セサルヘカラス

(二) 廻轉橋ノアル區間若ハ急曲線、急勾配若ハ其他ノ原因ヨリ常ニ特別ノ注意ヲ以テ運轉セサルヘカラサル區間ニ於テハ各列車ニ對スル最大速度ハ鐵道技術監督官廳之ヲ定ムヘキモノトス

第二十六條　列車ノ出發

(一) 列車ハ所轄係員ノ出發ヲ許可セサル前ニ停車場ヲ離ルルコトヲ得ス

(二) 一時間一五「メーテル」以上ノ運轉速度ノ場合ニ於テ定期列車ハ同一方向ニ出發スル他ノ列車ニ通例停車場ノ間ニ於テハ(先發列車ノ進行定時間經過ノ後)就中一時間五「メーテル」ヲ減シタル速度ヲ以テ隨進セサルヘカラス○通視シ得ヘカラサル若ハ强勾配ヲ有スル區間竝天候不穩ノ場合ニ對シテハ鐵道技術監督官廳ハ其他ノ制限ヲ定ムルコトヲ得

第二十七條　特別仕立列車

關係停車場竝當番ノ線路監視人ニ豫メ通知セサル特別仕立列車及各機關ハ一時間一五「キロメーテル」以上ノ速度ヲ以テ進行スルコトヲ得ス

第二十八條

先頭ニ牽引機關ノアラサル列車ノ停車場外ノ線路ニ於ケル推進ハ聯結車數ノ四十軸以上ヲ超ヘス且ツ一時間一五「キロメーテル」ノ速度ヲ超過セサルトキニ許スモノトス○先頭車輛ニハ監視人ノアラサル踏切若ハ然ラサルモ必要アル場所ノ前方ニ於テ鈴、喇叭若ハ其他ノモノニ依リ警戒合圖ヲナスヘキ係員ヲ乘込マシムヘキモノトス○齒輪式線路ニ在テハ當該規定ハ鐵道技術監督官廳ヨリ發スヘキモノト

ス

第二十九條　案內員

案內員ハ進行中ハ　或ル係員ノ指揮ニ從フモノトス

第三十條　停止セル機關及車輛

(一)運轉準備ノアル停止セル機關ハ常ニ監視ヲ附スヘキモノトス

(二)充分ノ監視ヲ附セサル車輛竝終夜線路上ニ停止スル車輛ハ適當ノ裝置ヲ以テ動カサル如クニナシ置クヘキモノトス

第三十一條　機關ニ同乘スルコト

係員ノ外何人タリトモ所轄職員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ機關ニ同乘スルコトヲ得ス

第三十二條　信號笛等ノ使用

(一)汽笛若ハ握笛ノ使用ハ第三十八條ニ定メタル信號竝非常ノ場合ニ限ルヘキモノトス

(二)公共交通用道路ノ附近ニ於テハ特ニ機關備付ノ響音器若ハ他ノ警戒合圖ヲ使用スヘキモノトス○此ノ如キ場所ニ於テ蒸汽機關車ノ圓筒（チリンデルハーン）ノ開放ハ避クヘキモノトス

第三十三條　機關ノ運轉

(一)機關ノ運轉ハ制規ノ試驗ヲ受ケ所要ノ技術上ノ能力及確實ナルコトノ證書ヲ得タル者ニ任スヘキモノトス

(二)機關ノ使用ハ鐵道技術監督官廳ノ同意ヲ得テ運轉手一人ニ任スルコトヲ得但シ機關及車輛間ノ通行ノ出來得ルカ若ハ運轉手ノ外列車ヲ停止セシムルコトヲ解スル一人ノ列車係員ノ列車內ニアルトキニ限ル

第三十四條　例外ノ機關

蒸汽力ヲ以テ運轉スル機關以外ノ機關ヲ使用スルトキハ其狀態、保存及取扱ニ對シ守ルヘキ保安規程ハ鐵道技術監督官廳ニ於テ各企業ニ付特ニ定ムヘキモノトス其他ニ在テハ適用上疑ノ存セサル限リハ前條及後條ノ規定ヲ其儘適用シ又必要アルトキハ變更若ハ補充ヲナスヘキモノトス

第五　信號法

第三十五條　停車場間ノ合圖

鐵道技術監督官廳ハ運轉ノ安全ヲ計ル爲メ各停車場間ノ合圖ヲナス設備ヲ命スルコトヲ得但シ定期運轉上二列車若ハ二個以上ノ列車カ對向ノ進行方向ニ運轉スルカ若ハ其他ノ顧慮ヨリ必要ト認メタルトキニ限ル

第三十六條　線路信號

線路上ニ在テハ左ノ信號ヲナサヽルヘカラス

列車ノ徐行スヘキ信號

列車ノ停止信號

第三十七條　列車信號

各進行セル列車ハ晝間ハ列車ノ後尾ヲ又夜間ハ列車ノ先頭及後尾ヲ認ムルヲ得ヘキ信號ヲ備フルヲ要ス本項ノ規定ハ亦各單行機關ニモ適用ス

第三十八條　運轉手ノ信號

運轉手ハ左ノ信號ヲ與ヘサルヘカラス

注意信號

制動機締結信號

制動機緩解信號

又運轉手モ自ラ制動機ヲ締結シ若ハ緩解スルヲ得サルヘカラス

第三十九條　信號規程

色別信號ヲ用ユルトキハ白色、綠色及赤色ヲ使用シ殊ニ赤色ハ停止信號ニ使用スヘキモノトス

第四十條　作業ノ指揮

鐵道ノ維持及作業ノ指揮ニ任セラレタル者ハ鐵道技術監督官廳竝所轄縣支廳長（若ハ警視總監）ニ姓名ヲ屆出テ又總テノ變更ハ此等ノ官廳ニ屆出ツヘキモノトス

第四十一條　職務章程及職務監督

(一) 外部勤務ニ從事スル職員ニハ其職務及職員相互ノ關係ニ付筆記セル若ハ印刷セル章程ヲ配付スヘキモノトス○此章程ノ屆出ヲ受ケタル鐵道技術監督官廳ハ章程カ輕便鐵道作業上ノ保安ヲ保證スルニ足ラサルモノト認メタルトキハ否認スルコトヲ得○此官廳ハ外部勤務職員ノ試驗ヲ求メ亦推定ニ依リ技術上ノ能力ナキモノト認メタル者ヲ解職セシムヘキ權ヲ有ス

(二) 鐵道技術監督官廳ノ權限ハ職務契約ニ於テ定ムヘキモノトス

(三) 鐵道技術監督官廳ハ其監督權執行ノ場合ニ於テ鐵道職員ノ解職若ハ企業組織ノ變更ニ對シ必要ナル現行規定ノ根本的改正ニ關スル決定ヲナスニハ所轄縣支廳長ノ意見ヲ確メ又ハ急速ヲ要スル場合ニハ追認ヲ求ムヘキモノトス

第六　附則

第四十二條

(一) 本規程ハ帝國及聯邦官報、內務省公報、鐵道法令公報、土木管理中央公報、輕便鐵道雜誌竝普國公報ヲ以テ公布ス

(二) 本規程ハ既ニ認可シタル輕便鐵道ニ對スルモ企業者ノ認可狀規程ノ權利ヲ妨ケサル範圍內ニ於テ適用ス○此鐵道ニ對シ本規程ニ牴觸スル規定ノ適用ヲ接續スルニハ鐵道技術監督官廳ノ設可ヲ要ス

(三) 其他本規程ニ於テ既ニ許可セル除外規定及認可官廳若ハ鐵道技術監督官廳ノ定ムヘキ除外規定ニシテ此規程ニ依リ作業スル輕便鐵道ニ關スルモノハ工部大臣之ヲ許可ス但シ作業上必用アルコトヲ證明シタル塲合ニ限ル

千八百九十八年八月十三日

「ベルリン」ニ於テ

工部大臣

輕便鐵道列車ノ最高速度

（千八百九十七年二月九日工部省令）

千八百九十二年七月二十八日ノ輕便鐵道及私設專用鐵道規則第十四條ニ關スル千八百九十二年八月二十二日ノ施行規程ニ從ヒ輕便鐵道列車ノ最高速度ハ副鐵道ニ對シ許シタル最高速度ヲ超エサルコトニ注意セサルヘカラス

千八百九十二年七月五日ノ獨逸副鐵道運轉及建設規程第二十七條ハ副鐵道ノ高速度ノ一時間三十基米突トシ一定ノ條件ヲ設クルトキハ廣軌條ニ在テハ一時間四十基米突迄ヲ許可スルコトニ規定セリ

輕便鐵道ニ於テ特ニ一時間三十基米突以上ノ速度ヲ以テ運轉セサルヘカラサルトキハ免許狀ニ相當ノ條件ヲ規定シテ之ヲ許可セサルヘカラス此場合ニ於テハ所轄地方廳ハ工部大臣ノ指定シタル鐵道官衙ト協議ノ上必要ト認ムル條件ヲ定メ輕便鐵道ノ一覽圖、平面圖及斷面圖竝運輸上高速度ノ必要トスル說明書ヲ附シテ（免許狀ニ條件ヲ記入スル前ニ）工部大臣ニ上申シ決議ヲ受クヘシ

輕便鐵道ニ於ケル運輸上ノ恩惠

（千九百一年三月十四日工部省令）

本大臣ハ客年七月二十八日及千八百九十三年十二月七日ノ達ニ從ヒ慈善及公共ノ目的ヲ以テスル運輸上ノ恩惠ハ一般ニ不可能ニアラサルコトヲ注意ス

即チ運輸上ノ恩惠殊ニ運賃ノ割引及全免ハ千八百九十二年七月二十八日ノ輕便鐵道及私設專用鐵道規則第二十一條ニ準據シ且ツ千八百三十八年十一月三日ノ鐵道企業法ニ依リ認可シタル鐵道ニ適用スル原則ニ一致セル限リハ一定ノ目的ヲ定メテ割引又ハ全免ヲ一般ニ施行シ且ツ之ヲ公平セル塲合ニ行フコトヲ得ルモノトス

割引又ハ全免ノ公平竝監督官廳ヘノ屆出方ハ輕便鐵道規則第十四條及第二十一條ニ關スル千八百九十八年八月十三日ノ施行命令中輕便鐵道運賃等ニ一般ニ適用スル規定定ニ從ヒ行フヘシ

監督官廳ハ運賃ノ割引又ハ全免ハ公平均一ニシテ前記ノ法律若クハ原則ニ普及セサルヤ否ヤヲ監査スヘシ

前記ノ割引又ハ全免ハ監督官廳ノ認可ヲ要セス

機關力ニ依リ運轉スル市街鐵道警察規程

（千九百六年草案）

第一　市街鐵道運輸ノ防護

第一條　市街鐵道、附屬營造物、車輛及附屬物件ノ毀損又ハ運轉ニ妨害ヲ與フヘキ行爲ハ之ヲ禁ス

第二條　一般警察規程ニ違反セサル塲合ト雖荷車ノ線路縱行（タテニユクコト）ヲ禁ス但シ軌道敷地外ニ通行路ノ存セサルトキハ此限リニアラス

第三條　警鈴ヲ鳴シタルトキハ線路上ニアル通行人、騎者、家畜引卒者、自轉車乘及車輛ハ直チニ線路ヲ去ルヘシ

前項ノ規定ハ行進軍隊、葬式其他ノ行列職務執行中ニアル郵便車竝蒸汽「ポンプ」ニハ之ヲ適用セス

第四條　市街鐵道車輛ノ停留塲ニ停車シタルトキハ其附近ニアル騎者及車輛ハ速力ヲ減シ且ツ乘客ノ昇降ヲ妨ケサル樣相當ノ間隔ヲ取ルヘシ

第五條　通行免許證ヲ有セスシテ公道外ニアル線路ヲ通行シ得ル個所ハ踏切ニシテ且ツ閉鎖シアラサルカ又ハ列車若クハ鐵道車輛ノ接近セサル塲合ニ限ル

列車ノ接近セルトキハ線路ヲ通行スル車輛騎者通行人、家畜引卒者、又ハ駄獸ハ線路ヨリ相當ノ距離ヲ取リ殊ニ警標ノ存在スル塲所ニ在テハ此ノ所ニ停止スルカ又ハ速ニ線路ヲ去ルヘシ

猥リニ門柵ヲ開放シ又ハ其開閉ヲ妨クルヲ禁ス

第二　乘客ニ關スル規定

第六條　猥リニ車扉ヲ開キ又ハ昇降場ノ胸壁ニ坐シ若クハ滿員車ニ乘ルコトヲ禁ス
乘降ハ指定ノ車側ニ限リ爲スヘシ

第七條　疾病、酩酊及其ノ他ノ擧動若クハ原因ニ依リ乘客ニ迷惑ヲ及ホスヘキ者ニシテ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ下車スヘシ

第八條　喫煙竝ニ火ノ附キタル煙管及卷煙草草ノ携帶ハ車室外又ハ喫煙ノ爲ニ設ケタル車輛若クハ車室ニ限リ之ヲ許可ス

第九條　裝塡シタル銃器竝活大ナル又ハ惡臭アル若クハ不潔ナル物品ニシテ同乘者ニ迷惑ヲ及ホスヘキモノ及容易ニ發火ノ危險アル物品ハ客車若クハ客車室內ニ携行スルコトヲ得ス又携帶荷物ノ爲メ車內ノ通行ヲ妨クヘカラス

犬及其他ノ獸類ハ左ノ場合ニ限リ携行スルコトヲ得

(イ)　小犬及其他ノ獸類ニシテ携行者ノ膝ノ上ニ乘セ且ツ同乘者ニ迷惑ヲ及ホサヽルトキ

(ロ)　獵犬ニシテ監督官廳ノ發シタル特別規定ニ從ヒ其輸送ヲ許可シタルトキ

第十條　秩序及運輸狀態ヲ維持スル爲メ鐵道係員ノナシタル警告ニ從ハサル旅客ハ係員ノ請求ニ因リ即時又ハ次ノ停留場ニ於テ下車スヘシ

第三　運轉職員ノ義務

第十一條　車輛、騎者、自轉車乘若クハ通行人ノ線路上ニアルトキ又ハ之ニ接近セルトキハ運轉手ハ警報ヲ與ヘテ徐行シ又人命及物件ニ對シ危害ヲ避クルノ必要アル場合ニハ停車スヘシ

第十二條　運轉手ニシテ自己ノ位置ヲ離ルル場合ニハ制馭機ノ曲柄ヲ扳キ制動機ヲ緊メ又必要トスル場合ニハ其他ノ裝置ヲ使用シテ車輛ノ自動若クハ他人ノ運轉シ能ハサル樣ニ防護スヘシ

第十三條　監督官廳ニ於テ許可シ明ニ公告シタル場合ヲ除クノ外車輛座席ノ定員外ニ乘車セシムルコトヲ得ス

第四　罰則

第十四條　本規程ニ違反シタルトキハ六十「マルク」以下ノ罰金ニ處シ若シ納付スルコト能ハサルトキハ換刑處分ヲ以テ禁錮ニ處ス但シ現行法ニ依リ本條以上ノ重キ刑ニ處セラルルトキハ此限リニアラス

貨物運搬ノ用ニ供スル輕便鐵道ニ於ケル運送禁制品及條件附運送品

（千九百二年五月十四日工部省令）

調査ノ結果貨物運搬ノ用ニ供スル輕便鐵道ニ於テモ獨逸ノ各本鐵道ニ適用スル千八百九十九年十月二十六日ノ鐵道運輸規程第五十條及乙號附錄ニ定メタルト同一ノ原則ニ基キ運送禁制品及條件附運送品ヲ設ケ之ヲ輕便鐵道ノ運送規程中ニ定ムルコトトセリ

輕便鐵道及本鐵道間ノ聯絡運輸ニ於テハ殊ニ鐵道運輸規程第五十條ノ規定ヲ適用スル必要アリ又一般ノ希望竝衛生上ノ保安及秩序ニ關スル利益ノ點ヨリモ此規定ヲ輕便鐵道ニ適用シ又免許狀ニモ其旨ヲ記載シテ公法上ノ意味ヲ具フルヲ適當トス

各地方長官ハ將來貨物運搬ノ用ニ供スル各輕便鐵道ニ對シ千八百九十九年十月二十六日ノ鐵道運輸規程第五十條ノ運送禁制品及條件附運送品ニ關スル規定及同規程乙號附錄ノ規定ヲ免許狀ニ規定スヘシ

既ニ認可シタル輕便鐵道ニ對シ前揭ノ規定ヲ免許狀ニ追加セシムルニハ當該企業者ト協議ノ上之ヲ行ヒ又此追加ニ關スル告示ハ成ルヘク全輕便鐵道ニ對シ一般ニ之ヲ發布スヘシ

追加ニ關シ企業者トノ協議ハ左程困難ニハアラサルヘキモ若シ多少ノ困難アリトセハ企業ノ變更若クハ擴張認可ノ際ヲ利用シテ之ヲ行フヘシ

運輸規程第五十條及乙號附錄ニ加除改正アリタルトキハ地方廳公報ニ揭載スルト同時ニ之ヲ當該輕便鐵道ニ對シ適用スルハ勿論ナリトス

輕便鐵道企業者ハ此免許狀ノ規定ヲ運送規程ニ載スヘシ

各輕便鐵道ニ對シ鐵道運輸規程及乙號附錄ノ規定ヲ除外スル場合ハ其都度監督官廳ニ於テ之ヲ斟酌スヘシ

輕便鐵道ヨリ除外許可ノ申請アリタル場合ニ於テ運轉上ノ保安若クハ一般警察事項ニ關シ問題ヲ生シタルトキハ本大臣ノ裁決ヲ經ヘシ

該申請書ニハ輕便鐵道ヲ管轄スル監督官廳ノ意見ヲ附シテ提出スヘシ

免許狀ノ規定ヲ遵守セシムル爲輕便鐵道規則ニ定メタル監督官廳殊ニ王國鐵道管理局ハ輕便鐵道ノ發送及運轉事務ヲ監督審査スヘシ

輕便鐵道ニ本鐵道ノ車輛ヲ超移スル一般ノ條件

（千九百年五月七日工部省令）

第一條　總則

一、輕便鐵道線路ニ貨車ノ超移ハ左記ノ一般ノ條件ニ基キ之ヲ許可ス但シ場合ニ依リ許可ヲ取消スコトアルヘシ

二、貨車ノ超移ハ輕便鐵道ノ上部工事ニシテ六千「キログラム」以上ノ車輛ノ壓力ニ堪ユル場合ニ限リ之ヲ許可ス（千九百年一月三十一日ノ國有鐵道停車場内ニ輕便鐵道線路ヲ引込ムヘキ一般ノ條件第十九條第一項ヲ參看スヘシ）

三、四米突半ノ軸距ヲ有スル車輛ノ超移ハ輕便鐵道線路ニ百五十米突以下ノ曲線半徑ノ存在セサル場合ニ限ル

四、異軌幅車輛積載車ヲ用ヒテ狹軌輕便鐵道線路ニ標準軌間ノ車輛ヲ超移スル場合ニ於ケル技術上ノ想定及條件竝其運轉區間ノ制限ハ特別ノ協定ニ依ル

五、數箇ノ鐵道管理局ノ線路ニ輕便鐵道ヲ接續セシムル場合ニハ工部大臣ハ輕便鐵道ト超移條件ヲ協定スヘキ管理局ヲ指定ス

第二條　輕便鐵道ニ於ケル車輛調製ノ義務竝國有鐵道車輛中ニ輕便鐵道調製車輛ノ編入

一、輕便鐵道線路上ニ標準軌間ノ貨車ヲ超移スル場合ニハ其線ノ運輸ノ割合ニ應シ標

準軌間ノ貨車ヲ調製セサルヘカラス（但シ本條第七號ノ除外例アリ）

前項ノ車輛ニシテ特ニ輕便鐵道線内ノ運輸ニ使用セサル限リハ之ヲ國有鐵道ノ車輛中ニ編入ス

二、新ニ開業セントスル輕便鐵道ニ在テハ最初ノ四ケ年ニ對シ調製スヘキ標準軌間ノ貨車ノ數ハ認可手續中豫算調査ノ場合ニ於テ輕便鐵道ト協議シテ之ヲ定ム

三、既ニ開業セル標準軌間ノ輕便鐵道ニ在テハ其調製シテ國有鐵道車輛中ニ編入スヘキ貨車ノ數ハ（有蓋及無蓋共）一般ニ一ケ年内ニ輕便鐵道線ニ入リタル車輛ノ平均數ニ從ヒ査定ス其計算法左ノ如シ

四、分岐驛ニ於テハ絕エス車輛使用料計算ノ爲ニ作ル調書ニ基キ無蓋及有蓋貨車ヲ區別シ又要スレハ特種ノ車輛構造ヲ區別シテ表ヲ作リ之ニ依リ各車輛ノ輕便鐵道線路ニ滯在セル時間ヲモ調査シ每營業年度末ニ於テ輕便鐵道線路ニ入リタル各種ノ車輛數及其ノ滯在時間ヲ決定シ然ル後輕便鐵道線ニ入リタル各種ノ車輛總數ハ之ヲ三百六十五日ニ分配シテ一日平均ノ入車數ヲ定メ又總滯在時間ハ之ヲ入車總數ニ分配シテ一車ニ對スル平均滯在時間ヲ定メ此兩數即チ平均入車數及平均滯在時間數ヲ幾倍シテ輕便鐵道ノ所用貨車數トス但シ其得タル計數ニ端數ヲ生シタルトキ四捨五入ス

五、輕便鐵道ニ於テ特種ノ構造ヲ備フル車輛ニ積載スル貨物ニシテ一定期間内引續キ規則正シク運送ヲ繼續スル場合ニハ輕便鐵道ハ此種ノ車輛ヲ所要ニ應シテ調製スルノ義務ヲ有ス

六、輕便鐵道ヨリ國有線ニ於ケル一定ノ停車場ヘ向ケ常ニ發送スル定時輸送貨物ニ關シ（例令ハ製造

場へ送ル食糧）輕便鐵道ハ此輸送ニ用ユル車輛ヲ用意シ且ツ之ニ相當ノ記號ヲ附スヘキ協定ヲナスコトヲ得

此輕便鐵道ノ行爲ニ對スル報酬ハ別ニ之ヲ定メ又其車輛ハ國有鐵道車輛中ニ編入セス

七、移入レタル車輛ヲ專用停車場ニ適用スル積卸時間內ニ返送シ得ル狀態ニアルモノ若クハ國有鐵道トノ運輸ニ於テ常ニ車輛ノ超移關係ヲ有セサル輕便鐵道ハ其線內ニ於ケル運輸以外ノ用ニ供スル車輛ヲ調製スルノ義務ヲ有セス

第三條　輕便鐵道ニ於ケル車輛ノ增減

國有鐵道車輛中ニ編入シタル車輛數ハ輕便鐵道ニ於ケル運輸ノ程度ニ相當セルヤ否ヤヲ四ケ年毎ニ之ヲ調査シ前四ケ年間ニ於ケル車輛平均需要數ハ尙ホ次期ノ四ケ年ノ需用數ニ適合セルヤ否ヤヲ定ム中間期ニ在テハ編入車輛數ノ變更ハ輕便鐵道網ノ增減大製造場ノ開業若クハ閉鎖又ハ其他ノ原因ニ依リ車輛ノ增減ニ多大ノ必要ヲ生シタル場合ニ限リ行フコトヲ得

第四條　車輛ノ構造

一、輕便鐵道ノ調製ニ係リ國有鐵道車輛中ニ編入スル車輛ハ其構造殊ニ積載力ニ關シテハ國有鐵道ノ標準ニ依ラサルヘカラス又其三分ノ一ハ制動機ヲ備フヘシ

二、超移契約ヲ締結スル王國鐵道管理局ハ輕便鐵道ノ調製ニ係ル車輛ニ付技術上ノ檢查ヲ行ヒ國有鐵道車輛中ニ編入シ得ルヤ否ヤヲ決定ス

第五條　輕便鐵道車輛ノ調製及編入時期

一、輕便鐵道ハ國有鐵道ノ請求ニ依リ調製スヘキ車輛ヲ其年內ニ必要ニ應シ國有鐵道車輛ニ編入ノ爲メ提供スルノ義務ヲ有ス

二、前項ノ期限內ニ車輛ヲ國有鐵道ニ提供セサルトキハ輕便鐵道ハ遲延料トシテ遲延日數一日車輛一車ニ付二「マルク」ヲ仕拂フヘシ

第六條　國有鐵道車輛ニ編入シタル輕便鐵道車輛ノ使用料

一、輕便鐵道車輛ヲ國有鐵道車輛ニ編入シタルトキハ國有鐵道ハ自己ノ車輛同樣之ヲ使用スルノ權ヲ有ス之カ爲メ國有鐵道ハ每年編入車輛製造費ノ百分ノ四ニ相當スル使用料ヲ輕便鐵道ニ仕拂フヘシ

二、輕便鐵道ノ停車場專用車トシテ國有鐵道車輛ニ編入シタル專用車ニ對シテハ使用料ヲ仕拂フコトナシ（第八條參看）

三、編入車輛ニシテ破損若クハ自然ノ磨損又ハ一ケ月以上ヲ要スル修繕ノ爲メ運轉ヲ休止シタルトキハ使用料ノ年額ト車輛ノ運轉日數トノ割合ニ依リ破損又ハ運轉休止ノ日迄使用料ヲ仕拂フモノトス

第七條　輕便鐵道車輛ノ超移料

一、車輛ヲ國有鐵道車輛ニ編入シタル輕便鐵道ハ其線路ニ超移シタル車輛ヲ受付後二十四時間內ニ國有鐵道ヘ向ケ返送シタルトキハ使用料ノ仕拂ヲ免セラル、モノトス但シ滯泊二十四時間以上ニ渡リタルトキハ超過時間一時間每ニ十「ペンニツヒ」ヲ仕拂フヘシ

二、貨物ヲ積載シテ輕便鐵道ニ入線シ荷卸ノ後更ニ積載シテ國有鐵道ヘ向ケ返送スル車輛ニ在テハ滯泊二十四時間ヲ過クルモ尚相當ノ時間内使用料ヲ免除スルコトアルヘシ

三、中間ニ日曜若クハ大祭日ノ挾マリタルトキハ無料滯泊制限時間ノ進行ヲ停止ス

無料滯泊制限時間經過後ハ又日曜若クハ大祭日ニ相當スルモ均シク使用料ヲ徴收ス

四、車輛ヲ國有鐵道車輛ニ編入セサル輕便鐵道ハ(第二條第七號)車輛使用料ヲ仕拂ハサルモ運賃表ニ定メタル積卸時間ヲ經過シタルトキハ車輛留置料ヲ仕拂フヘシ

前項ノ輕便鐵道ニ對シテ積卸ノ時間ヲ短縮スルコトアルヘシ

五、國有鐵道ハ其線路又ハ第三者ノ線路ヲ輕便鐵道ノ車輛ヲ運轉セシムル場合ニ於テモ使用料ノ仕拂ヲナサス

第八條　輕便鐵道專用車ノ無賃使用期間

一、輕便鐵道ノ停車場專用車トシテ國有鐵道車輛ニ編入シタル專用車ノ滯泊ニ對シテハ使用料ヲ徴收セス國有鐵道ノ停車場專用車トシテ編入シタル車輛ニ對スルモ亦同シ

二、總テ其他ノ專用車ニ在テハ輕便鐵道線路ハ超移シタル時ヨリ計算シテ第七條ニ定メタル使用料ヲ徴收ス但シ專用槽車(タンク)ニ在テハ無料滯泊期間ハ三日トス

第九條　家畜ヲ積載シタル車輛ノ消毒

一、家畜ヲ積載シテ輕便鐵道線路ニ到着シタル車輛ノ消毒ハ輕便鐵道ニ消毒所ヲ設置アラサル限リハ

一定ノ國有鐵道停車場ニ於テ之ヲ執行シ又千八百七十六年二月廿六日ノ法律及同施行規則ニ依ル消毒ハ同ク一定ノ國有鐵道停車場ニ於テ之ヲ執行ス

二、特ニ輕便鐵道線内ノ運輸ニ於テ家畜輸送ノ爲ニ使用シタル車輛ノ消毒ハ再ヒ積載スル前ニ前號ノ方法ニ依リ消毒スヘシ

三、運賃表ニ定メタル消毒料ノ外消毒ノ爲メ車輛ノ停止セル時間ニ對スル料金ハ地方ノ狀況ニ應シ特別ノ協議ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　車輛ノ交付及受入

一、輕便鐵道線路ヘ向ケ車輛ノ送達又ハ輕便鐵道線路ヨリ車輛ノ廻送ハ通例國有鐵道ニ於テ無償ニテ之ヲ行フ

二、特別ノ關係ヨリ特ニ料金ヲ徴收スル場合ニハ特ニ協議ノ上之ヲ定ム

三、約束シタル時期迄ニ車輛ヲ隣區鐵道ノ添附紙票ト共ニ提供シタルトキ車輛ノ受渡ヲ了シタルモノト看做ス車輛受入線ニ於テ一時送致シタル車輛受入ノ準備出來シ若クハ其他ノ設備及裝置ニシテ受入ニ差支ヲ生シタルトキモ亦同シ

但シ輕便鐵道ノ請求シタル空車ニシテ請求以前ニ送達シアル場合ニハ請求シタル日ヲ以テ引渡ヲナシタルモノト看做ス

第十一條　車輛ノ返送